

女性の人権・男女平等教育について

問12 <メディアにおける女性の人権侵害>

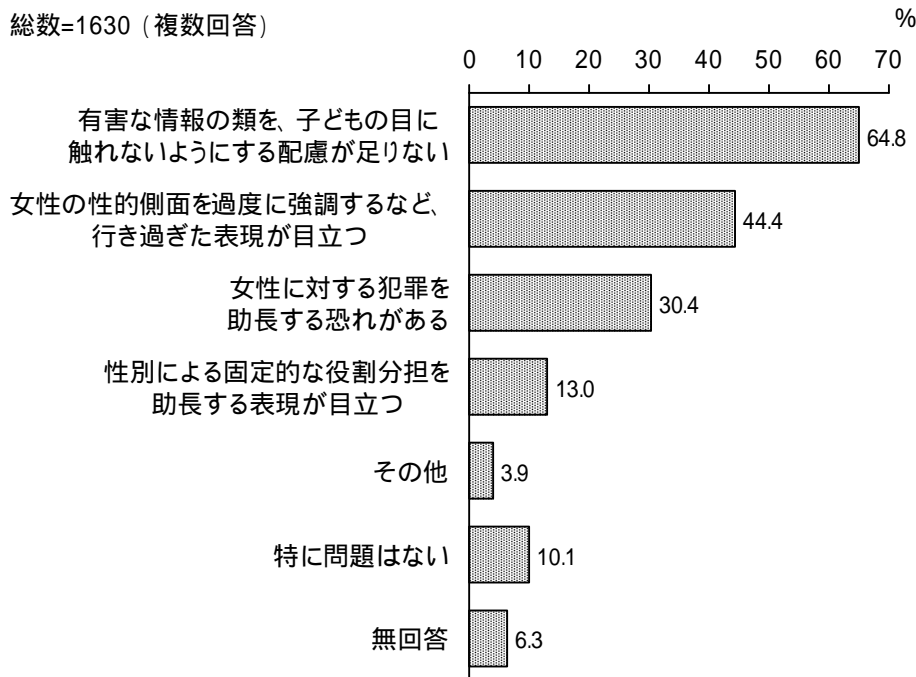
女性の人権侵害という立場から、最近のメディア（テレビ、映画、新聞、雑誌など）についてあなたの考えに近いものを次の中から選んでください。

（当てはまるものすべてに ）

- 1．有害な情報の類を、子どもの目に触れないようにする配慮が足りない
- 2．女性の性的側面の過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ
- 3．女性に対する犯罪を助長する恐れがある
- 4．性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ
- 5．その他（ ）
- 6．特に問題はない

メディアにおける女性の人権侵害については、「有害な情報の類を、子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」が最も多く64.8%、次いで、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」が44.4%でした。

図12-1 メディアにおける女性の人権侵害について



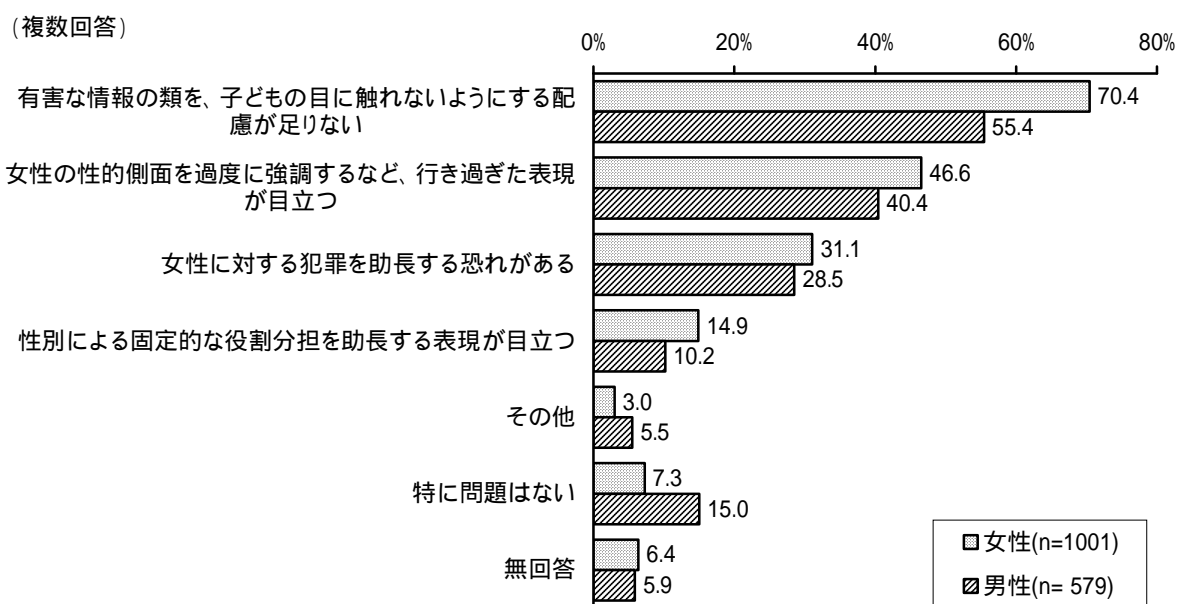
メディアにおける女性の人権侵害について

項目名【5つまでの複数回答】	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
有害な情報の類を、子どもの目に触れないようにする配慮が足りない	1057	64.8
女性の性的側面の過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	724	44.4
女性に対する犯罪を助長する恐れがある	496	30.4
性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ	212	13.0
その他	64	3.9
特に問題はない	165	10.1
無回答	103	6.3

メディアにおける女性の人権侵害について、性別にみると、女性では、「有害な情報の類を、子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」が最も多く70.4%、次いで、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」が46.6%、「女性に対する犯罪を助長する恐れがある」が31.1%でした。

一方、男性でも、「有害な情報の類を、子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」が最も多く55.4%、次いで、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」が40.4%、「女性に対する犯罪を助長する恐れがある」が28.5%でした。

図12-2 メディアにおける女性の人権侵害について / 性別



メディアにおける女性の人権侵害 【5つまでの複数回答】

		全体	有害な情報の類を、子どもの目に触れないようにする配慮が足りない	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	女性に対する犯罪を助長する恐れがある	性別による役割分担を助長する表現が目立つ	その他	特に問題はない	無回答
全体		1630 100.0	1057 64.8	724 44.4	496 30.4	212 13.0	64 3.9	165 10.1	103 6.3
性別	女性	1001 100.0	705 70.4	466 46.6	311 31.1	149 14.9	30 3.0	73 7.3	64 6.4
	男性	579 100.0	321 55.4	234 40.4	165 28.5	59 10.2	32 5.5	87 15.0	34 5.9
	無回答	50 100.0	31 62.0	24 48.0	20 40.0	4 8.0	2 4.0	5 10.0	5 10.0

問13 <DV（配偶者からの暴力）の有無>

現在結婚している方（婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の生活を送っている方も含みます）と過去に結婚の経験のある方にお聞きします。（該当されない方は問18へ）

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（DV防止法）が平成16年12月に改正されました。

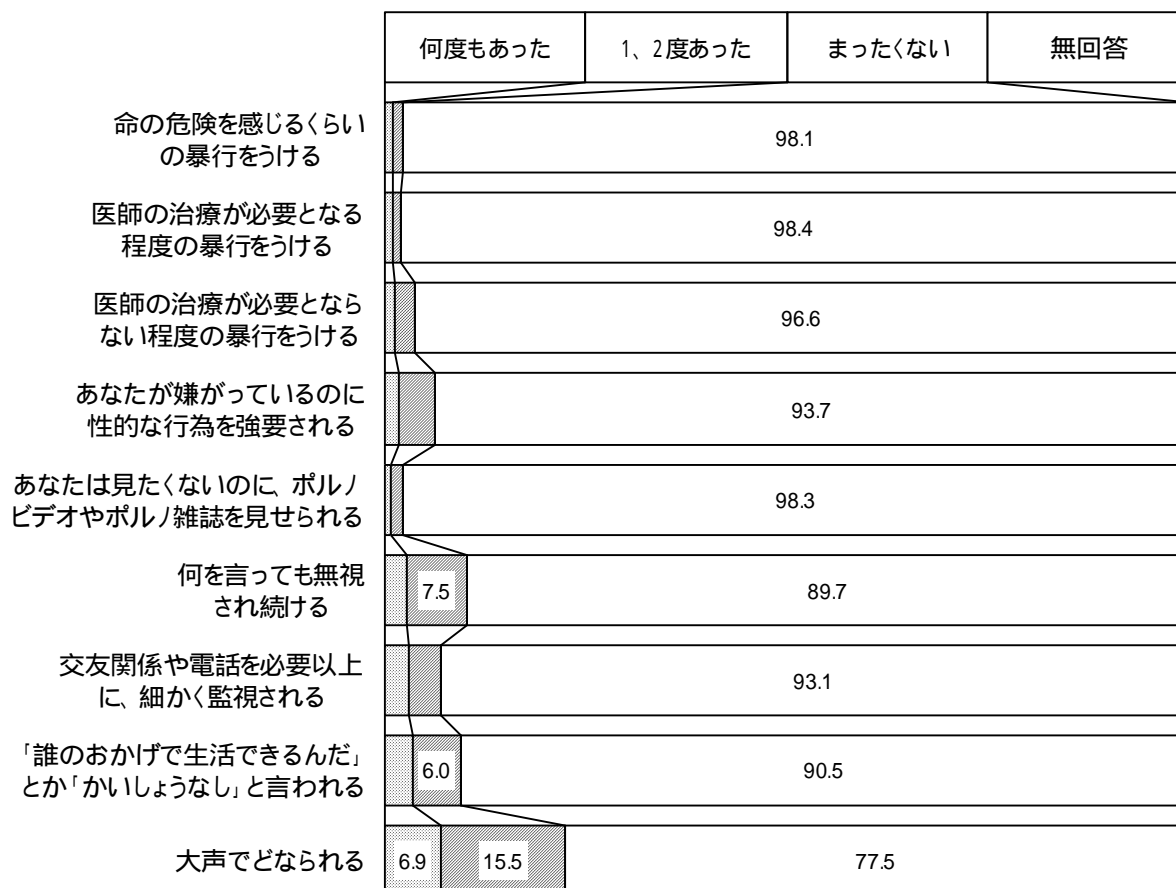
あなたは、最近の3年間に、あなたの配偶者（事実婚や別居を含む）から、次のようなことをされたことはありますか。

（ア）から（ケ）のそれぞれについてお答えください。（それぞれひとつだけに）

DV（配偶者からの暴力）の有無については、「何度もあった」或いは「1、2度あった」と回答した方の割合が最も多かったのが、「大声でどなられる」で22.4%、次いで、「何を言っても無視され続ける」が10.4%、「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる」が9.4%、「交友関係や電話を必要以上に、細かく監視される」が6.9%でした。

図13-1 DVの有無について

単位:%(5%未満非表示)



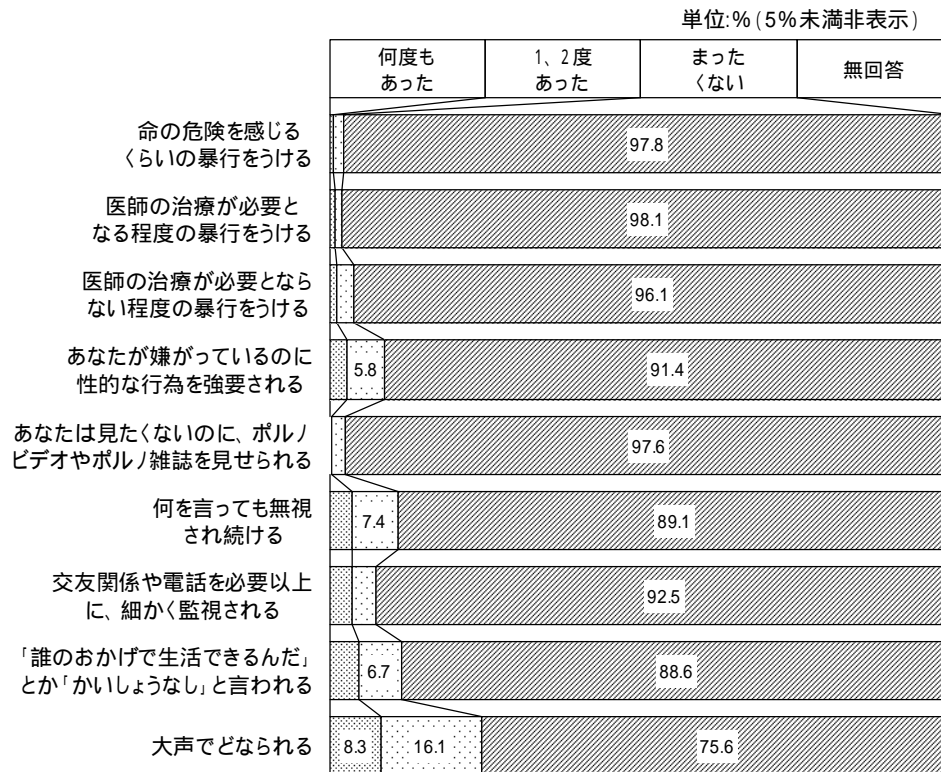
(注)5%未満数値:命の危険を感じるくらいの暴行(0.6 1.4 -) 医師の治療が必要となる程度の暴行(0.6 1.0 -) 医師の治療が必要とされない程度の暴行(0.9 2.6 -) 性的な行為を強要される(1.9 4.4 -) ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる(0.2 1.5 -) 何を言っても無視され続ける(2.9 -) 交友関係や電話を必要以上に細かく監視される(2.9 4.0 -) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる(3.4 -) 大声でどなられる(-)

DVの有無/全体

	全体	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
命の危険を感じるくらいの暴行を受ける	1026 100.0	6 0.6	14 1.4	1006 98.1	- -
医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける	1019 100.0	6 0.6	10 1.0	1003 98.4	- -
医師の治療が必要とされない程度の暴行を受ける	1016 100.0	9 0.9	26 2.6	981 96.6	- -
あなたが嫌がっているのに性的な行為を強要される	1016 100.0	19 1.9	45 4.4	952 93.7	- -
あなたは見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	1013 100.0	2 0.2	15 1.5	996 98.3	- -
何を言っても無視され続ける	1015 100.0	29 2.9	76 7.5	910 89.7	- -
交友関係や電話を必要以上に、細かく監視される	1023 100.0	30 2.9	41 4.0	952 93.1	- -
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる	1025 100.0	35 3.4	62 6.0	928 90.5	- -
大声でどなられる	1036 100.0	72 6.9	161 15.5	803 77.5	- -

DV（配偶者からの暴力）の有無について、性別で見ると、女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」との合計が最も多かったのが、「大声でどなられる」で24.4%、次いで、「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる」が11.4%、「何を言っても無視され続ける」が10.9%でした。

図13-2 DVの有無について(女性)



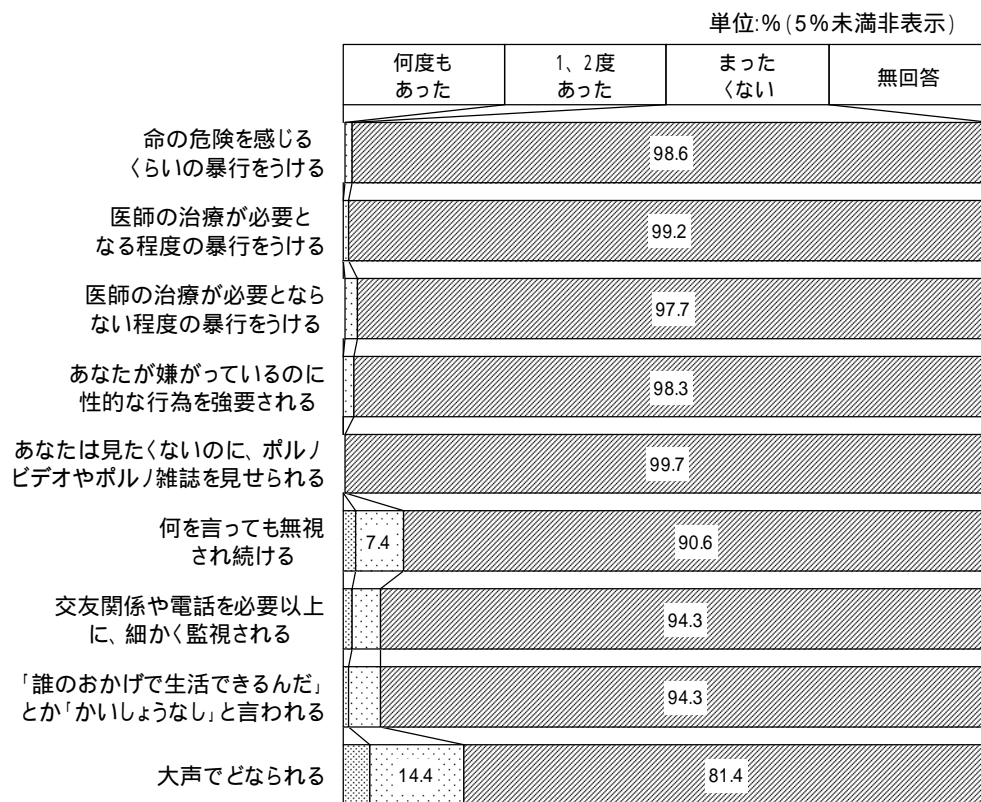
(注)5%未満数値:命の危険を感じるくらいの暴行(0.6 1.6 -)医師の治療が必要となる程度の暴行(0.8 1.1 -)医師の治療が必要とならない程度の暴行(1.1 2.8 -)性的な行為を強要される(2.8 -)ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる(0.3 2.1 -)何を言っても無視され続ける(3.5 -)交友関係や電話を必要以上に細かく監視される(3.4 4.1 -)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる(4.7 -)大声でどなられる(-)

DVの有無/女性

	全体	何どもあった	1、2度あった	まったくない	無回答
命の危険を感じるくらいの暴行をうける	641 100.0	4 0.6	10 1.6	627 97.8	-
医師の治療が必要となる程度の暴行をうける	635 100.0	5 0.8	7 1.1	623 98.1	-
医師の治療が必要とならない程度の暴行をうける	636 100.0	7 1.1	18 2.8	611 96.1	-
あなたが嫌がっているのに性的な行為を強要される	636 100.0	18 2.8	37 5.8	581 91.4	-
あなたは見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	632 100.0	2 0.3	13 2.1	617 97.6	-
何を言っても無視され続ける	635 100.0	22 3.5	47 7.4	566 89.1	-
交友関係や電話を必要以上に、細かく監視される	638 100.0	22 3.4	26 4.1	590 92.5	-
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる	641 100.0	30 4.7	43 6.7	568 88.6	-
大声でどなられる	647 100.0	54 8.3	104 16.1	489 75.6	-

DV（配偶者からの暴力）の有無について、性別で見ると、男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」との合計が最も多かったのが、「大声でどなられる」で18.6%、次いで、「何を言っても無視され続ける」が9.4%、「交友関係や電話を必要以上に、細かく監視される」と「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる」が共に5.6%でした。

図13-3 DVの有無について(男性)



(注)5%未満数値:命の危険を感じるくらいの暴行(0.3 1.1 -)医師の治療が必要となる程度の暴行(- 0.8 -)医師の治療が必要とならない程度の暴行(0.3 2.0 -)性的な行為を強要される(- 1.7 -)ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる(- 0.3 -)何を言っても無視され続ける(2.0 -)交友関係や電話を必要以上に細かく監視される(1.4 4.2 -)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる(0.8 4.8 -)大声でどなられる(4.2 -)

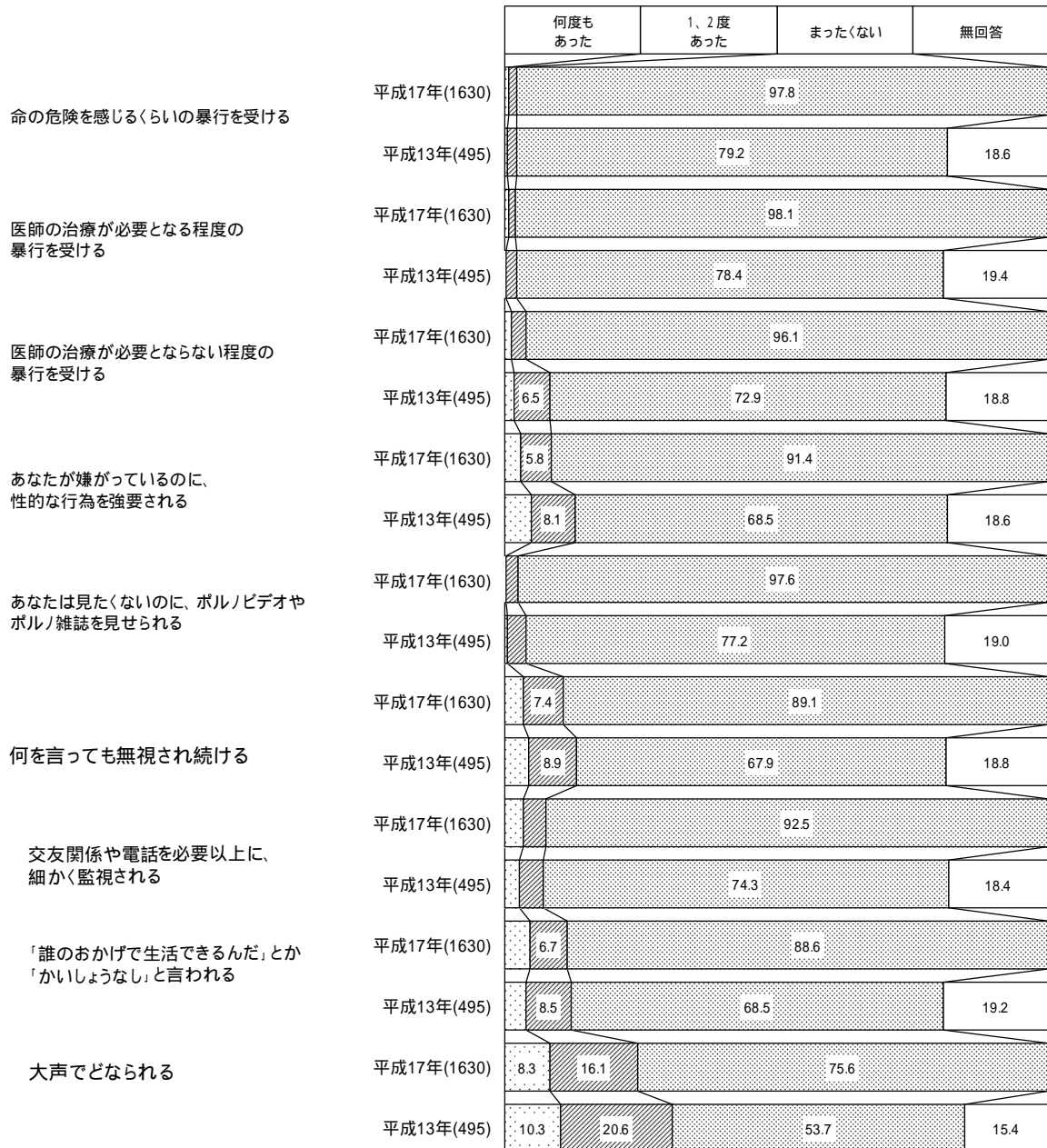
DVの有無 / 男性

	全体	何どもあった	1、2度あった	まったくない	無回答
命の危険を感じるくらいの暴行をうける	353 100.0	1 0.3	4 1.1	348 98.6	-
医師の治療が必要となる程度の暴行をうける	353 100.0	-	3 0.8	350 99.2	-
医師の治療が必要とならない程度の暴行をうける	349 100.0	1 0.3	7 2.0	341 97.7	-
あなたが嫌がっているのに性的な行為を強要される	349 100.0	-	6 1.7	343 98.3	-
あなたは見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	350 100.0	-	1 0.3	349 99.7	-
何を言っても無視され続ける	350 100.0	7 2.0	26 7.4	317 90.6	-
交友関係や電話を必要以上に、細かく監視される	353 100.0	5 1.4	15 4.2	333 94.3	-
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる	353 100.0	3 0.8	17 4.8	333 94.3	-
大声でどなられる	355 100.0	15 4.2	51 14.4	289 81.4	-

DVの有無について、女性の回答を前回調査と比較すると、「何度もあった」或いは「1、2度あった」と回答した方の割合が、「大声でどなられる」で6.5%、次いで、「医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける」で4.4%、「あなたは嫌がっているのに、性的な行為を強要される」で4.3%、それぞれ減少していました。

図13-4 DVの有無/前回調査との比較/女性

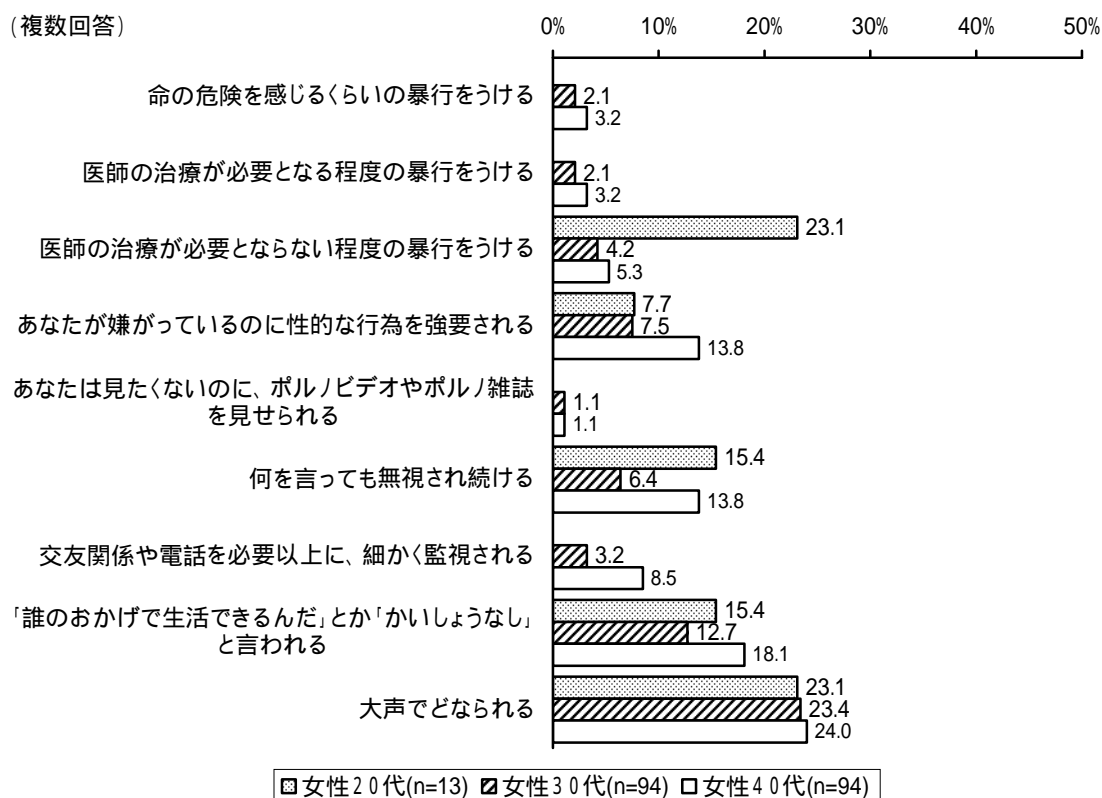
単位: % (5%未満非表示)



(注)5%未満数値:命の危険を感じるくらいの暴行を受ける・平成17年(0.6 1.6 -)平成13年(0.6 1.6)医師の治療が必要となる程度の暴行・平成17年(0.8 1.1 -)平成13年(0.2 2.0)医師の治療が必要とならない程度の暴行・平成17年(1.1 2.8 -)平成13年(1.8)性的な行為を強要される・平成17年(2.8 -)平成13年(4.8)ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる・平成17年(0.3 2.1 -)平成13年(0.6 3.2)何を言っても無視され続ける・平成17年(3.5 -)平成13年(4.4)交友関係や電話を必要以上に、細かく監視される・平成17年(3.4 4.1 -)平成13年(2.6 4.6)「誰のおかげで生活できるんだ」と言われる・平成17年(4.7 -)平成13年(3.8)大声でどなられる・平成17年(-)

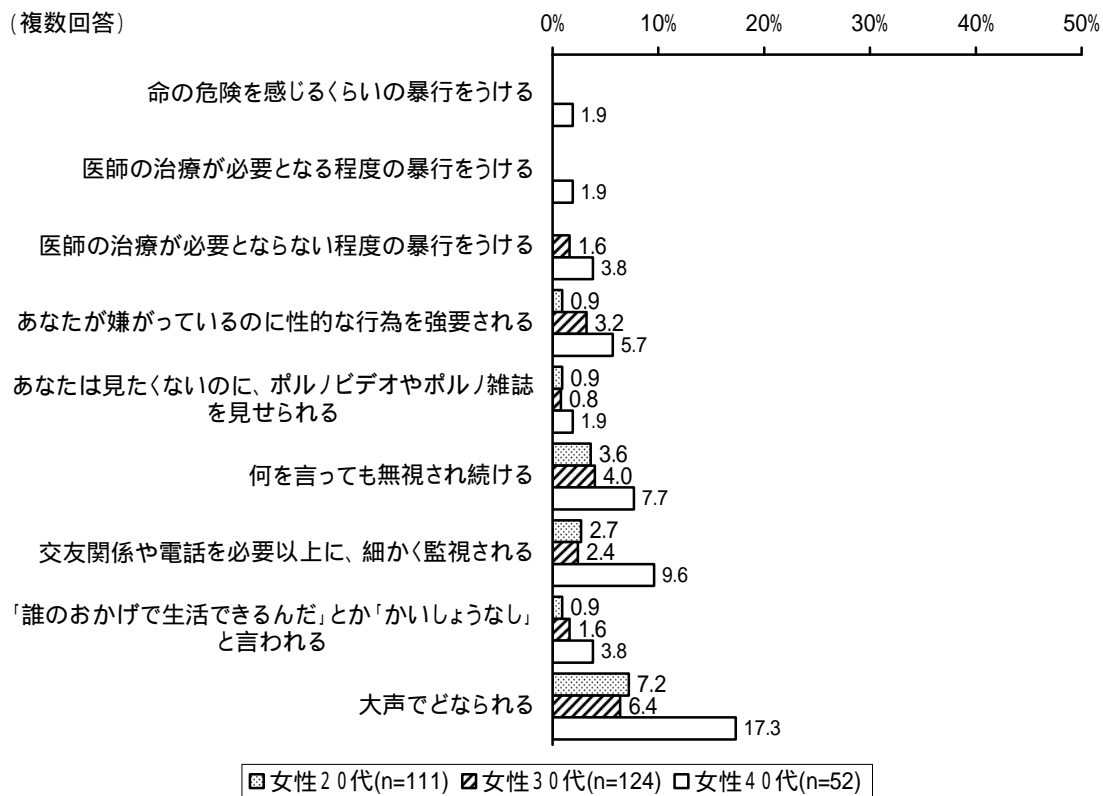
DV（配偶者からの暴力）が「何度もあった」或いは「1、2度あった」と回答した方の割合を、女性の20代・30代・40代の回答について、子どもの有無別にみると、子どもがいる方では、際立って高いのは20代の「医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける」と回答した方の割合が23.1%、「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる」と回答した方の割合が40代で18.1%、20代で15.4%でした。「大声でどなられる」と回答した方の割合は、どの年代でも23~24%でした。

図13-5 DVの有無/女性の20代・30代・40代/子どもがいる



DV（配偶者からの暴力）が「何度もあった」或いは「1、2度あった」と回答した方の割合を、女性の20代・30代・40代の回答について、子どもの有無別にみると、子どもがいない方では、比較的高いのはいずれも40代で、「大声でどなられる」と回答した方の割合が17.3%、「交友関係や電話を必要以上に細かく監視される」と回答した方の割合が9.6%、「何を言っても無視され続ける」と回答した方の割合が7.7%でした。

図13-6 DVの有無/女性の20代・30代・40代/子どもがいない

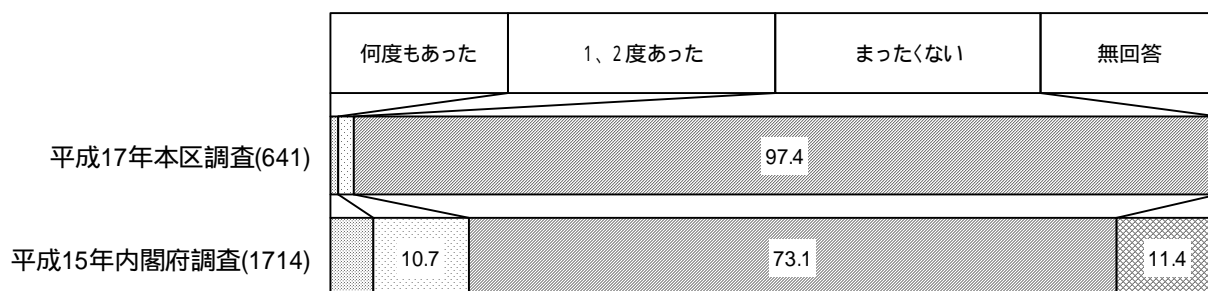


内閣府調査との比較

DV（配偶者からの暴力）の有無について、内閣府調査と比較すると、「身体に対する暴力を受けた」に関して、本区調査では、「何度もあった」が0.8%、「1、2度あった」が1.8%でした。内閣府調査では、「何度もあった」が4.8%、「1、2度あった」が10.7%でした。

図13-7 DVの有無/身体に対する暴力を受けた
/女性/内閣府調査との比較

単位:%(5%未満非表示)



(注)5%未満数値:本区調査(0.8 1.8 0.0)内閣府調査(4.8)本区調査では、「命の危険を感じるくらいの暴行をうける」、「医師の治療が必要なほど暴力をうける」、「医師の治療が必要でないほどの暴力をうける」の3つのいずれかを回答した方の割合を合計して「身体に対する暴力を受けた」としています。

参考資料：平成15年内閣府調査「配偶者等からの暴力に関する調査」より

問14 <DVを受けた際の相談の有無>

問13で、1つの項目でも「あった」と回答した方にお聞きします。

配偶者（事実婚や別居を含む）から「問13」にあげられたような行為を受けたことを、誰かに相談しましたか。

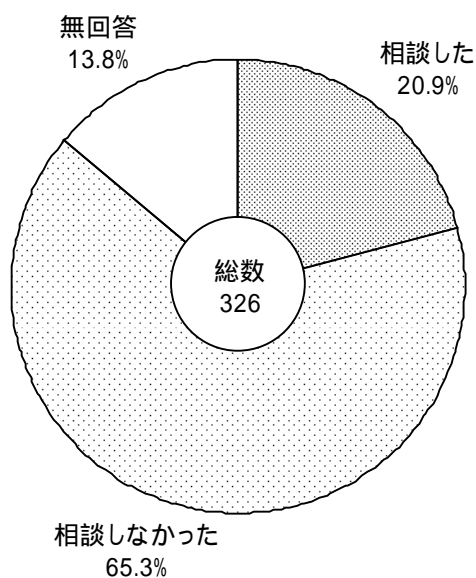
（ひとつだけに）

1. 相談した

2. 相談しなかった

DVを受けた際の相談の有無については、「相談しなかった」が65.3%、「相談した」が20.9%、「無回答」が13.8%でした。

図14-1 DVを受けた際の相談の有無



DVの相談の有無

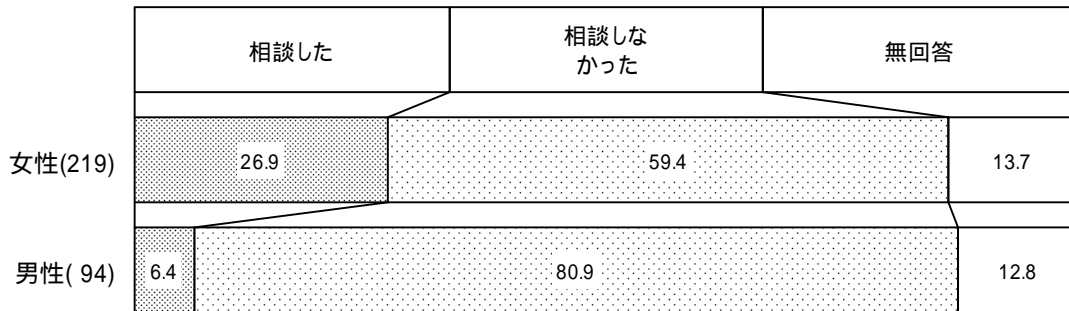
項目名	回答数	構成比 (%)
全体	326	100.0
相談した	68	20.9
相談しなかった	213	65.3
無回答	45	13.8

DVを受けた際の相談の有無について、性別にみると、女性では、「相談しなかった」と回答した方の割合が59.4%、「相談した」と回答した方の割合が26.9%、「無回答」が13.7%でした。

一方、男性では、「相談しなかった」と回答した方の割合が80.9%、「相談した」と回答した方の割合が6.4%、「無回答」が12.8%でした。

図14-2 DVを受けた際の相談の有無/性別

単位:%(5%未満非表示)



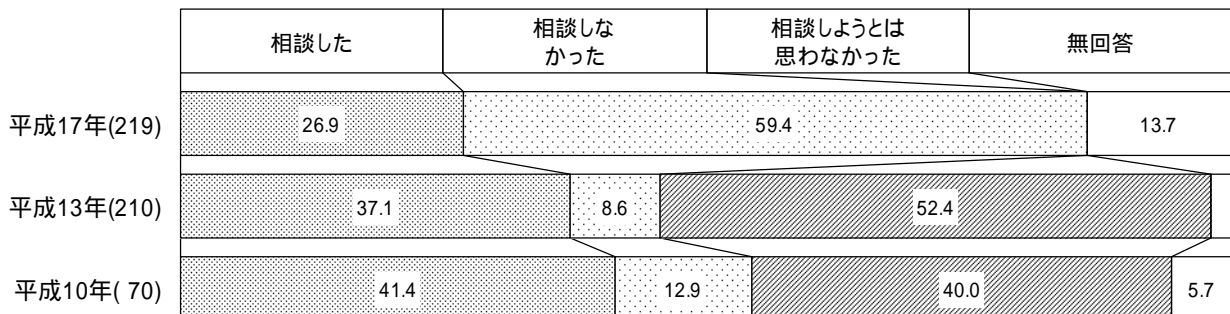
DVの相談の有無

		全体	相談した	相談しなかった	無回答
全体		326 100.0	68 20.9	213 65.3	45 13.8
性別	女性	219 100.0	59 26.9	130 59.4	30 13.7
	男性	94 100.0	6 6.4	76 80.9	12 12.8
	無回答	13 100.0	3 23.1	7 53.8	3 23.1

DVを受けた際の相談の有無について、女性について前回・前々回と比較すると、「相談した」と回答した方の割合が、回を追う毎に減少していることが分かります。

図14-3 前回・前々回調査との比較/DVの相談の有無/女性

単位:%(5%未満非表示)



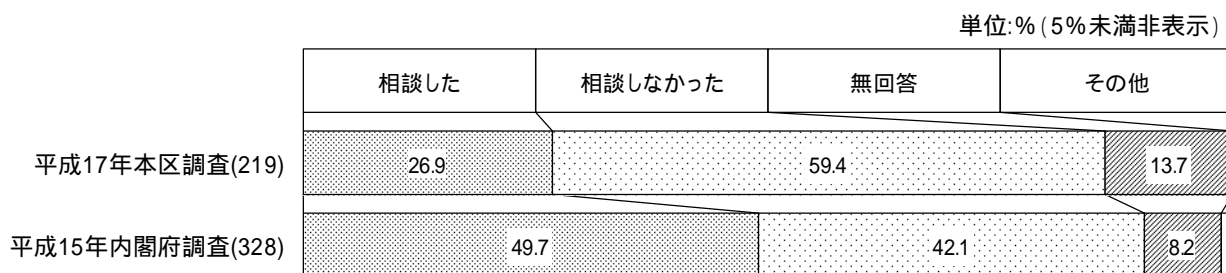
(注)5%未満数値:平成17年(-)平成13年(1.9)

今回調査では、設問文の中に「最近の3年間に」という表現を入れ、DVを受けた期間の限定をしています。また、今回調査に「相談しようとは思わなかった」という選択肢はありません。

内閣府の調査との比較

DVを受けた際の相談の有無に関する女性の回答について、内閣府調査と比較すると、本区調査は内閣府調査に比べ、「相談しなかった」と回答した方の割合が17.3%高く、「相談した」と回答した方の割合は22.8%低くなっていることが分かりました。

図14-4 DVの相談の有無 / 内閣府調査との比較 / 女性



(注)5%未満数値:本区調査(0.0)内閣府調査(1.3)

参考資料:平成15年内閣府調査「配偶者等からの暴力に関する調査」より

問15-1 <DVの具体的な相談相手>

問14で「1.相談した」と回答した方にお聞きします。

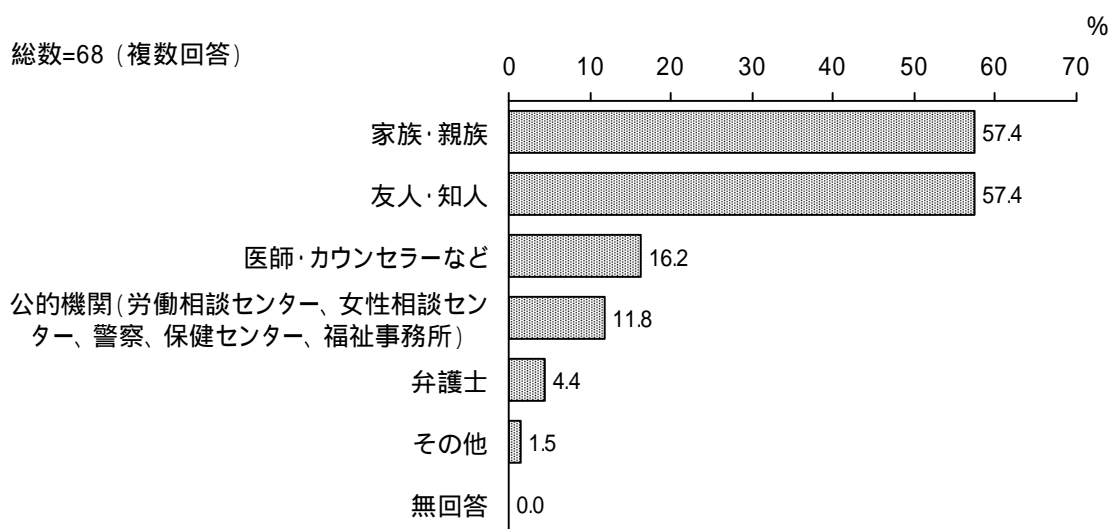
誰に相談しましたか。

(当てはまるものすべてに)

1. 家族・親族
2. 友人・知人
3. 医師・カウンセラーなど
4. 弁護士
5. 公的機関(労働相談情報センター、女性相談センター、警察、保健センター、福祉事務所)
6. その他()

DVの具体的な相談相手は、「家族・親族」と回答した方と「友人・知人」と回答した方の割合が最も多く、共に57.4%でした。

図15-1-1 .DVの具体的な相談相手



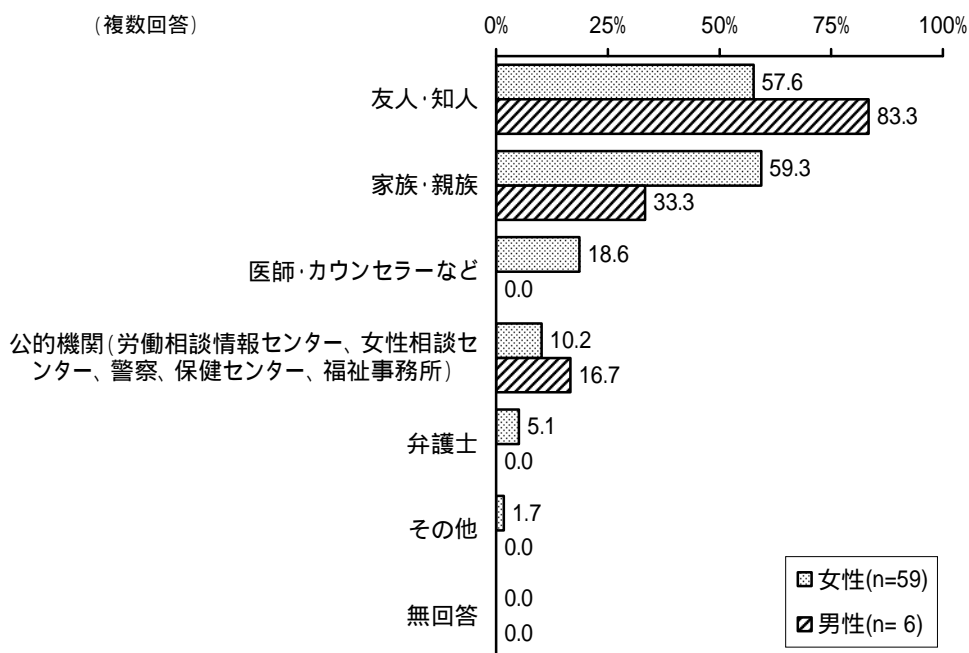
DVの具体的な相談相手

項目名【複数回答】	回答数	構成比(%)
全体	68	100.0
家族・親族	39	57.4
友人・知人	39	57.4
医師・カウンセラーなど	11	16.2
弁護士	3	4.4
公的機関(労働相談情報センター、女性相談センター、警察、保健センター、福祉事務所)	8	11.8
その他	1	1.5
無回答	-	-

DVの具体的な相談相手を、性別にみると、女性では、「家族・親族」と回答した方の割合が最も多く59.3%、次いで、「友人・知人」と回答した方の割合が57.6%、「医師・カウンセラーなど」と回答した方の割合が18.6%でした。

一方、男性では、「友人・知人」と回答した方の割合が最も多く83.3%、次いで、「家族・親族」と回答した方の割合が33.3%でした。

図15-1-2 DVの具体的な相談相手



DVの具体的な相談相手 【複数回答】

		全体	家族・親族	友人・知人	医師・カウンセラーなど	弁護士	公的機関(労働相談情報センター、女性相談センター、警察、保健センター、福祉事務所)	その他	無回答
全体		68 100.0	39 57.4	39 57.4	11 16.2	3 4.4	8 11.8	1 1.5	-
性別	女性	59 100.0	35 59.3	34 57.6	11 18.6	3 5.1	6 10.2	1 1.7	-
	男性	6 100.0	2 33.3	5 83.3	-	-	1 16.7	-	-
	無回答	3 100.0	2 66.7	-	-	-	1 33.3	-	-

問15-2 <DVを相談しなかった理由>

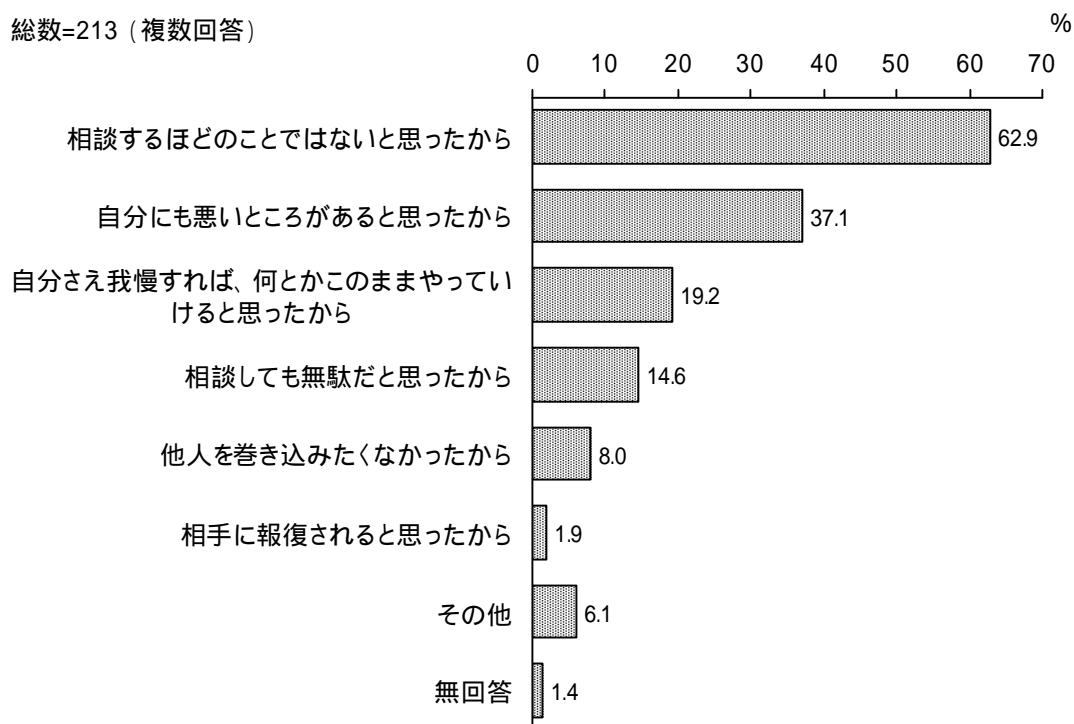
問14で「2.相談しなかった」と回答した方にお聞きします。

相談しなかった理由は何ですか。 (当てはまるものすべてに)

1. 相談しても無駄だと思ったから
2. 相手に報復されと思ったから
3. 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから
4. 他人を巻き込みたくなかったから
5. 自分にも悪いところがあると思ったから
6. 相談するほどのことではないと思ったから
7. その他()

DVを相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した方の割合が最も多く62.9%、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」と回答した方の割合が37.1%、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が19.2%でした。

図15-2-1 DVを相談しなかった理由



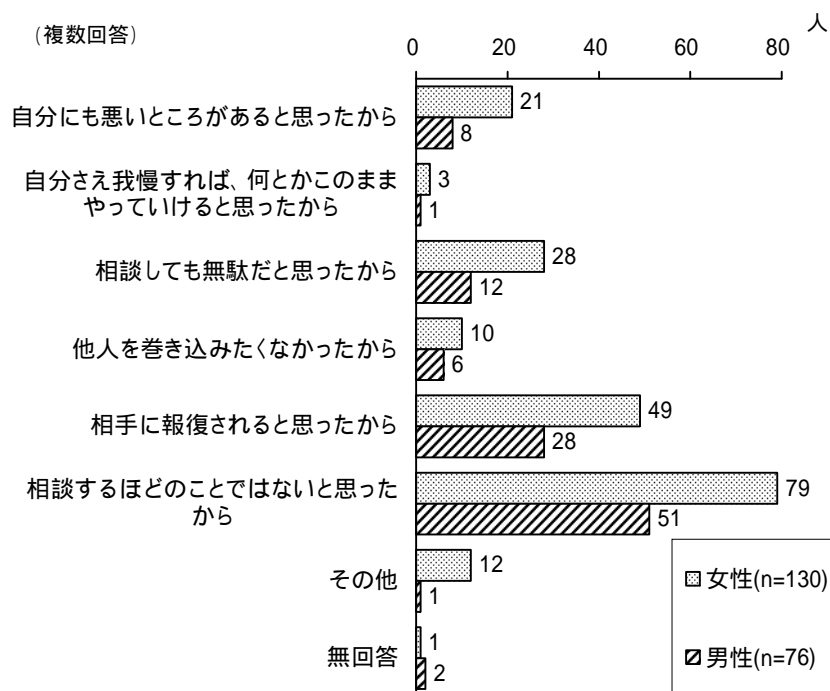
DVを相談しなかった理由

項目名【複数回答】	回答数	構成比 (%)
全体	213	100.0
相談しても無駄だと思ったから	31	14.6
相手に報復されと思ったから	4	1.9
自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから	41	19.2
他人を巻き込みたくなかったから	17	8.0
自分にも悪いところがあると思ったから	79	37.1
相談するほどのことではないと思ったから	134	62.9
その他	13	6.1
無回答	3	1.4

DVを相談しなかった理由を、性別にみると、女性では、「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した方が最も多く79人、次いで、「相手に報復されと思ったから」と回答した方が49人、「相談しても無駄だと思ったから」と回答した方が28人でした。

一方、男性では、「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した方が最も多く51人、次いで、「相手に報復されと思ったから」と回答した方が28人、「相談しても無駄だと思ったから」と回答した方が12人でした。

図15 - 2 - 2 DVを相談しなかった理由 / 性別



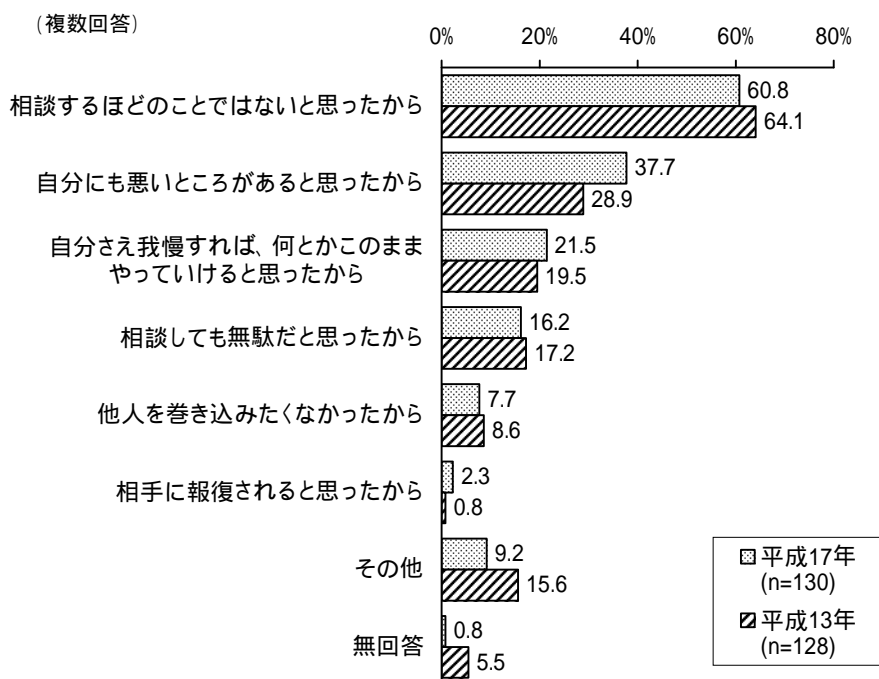
男女の回答数が極端に違うため、このグラフのみ単位を回答数にしてあります。

DVを相談しなかった理由 【複数回答】

		全体	相談しても無駄だと思ったから	相手に報復されと思ったから	自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	自分にも悪いところがあったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他	無回答
全体		213 100.0	31 14.6	4 1.9	41 19.2	17 8.0	79 37.1	134 62.9	13 6.1	3 1.4
性別	女性	130 100.0	21 16.2	3 2.3	28 21.5	10 7.7	49 37.7	79 60.8	12 9.2	1 0.8
	男性	76 100.0	8 10.5	1 1.3	12 15.8	6 7.9	28 36.8	51 67.1	1 1.3	2 2.6
	無回答	7 100.0	2 28.6	-	1 14.3	1 14.3	2 28.6	4 57.1	-	-

DVを相談しなかった理由を、女性の回答について、前回と比較すると、「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した方の割合が3.3%減少し、「自分にも悪いところがあると思ったから」と回答した方の割合は8.8%の増加、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」と回答した方の割合が2.0%の増加でした。

図15 - 2 - 3 DVを相談しなかった理由 / 女性 / 前回調査との比較



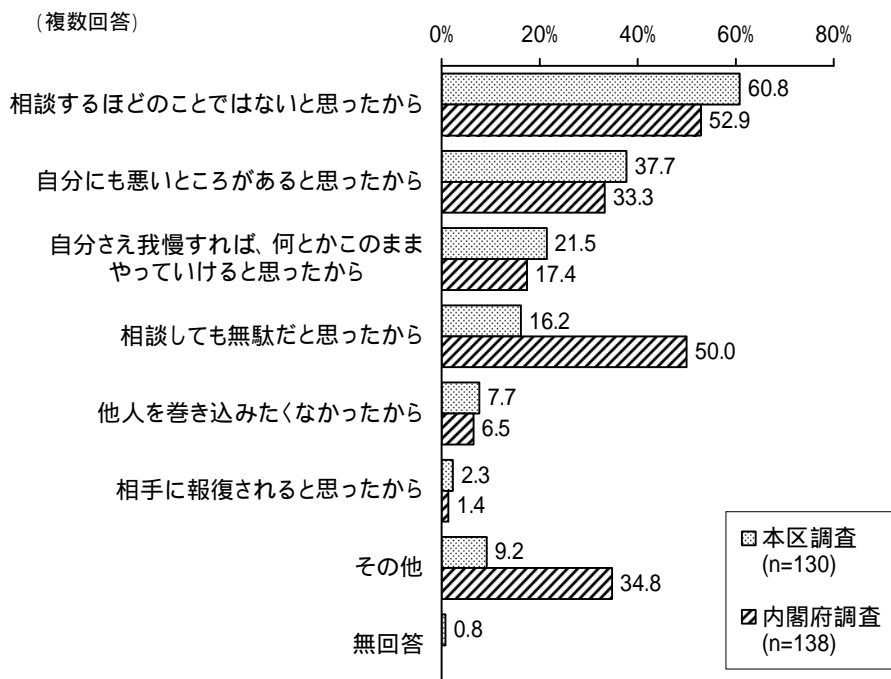
前回調査の「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、「誰に相談してよいのか、わからなかったから」、「子どもに危害がおよぶと思ったから」については、「その他」にまとめました。

内閣府調査との比較

DVを相談しなかった理由を、女性の回答について、内閣府調査と比較すると、本区調査では、「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した方の割合が7.9%、「自分にも悪いところがあると思ったから」と回答した方の割合は4.4%、それぞれ多くなっています。

一方で、「相談しても無駄だと思ったから」と回答した方の割合は33.8%少なくなっています。

図15-2-4 DVを相談しなかった理由 / 女性 / 内閣府調査との比較



内閣府調査における、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、「そのことについて思い出したくなかったから」、「どこ(だれ)に相談してよいのか分からなかったから」、「世間体が悪いから」、「担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから」との回答は「その他」に含めています。

参考資料：平成15年内閣府「配偶者等からの暴力に関する調査」

問16 <女性への暴力をなくすために必要なこと>

近年、DV（配偶者による暴力）、性犯罪、売買春（売春及び売春の相手方となること。いわゆる「援助交際」を含む。）、家庭内暴力、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）、ストーカー等、女性に対するさまざまな暴力への関心が高まっていますが、こうした暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。

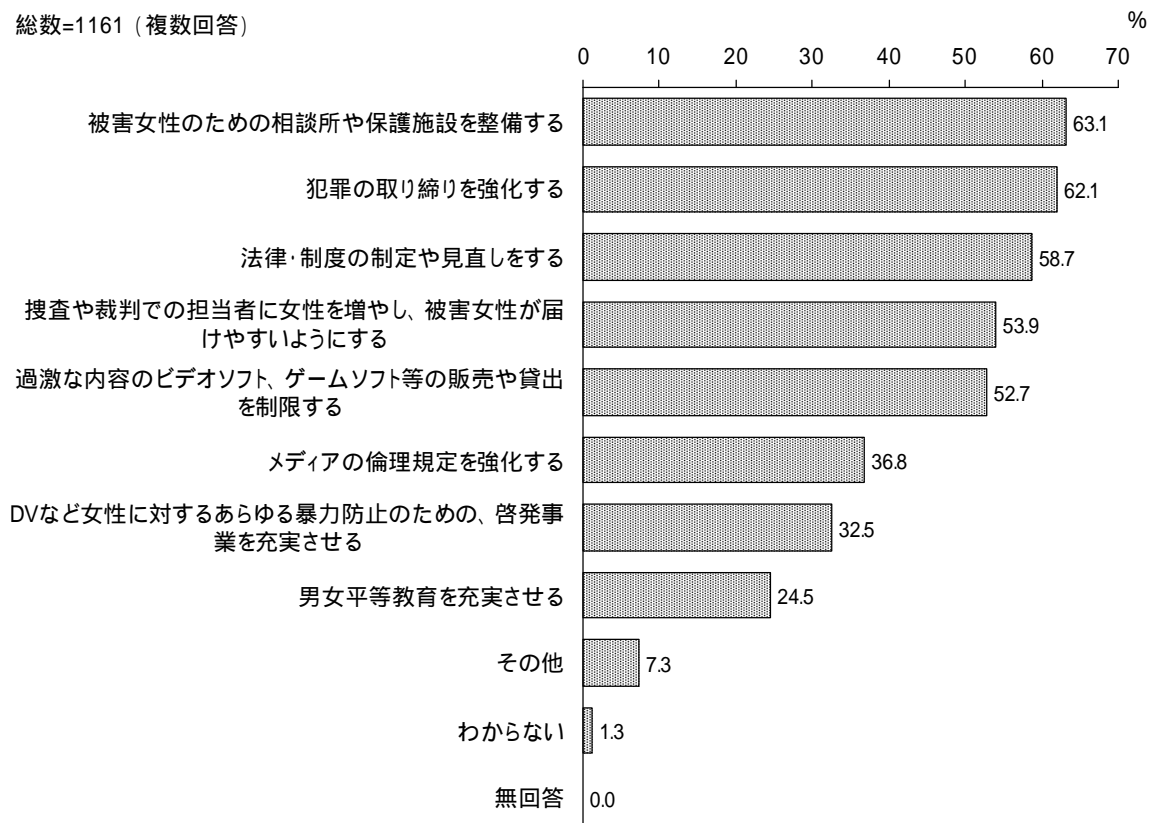
（当てはまるものすべてに ）

1. 犯罪の取り締りを強化する
2. 法律・制度の制定や見直しをする
3. 被害女性のための相談所や保護施設を整備する
4. 捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする
5. 過激な内容のビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する
6. 男女平等教育を充実させる
7. DVなど女性に対するあらゆる暴力防止のための、啓発事業を充実させる
8. メディアの倫理規定を強化する
9. その他（ ）
10. わからない

女性への暴力をなくすために必要なこととしては、「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」と回答した方の割合が最も多く63.1%、次いで、「犯罪の取り締まりを強化する」と回答した方の割合が62.1%、「法律・制度の制定や見直しをする」と回答した方の割合が58.7%でした。

図16-1 女性への暴力をなくすために必要なこと

総数=1161（複数回答）



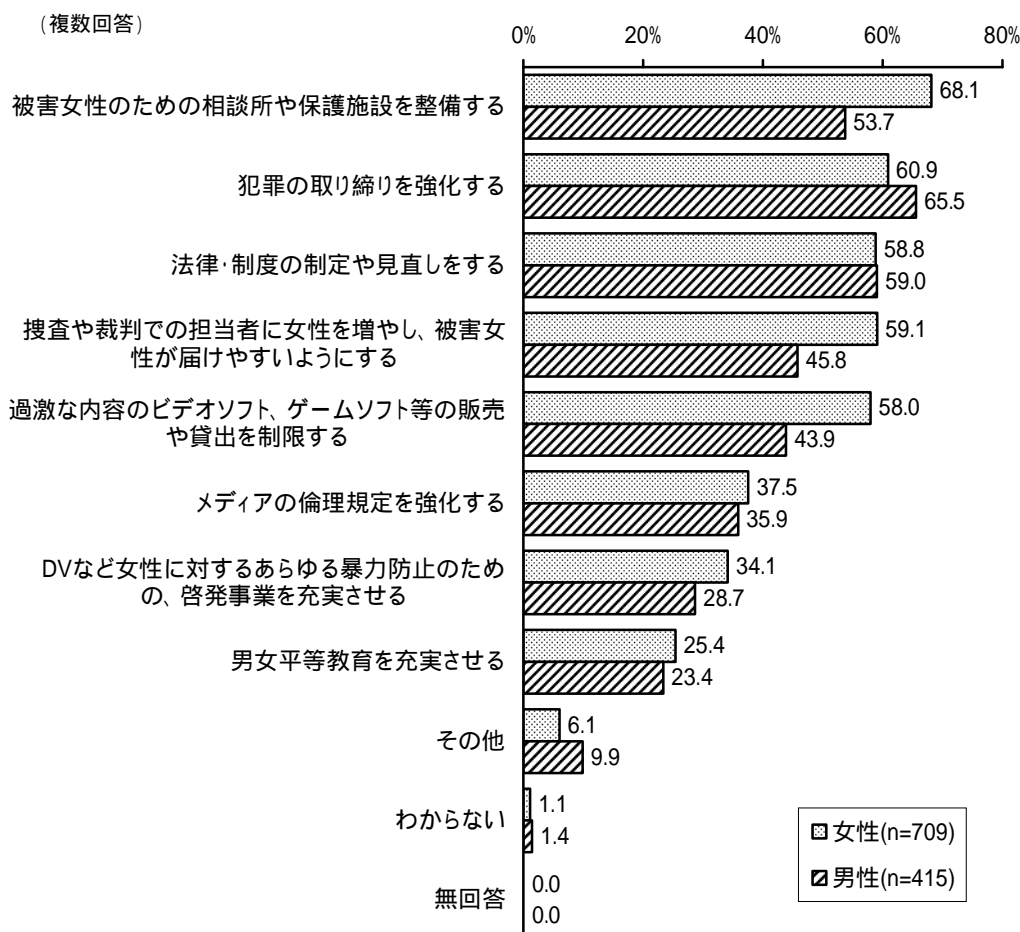
女性への暴力をなくすために必要なこと

項目名【9つまでの複数回答】	回答数	構成比(%)
全体	1161	100.0
犯罪の取り締りを強化する	721	62.1
法律・制度の制定や見直しをする	682	58.7
被害女性のための相談所や保護施設を整備する	733	63.1
捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする	626	53.9
過激なビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する	612	52.7
男女平等教育を充実させる	285	24.5
DVなど女性に対するあらゆる暴力防止のための、啓発事業を充実させる	377	32.5
メディアの倫理規定を強化する	427	36.8
その他	85	7.3
わからない	15	1.3
無回答	-	-

女性への暴力をなくすために必要なことを、性別にみると、女性では、「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」と回答した方の割合が最も多く68.1%、次いで、「犯罪の取り締まりを強化する」と回答した方の割合が60.9%でした。

一方、男性では、「犯罪の取り締まりを強化する」と回答した方の割合が最も多く65.5%、次いで、「法律・制度の制定や見直しをする」と回答した方の割合が59.0%でした。

図16-2 女性への暴力をなくすために必要なこと/性別

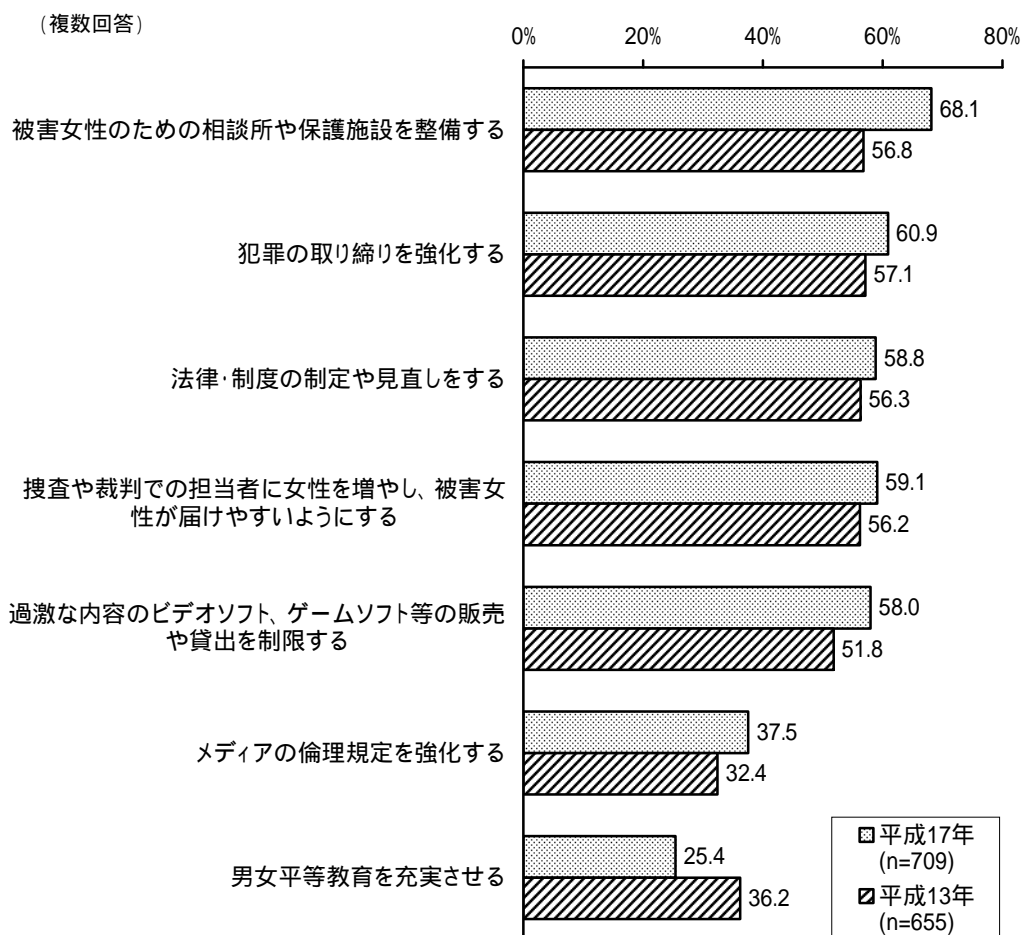


女性への暴力をなくすために必要なこと 【複数回答】

		全体	犯罪の取り締まりを強化する	法律・制度の制定や見直しをする	被害女性のための相談所や保護施設を整備する	捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする	過激な内容のビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する	
全体		1161 100.0	721 62.1	682 58.7	733 63.1	626 53.9	612 52.7	
性別	女性	709 100.0	432 60.9	417 58.8	483 68.1	419 59.1	411 58.0	
	男性	415 100.0	272 65.5	245 59.0	223 53.7	190 45.8	182 43.9	
	無回答	37 100.0	17 45.9	20 54.1	27 73.0	17 45.9	19 51.4	
		全体	男女平等教育を充実させる	DVなど女性に対する暴力防止のための、啓発事業を充実させる	メディアの倫理規定を強化する	その他	わからない	無回答
全体		1161 100.0	285 24.5	377 32.5	427 36.8	85 7.3	15 1.3	-
性別	女性	709 100.0	180 25.4	242 34.1	266 37.5	43 6.1	8 1.1	-
	男性	415 100.0	97 23.4	119 28.7	149 35.9	41 9.9	6 1.4	-
	無回答	37 100.0	8 21.6	16 43.2	12 32.4	1 2.7	1 2.7	-

女性への暴力をなくすために必要なことを、女性の回答について、前回と比較すると、「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」と回答した方の割合は11.3%、「過激な内容のビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」と回答した方の割合が6.2%の増加でした。一方、「男女平等教育を充実させる」と回答した方の割合は10.8%の減少でした。

図16-3 女性への暴力をなくすために必要なこと / 女性 / 前回調査との比較



前回調査の「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」を今回調査の「男女平等教育の充実」にしました。

前回調査の「被害女性を支援し、暴力に反対する区民運動を盛り上げる」と「特に対策の必要はない」は今回調査の「その他」にまとめました。

今回調査の「DVなど女性に対するあらゆる暴力防止のための、啓発事業を充実させる」は前回調査の設問にはありません。

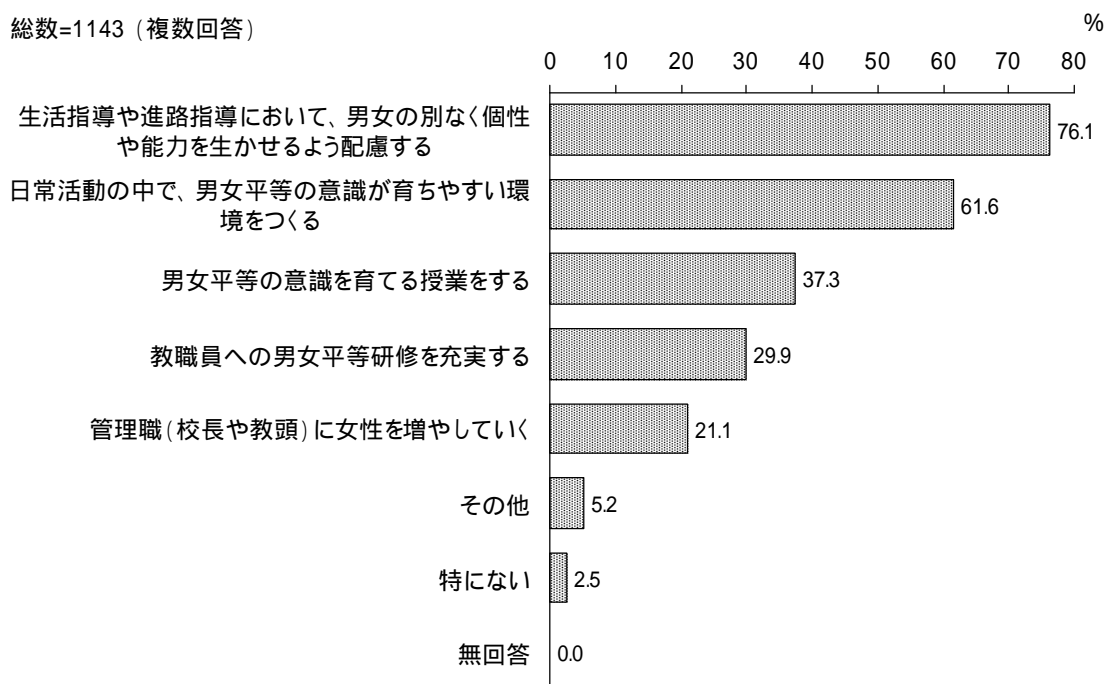
問17 <学校教育における男女平等への有効な取り組み>

男女平等社会を実現するためには、若い人々への啓発も重要です。学校教育の場で、特にどんなことに力を入れればよいと思いますか。(3つまでに)

1. 生活指導や進路指導において、男女の別なく個性や能力を生かせるよう配慮する
2. 日常活動の中で、男女平等の意識が育ちやすい環境をつくる
3. 男女平等の意識を育てる授業をする
4. 管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく
5. 教職員への男女平等研修を充実する
6. その他()
7. 特にない

学校教育における男女平等への有効な取り組みとしては、「生活指導や進路指導において、男女の別なく個性や能力を生かせるよう配慮する」と回答した方の割合が最も多く76.1%、次いで、「日常活動の中で、男女平等の意識が育ちやすい環境をつくる」と回答した方の割合が61.6%、「男女平等の意識を育てる授業をする」と回答した方の割合が37.3%でした。

図17-1 学校教育における男女平等への有効な取り組み



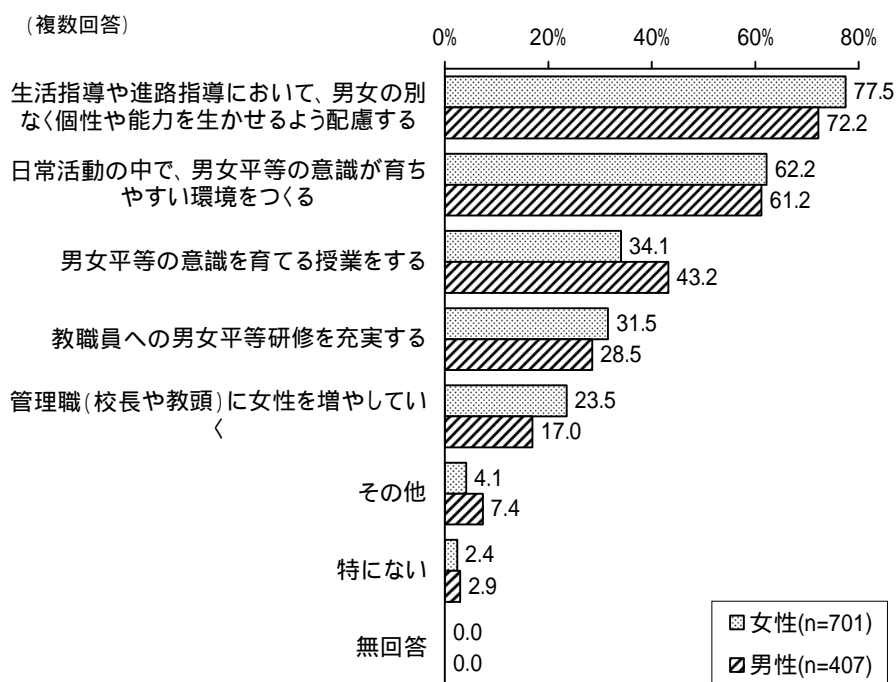
学校教育における男女平等への有効な取り組み

項目名【3つまでの複数回答】	回答数	構成比(%)
全体	1143	100.0
生活指導や進路指導において、男女の別なく個性や能力を生かせるよう配慮する	870	76.1
日常活動の中で、男女平等の意識が育ちやすい環境をつくる	704	61.6
男女平等の意識を育てる授業をする	426	37.3
管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	241	21.1
教職員への男女平等研修を充実する	342	29.9
その他	59	5.2
特にない	29	2.5
無回答	-	-

学校教育における男女平等への有効な取り組みを、性別にみると、女性では、「生活指導や進路指導において、男女の別なく個性や能力を生かせるよう配慮する」と回答した方の割合が最も多く77.5%、次いで、「日常活動の中で、男女平等の意識が育ちやすい環境をつくる」と回答した方の割合が62.2%でした。

一方、男性でも、「生活指導や進路指導において、男女の別なく個性や能力を生かせるよう配慮する」と回答した方の割合が最も多く72.2%、次いで、「日常活動の中で、男女平等の意識が育ちやすい環境をつくる」と回答した方の割合が61.2%でした。

図17-2 学校教育における男女平等への有効な取り組み / 性別

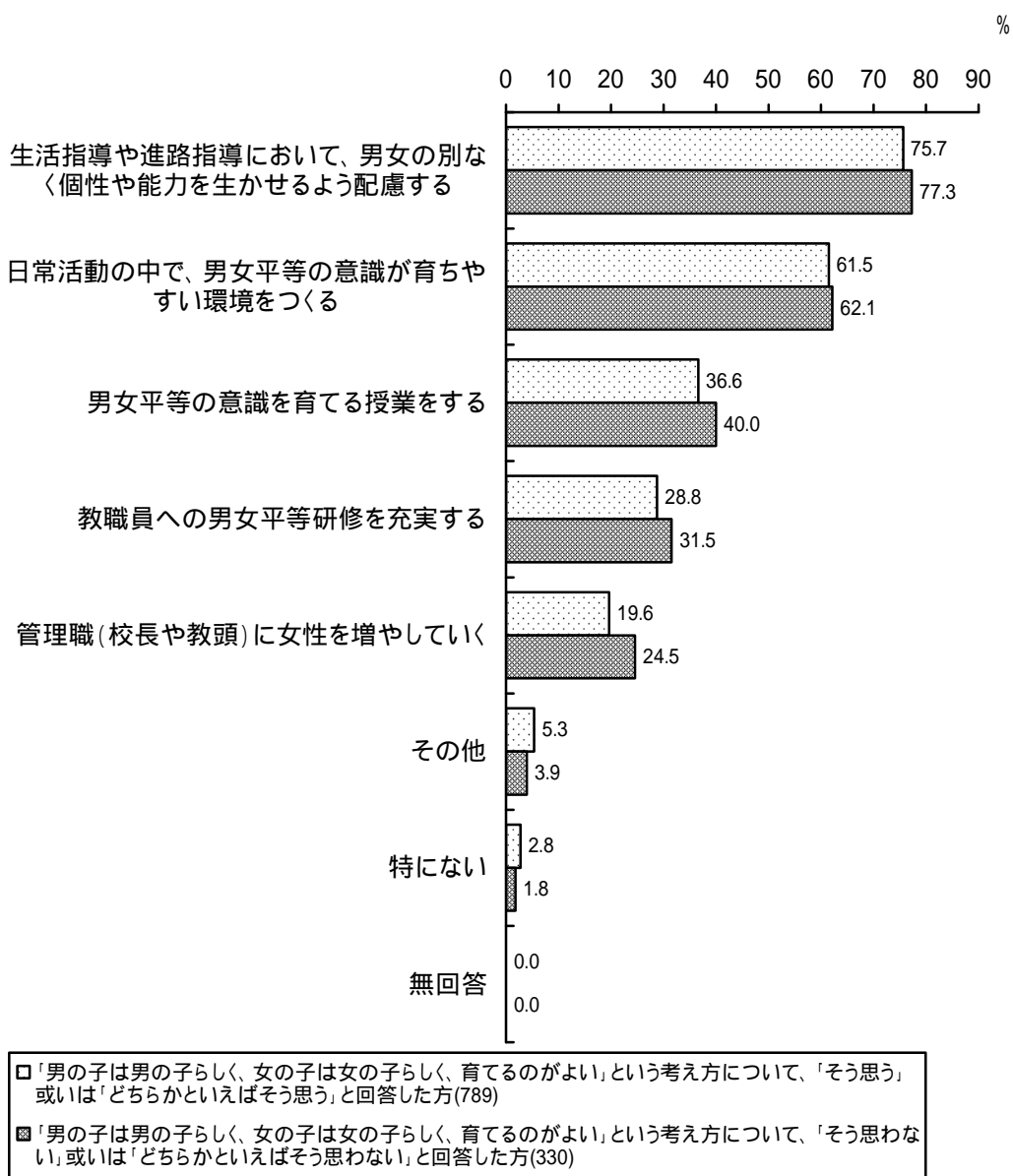


学校教育における男女平等への有効な取り組み 【3つまでの複数回答】

性別	全体	生活指導や進路指導において、男女の別なく個性や能力を生かせるよう配慮する	日常活動の中で、男女平等の意識が育ちやすい環境をつくる	男女平等の意識を育てる授業をする	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	教職員への男女平等研修を充実する	その他	特にない	無回答	
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	
全体	1143	870	704	426	241	342	59	29	-	
	100.0	76.1	61.6	37.3	21.1	29.9	5.2	2.5	-	
性別	女性	701	543	436	239	165	221	29	17	-
		100.0	77.5	62.2	34.1	23.5	31.5	4.1	2.4	-
	男性	407	294	249	176	69	116	30	12	-
	100.0	72.2	61.2	43.2	17.0	28.5	7.4	2.9	-	
	無回答	35	33	19	11	7	5	-	-	-
	100.0	94.3	54.3	31.4	20.0	14.3	-	-	-	

学校教育における男女平等への有効な取り組みを、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい」という考え方について「そう思う」或いは「どちらかといえばそう思う」と回答した方と、「そう思わない」或いは「どちらかといえばそう思わない」と回答した方とを比較してみると、「生活指導や進路指導において、男女の別なく個性や能力を生かせるよう配慮する」と回答した方の割合がそれぞれ75.7%、77.3%、次いで、「日常活動の中で、男女平等の意識が育ちやすい環境をつくる」と回答した方の割合がそれぞれ61.5%、62.1%でした。

図17-3 学校教育における男女平等への取り組み/「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい」に、「そう思う」或いは「どちらかといえばそう思う」と回答した方と、「そう思わない」或いは「どちらかといえばそう思わない」と回答した方の、回答傾向



男性の育児・介護への参加について

問18 <男性の育児への参加を促進するために必要なこと>

男性の育児への参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

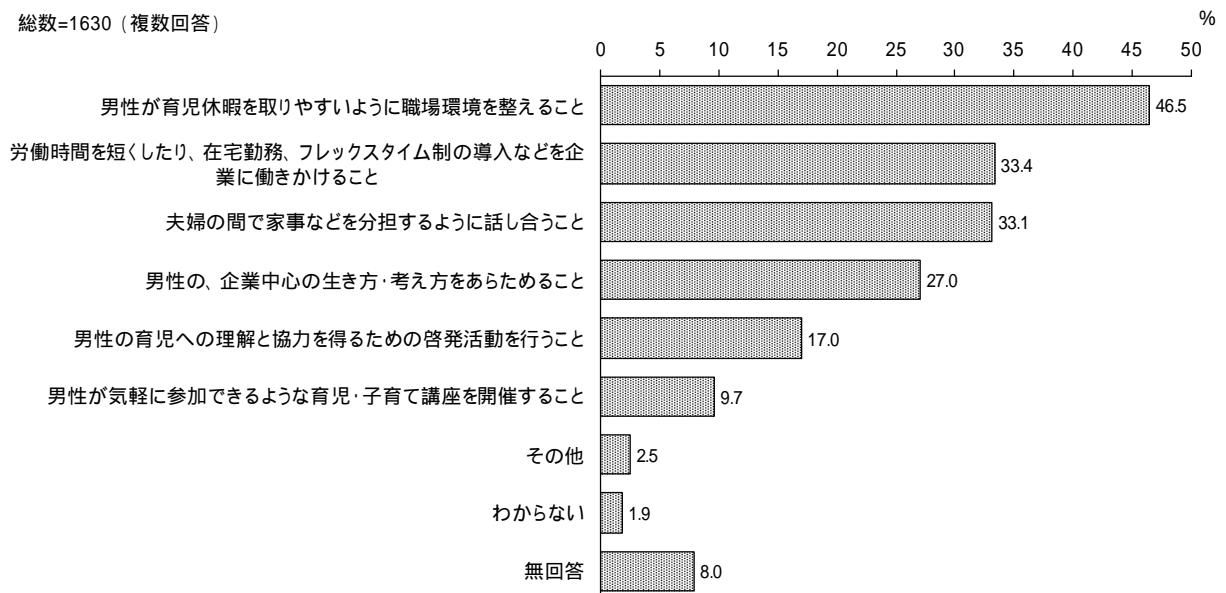
(2つまでに)

1. 男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること
2. 労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること
3. 男性の育児への理解と協力を得るための啓発活動を行うこと
4. 男性が気軽に参加できるような育児・子育て講座を開催すること
5. 夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと
6. 男性の、企業中心の生き方・考え方をあらためること
7. その他()
8. わからない

男性の育児への参加を促進するために必要なこととしては、「男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く46.5%、次いで、「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること」と回答した方の割合が33.4%、「夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと」と回答した方の割合が33.1%でした。

図18-1 男性の育児への参加を促進するために必要なこと

総数=1630 (複数回答)



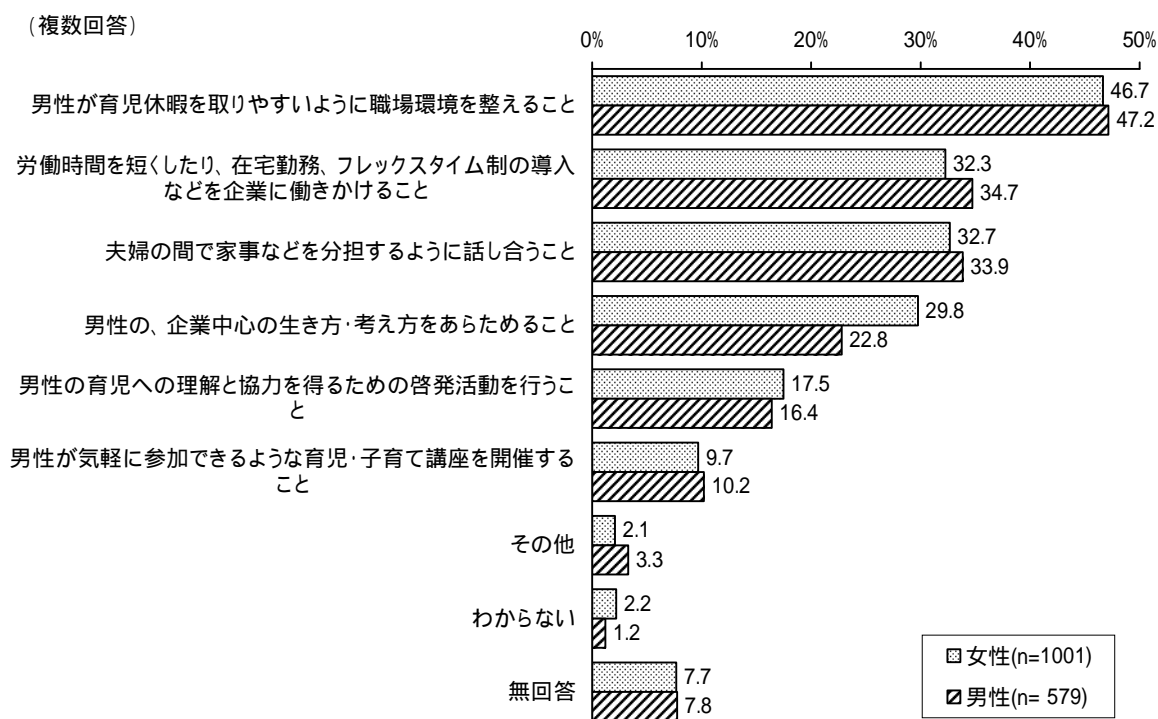
男性の育児への参加を促進するために必要なこと

項目名【2つまでの複数回答】	回答数	構成比(%)
全体	1630	100.0
男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること	758	46.5
労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること	545	33.4
男性の育児への理解と協力を得るための啓発活動を行うこと	277	17.0
男性が気軽に参加できるような育児・子育て講座を開催すること	158	9.7
夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと	539	33.1
男性の、企業中心の生き方・考え方をあらためること	440	27.0
その他	40	2.5
わからない	31	1.9
無回答	130	8.0

男性の育児への参加を促進するために必要なことを、性別にみると、女性では、「男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く46.7%、次いで、「夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと」と回答した方の割合が32.7%でした。

一方、男性では、「男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く47.2%、次いで、「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること」と回答した方の割合が34.7%でした。

図18 - 2 男性の育児への参加を促進するために必要なこと / 性別

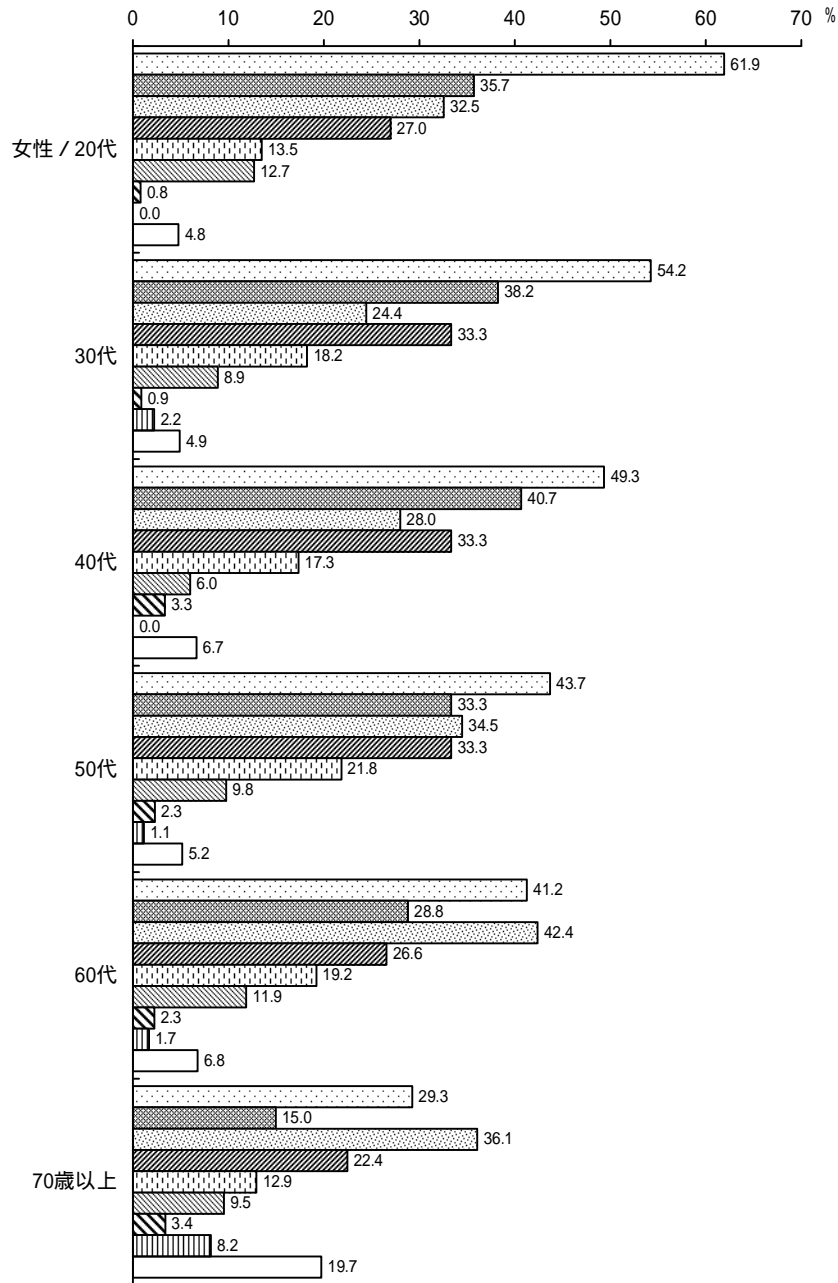


男性の育児への参加を促進するために必要なこと 【2つまでの複数回答】

	全体	男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること	労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること	男性の育児への理解と協力を得るための啓発活動を行うこと	男性が気軽に参加できるような育児・子育て講座を開催すること	夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと	男性の、企業中心の生き方・考え方をあらためること	その他	わからない	無回答	
全体	1630 100.0	758 46.5	545 33.4	277 17.0	158 9.7	539 33.1	440 27.0	40 2.5	31 1.9	130 8.0	
性別	女性	1001 100.0	467 46.7	323 32.3	175 17.5	97 9.7	327 32.7	298 29.8	21 2.1	22 2.2	77 7.7
	男性	579 100.0	273 47.2	201 34.7	95 16.4	59 10.2	196 33.9	132 22.8	19 3.3	7 1.2	45 7.8
	無回答	50 100.0	18 36.0	21 42.0	7 14.0	2 4.0	16 32.0	10 20.0	-	2 4.0	8 16.0

男性の育児への参加を促進するために必要なことについての女性の回答を、年代別にみると、20～50代では、「男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が、60代・70歳以上では、「夫婦の間で家事を分担するように話し合うこと」と回答した方の割合が、最も多くなっています。

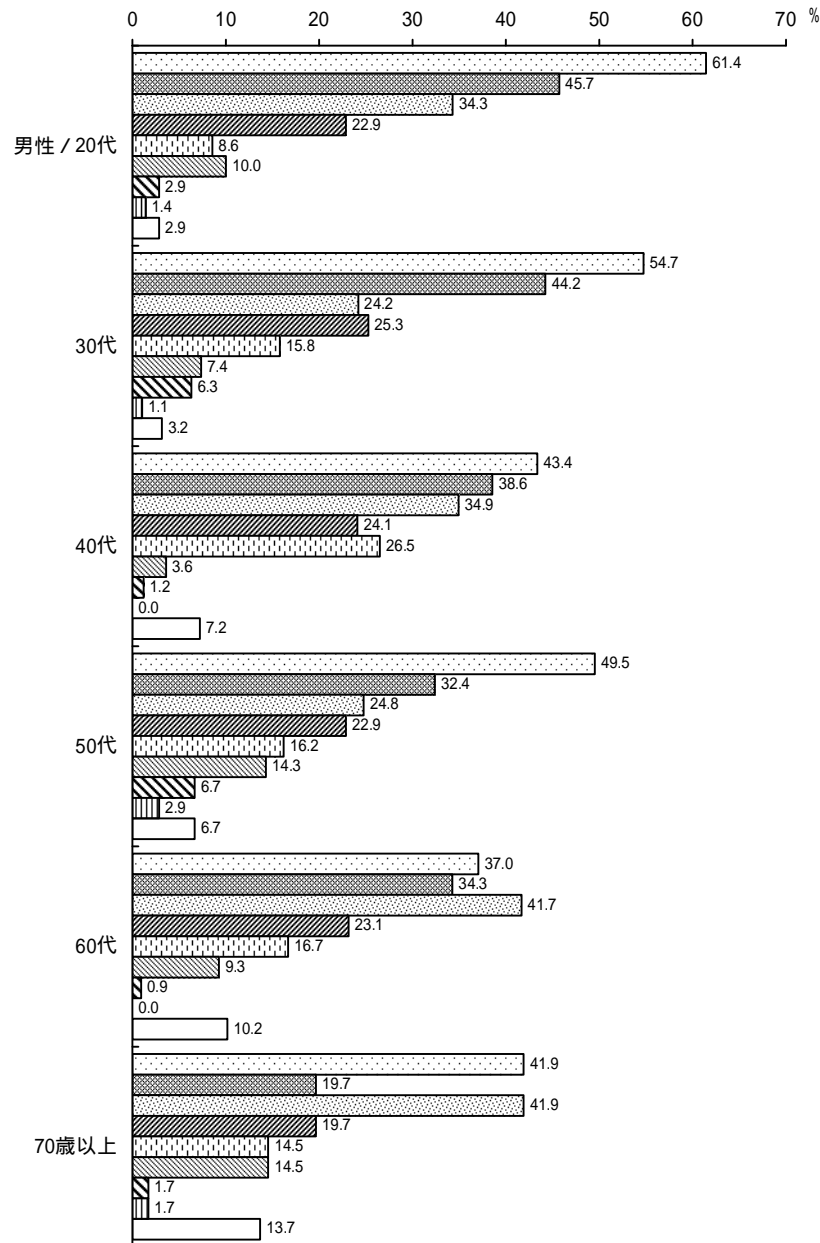
図18-3 男性の育児への参加を促進するために必要なこと / 年代別 / 女性



- 男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること
- ▣ 労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること
- ▤ 夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと
- ▥ 男性の、企業中心の生き方・考え方をあらためること
- ▦ 男性の育児への理解と協力を得るための啓発活動を行うこと
- ▧ 男性が気軽に参加できるような育児・子育て講座を開催すること
- その他
- わからない
- 無回答

男性の育児への参加を促進するために必要なことについての男性の回答を、年代別にみると、20～50代では、「男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること」が、60代では、「夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと」と回答した方の割合が最も多くなっています。70歳以上では、「男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合と、「夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと」回答した方の割合が最も多くなっています。

図18-4 男性の育児への参加を促進するために必要なこと/年代別/男性

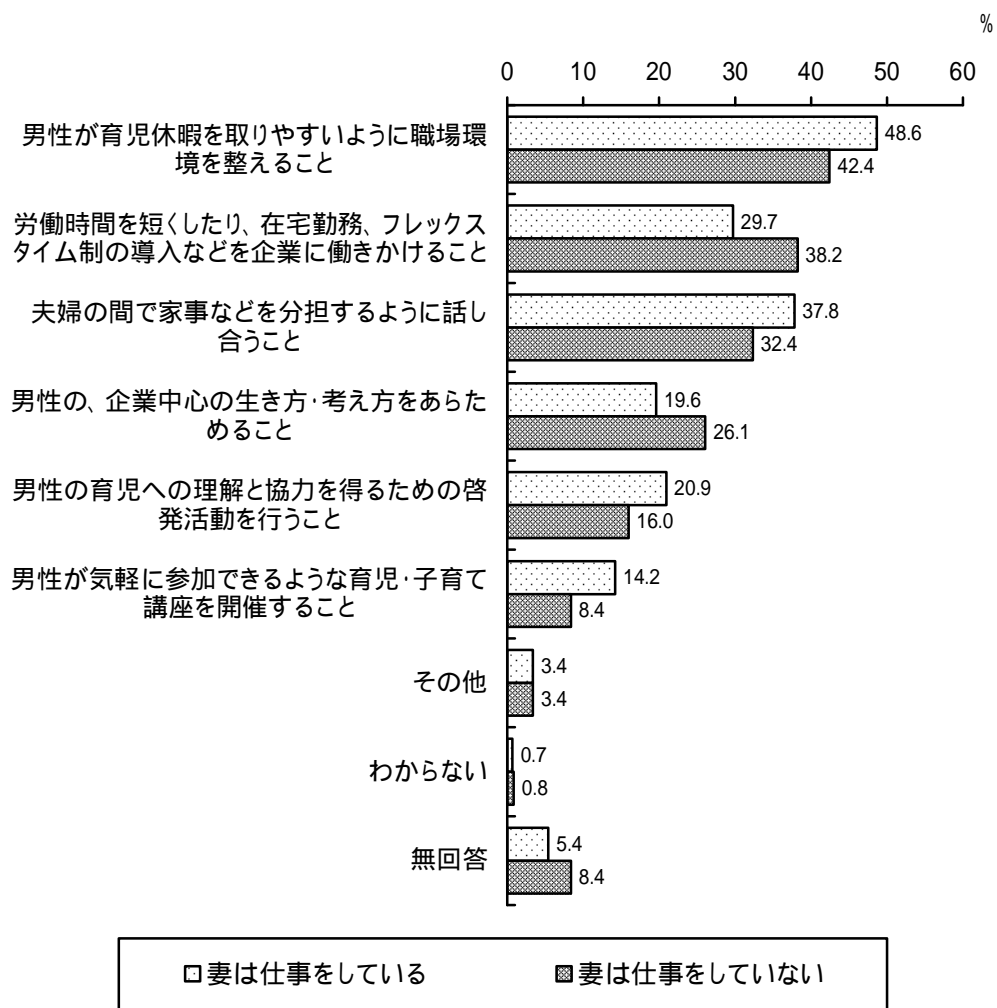


- 男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること
- ▨ 労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること
- ▩ 夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと
- ▧ 男性の、企業中心の生き方・考え方をあらためること
- 男性の育児への理解と協力を得るための啓発活動を行うこと
- ▨ 男性が気軽に参加できるような育児・子育て講座を開催すること
- ▩ その他
- ▧ わからない
- 無回答

男性の育児への参加を促進するために必要なことについての男性の回答を、妻の仕事の有無別にみると、妻が仕事をしている方では、「男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く48.6%、次いで、「夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと」と回答した方の割合が37.8%でした。

一方、妻が仕事をしていない方では、「男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く42.4%、次いで、「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること」と回答した方の割合が38.2%でした。

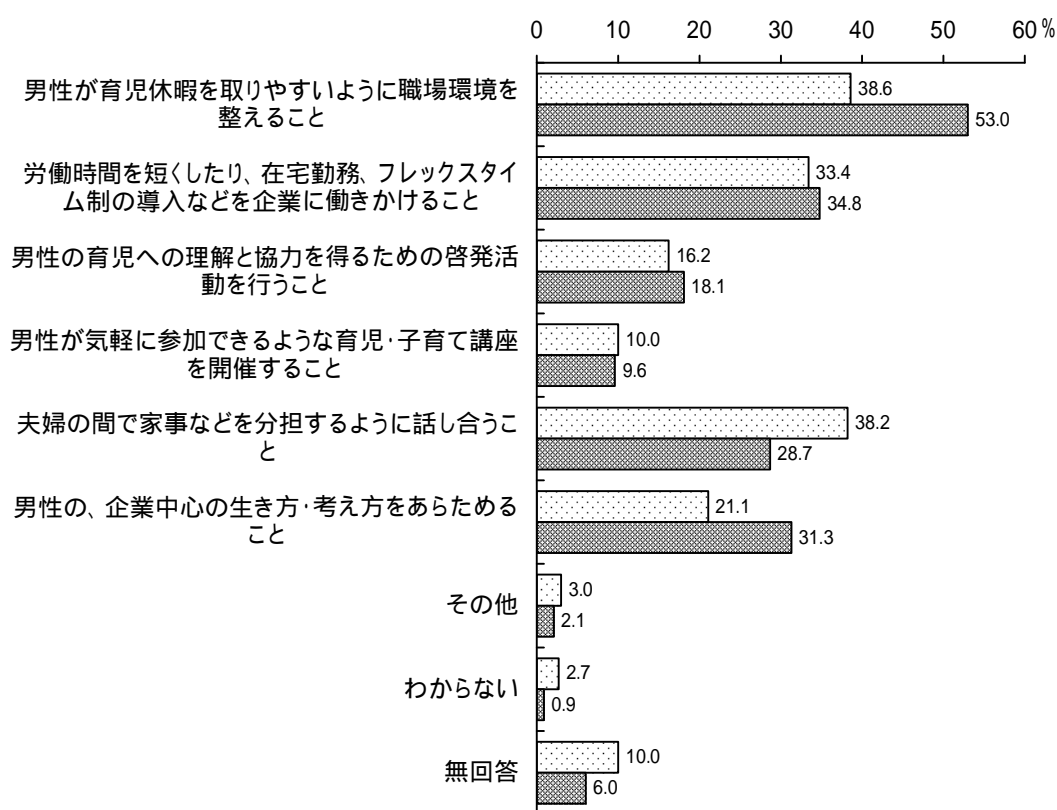
図18 - 5 男性の育児への参加を促進するために必要なこと / 男性 / 妻の仕事の有無別



男性の育児への参加を促進するために必要なことを、「男は仕事、女は家庭」という考え方についての回答別にみると、「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方では、「男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く38.6%、次いで、「夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと」と回答した方の割合が38.2%でした。

一方、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方では、「男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く53.0%、次いで、「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること」と回答した方の割合が34.8%でした。

図18-6 男性の育児への参加を促進するために必要なこと / 「男は仕事、女は家庭」という考え方についての回答別



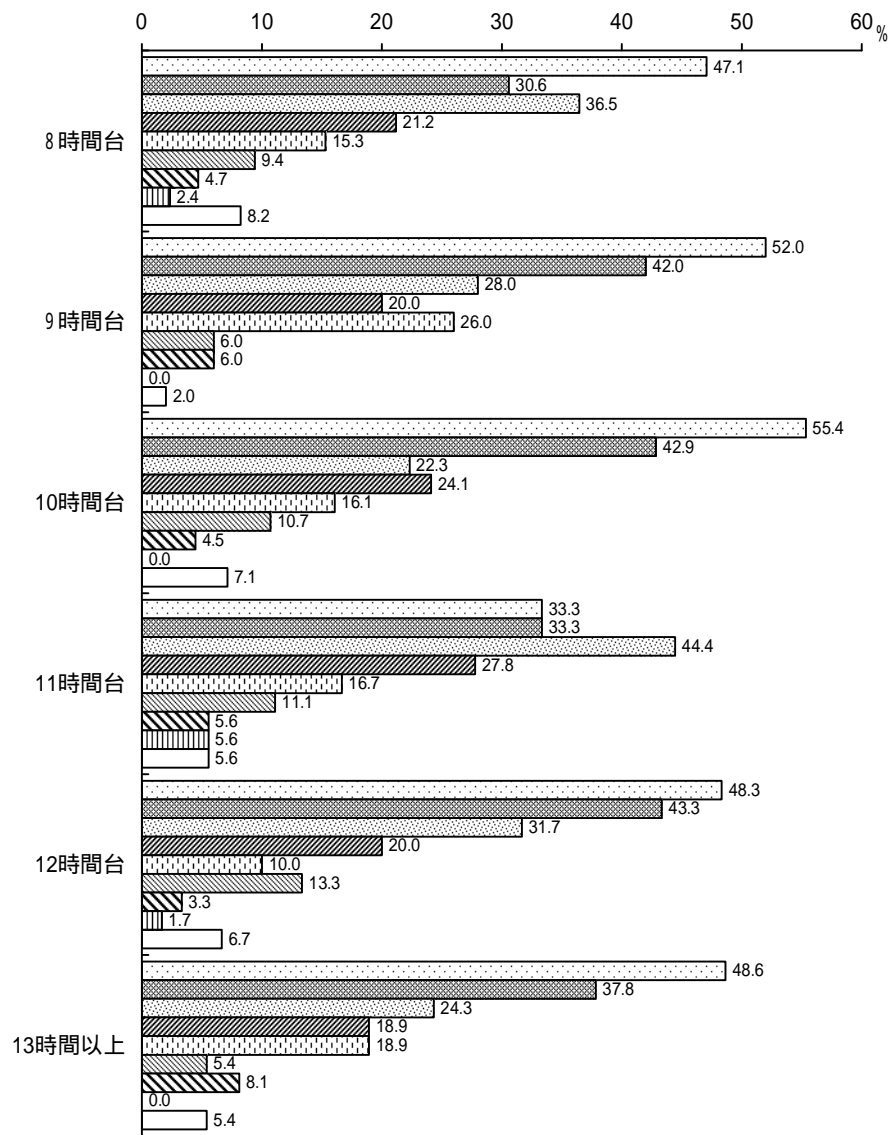
□ 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方(692)
 ■ 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方(869)

男性の育児への参加を促進するために必要なことについての男性の回答を、仕事をしている時間別にみると、8時間台の方では、「男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く47.1%、次いで、「夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと」と回答した方の割合が36.5%でした。

仕事をしている時間が8・9・10・12・13時間台の方では、「男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く、それぞれ47.1%、52.0%、55.4%、48.3%、48.6%でした。

仕事をしている時間が11時間台の方では、「夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと」と回答した方の割合が最も多く、44.4%でした。

図18-7 男性の育児への参加を促進するために必要なこと / 男性 / 仕事をしている時間別



- 男性が育児休暇を取りやすいように職場環境を整えること
- ▣ 労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること
- ▤ 夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと
- ▥ 男性の、企業中心の生き方・考え方をあらためること
- ▦ 男性の育児への理解と協力を得るための啓発活動を行うこと
- ▧ 男性が気軽に参加できるような育児・子育て講座を開催すること
- ▨ その他
- ▩ わからない
- 無回答

問19 <男性の介護への参加を促進するために必要なこと>

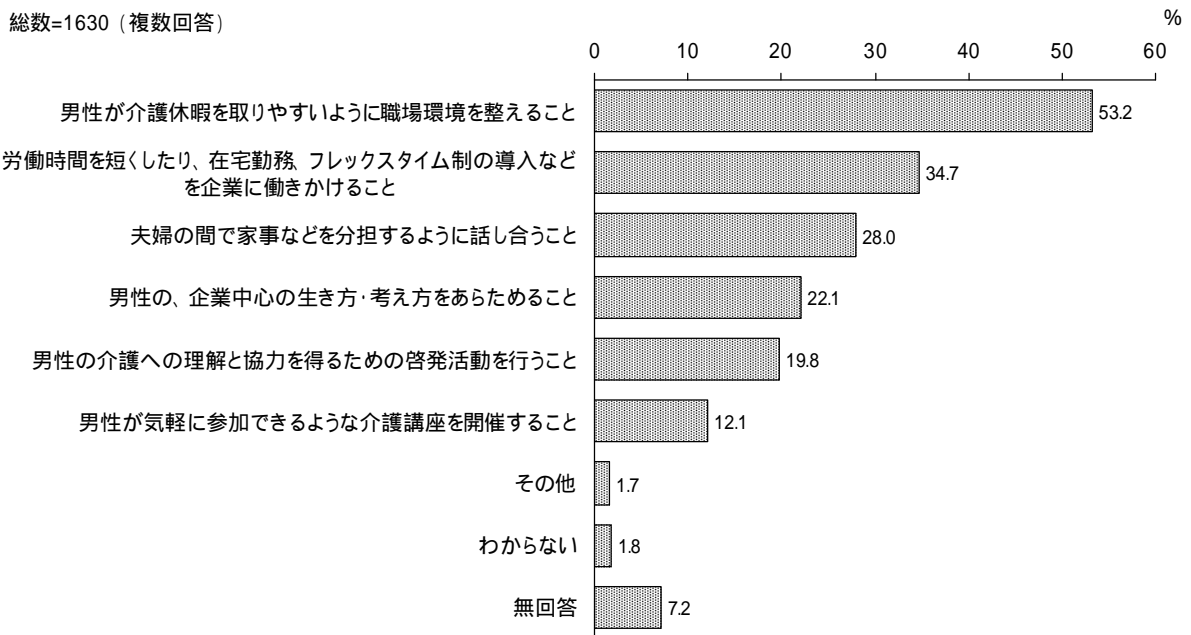
男性の介護への参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(2つまでに)

1. 男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること
2. 労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること
3. 男性の介護への理解と協力を得るための啓発活動を行うこと
4. 男性が気軽に参加できるような介護講座を開催すること
5. 夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと
6. 男性の、企業中心の生き方・考え方をあらためること
7. その他()
8. わからない

男性の介護への参加を促進するために必要なこととしては、「男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く53.2%、次いで、「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること」と回答した方の割合が34.7%、「夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと」と回答した方の割合が28.0%でした。

図19-1 男性の介護への参加を促進するために必要なこと



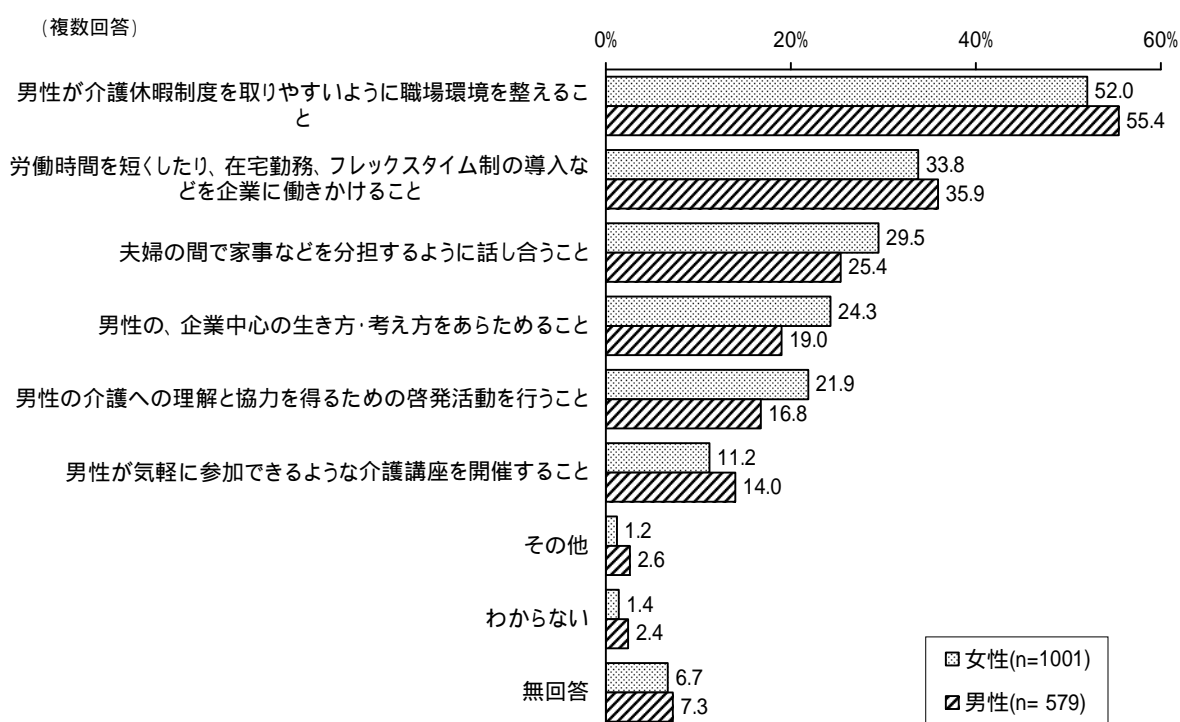
男性の介護への参加を促進するために必要なこと

項目名【2つまでの複数回答】	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
男性が介護休暇制度を取りやすいように職場環境を整えること	867	53.2
労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること	565	34.7
男性の介護への理解と協力を得るための啓発活動を行うこと	323	19.8
男性が気軽に参加できるような介護講座を開催すること	197	12.1
夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと	456	28.0
男性の、企業中心の生き方・考え方をあらためること	361	22.1
その他	27	1.7
わからない	29	1.8
無回答	117	7.2

男性の介護への参加を促進するために必要なことを、性別にみると、女性では、「男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く52.0%、次いで、「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること」と回答した方の割合が33.8%、「夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと」と回答した方の割合が29.5%でした。

一方、男性でも、「男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く55.4%、次いで、「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること」と回答した方の割合が35.9%、「夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと」と回答した方の割合が25.4%でした。

図19-2 男性の介護への参加を促進するために必要なこと/性別

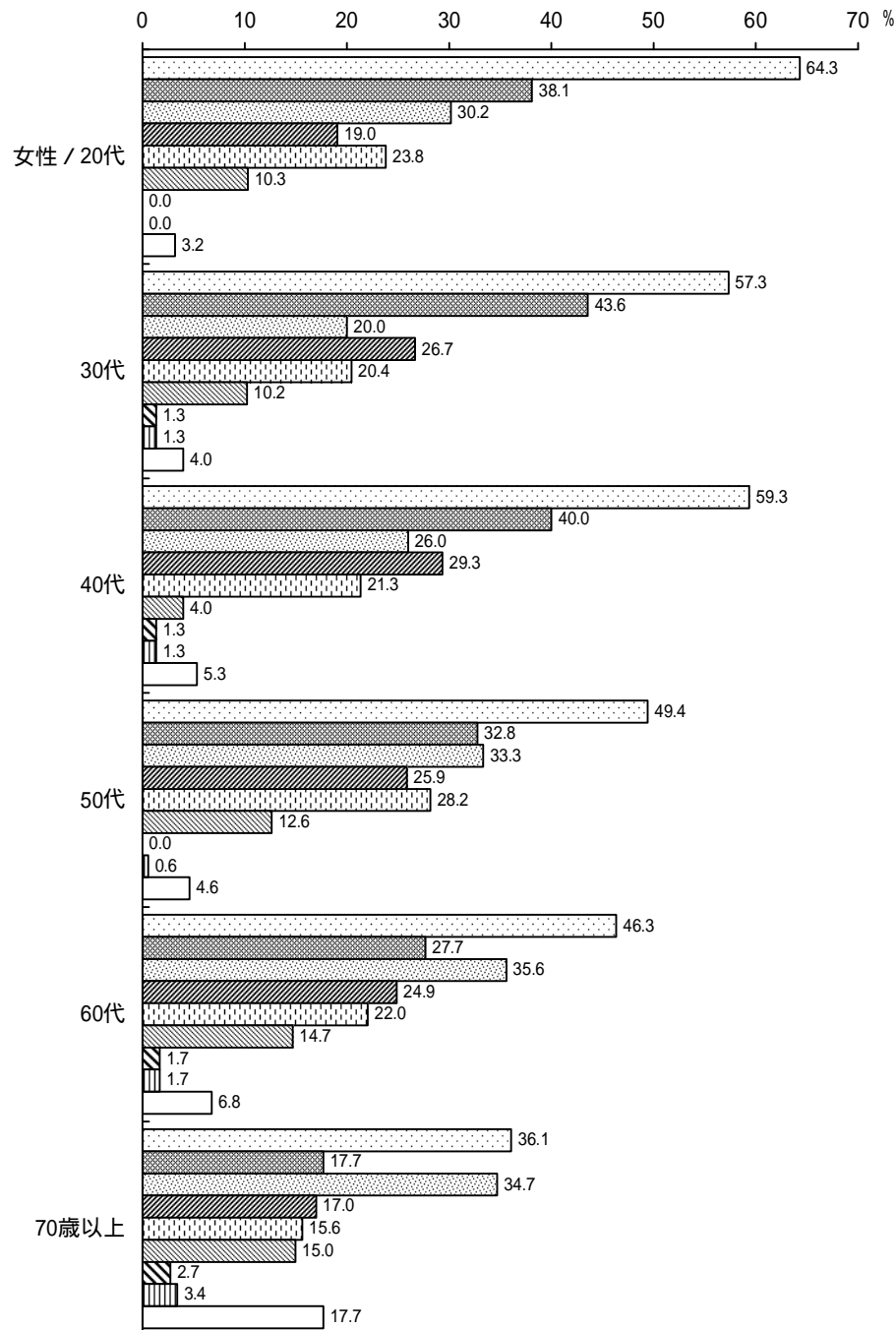


男性の介護への参加を促進するために必要なこと 【2つまでの複数回答】

	全体	男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること	労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること	男性の介護への理解と協力を得るための啓発活動を行うこと	男性が気軽に参加できるような介護講座を開催すること	夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと	男性の、企業中心の生き方・考え方をあらためること	その他	わからない	無回答
全体	1630 100.0	867 53.2	565 34.7	323 19.8	197 12.1	456 28.0	361 22.1	27 1.7	29 1.8	117 7.2
性別	女性	1001 100.0	521 52.0	338 33.8	219 21.9	112 11.2	295 29.5	243 24.3	12 1.2	14 6.7
	男性	579 100.0	321 55.4	208 35.9	97 16.8	81 14.0	147 25.4	110 19.0	15 2.6	14 7.3
	無回答	50 100.0	25 50.0	19 38.0	7 14.0	4 8.0	14 28.0	8 16.0	-	1 2.0

男性の介護への参加を促進するために必要なことについての女性の回答を、年代別にみると、どの年代においても、「男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多くなっていることがわかります。

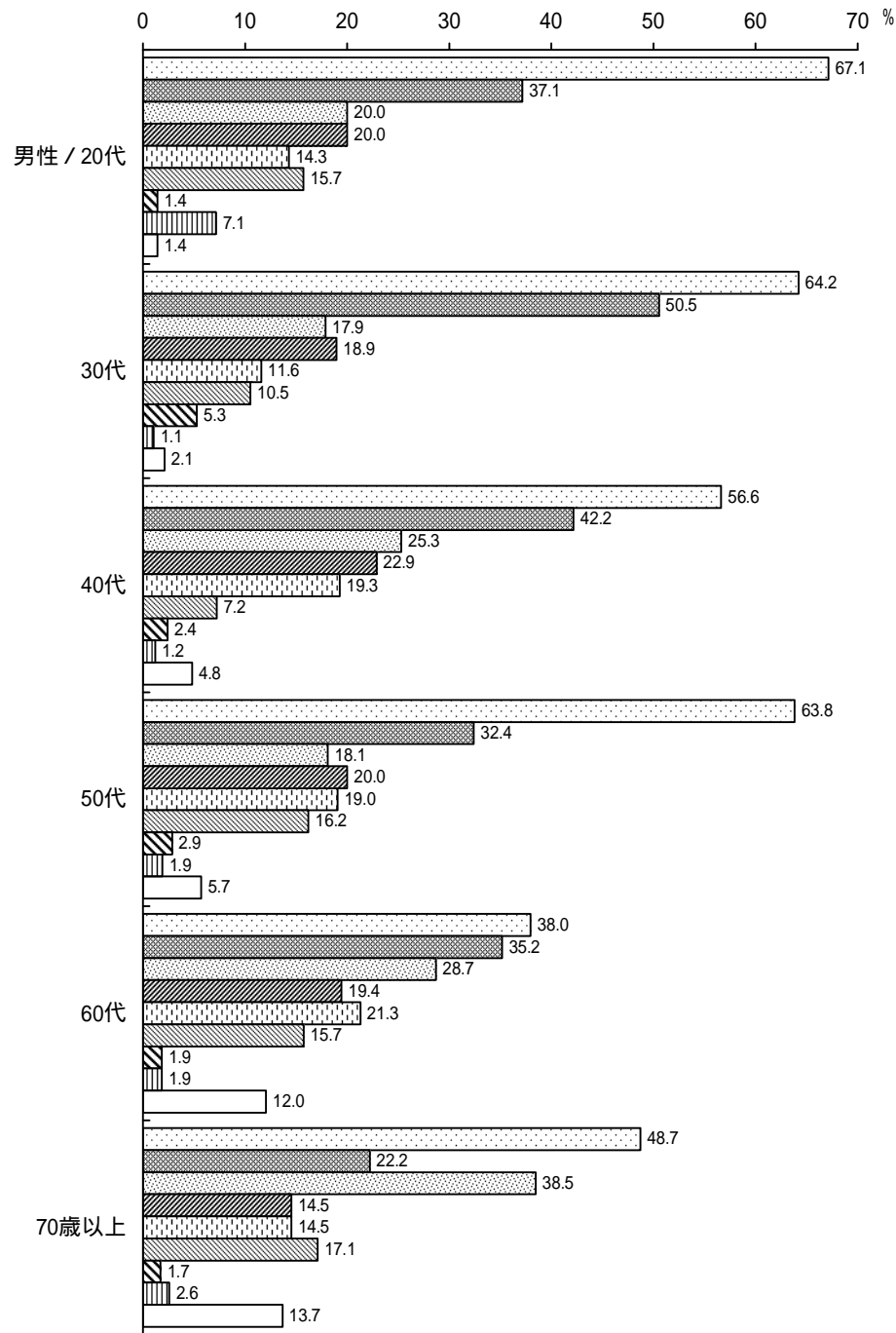
図19-3 男性の介護への参加を促進するために必要なこと / 年代別 / 女性



- 男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること
- 労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること
- ▣ 夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと
- ▤ 男性の、企業中心の生き方・考え方をあらためること
- 男性の介護への理解と協力を得るための啓発活動を行うこと
- ▥ 男性が気軽に参加できるような介護講座を開催すること
- ▧ その他
- わからない
- 無回答

男性の介護への参加を促進するために必要なことについての男性の回答を、年代別にみると、どの年代においても、「男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多くなっていることがわかります。

図19-4 男性の介護への参加を促進するために必要なこと/年代別/男性

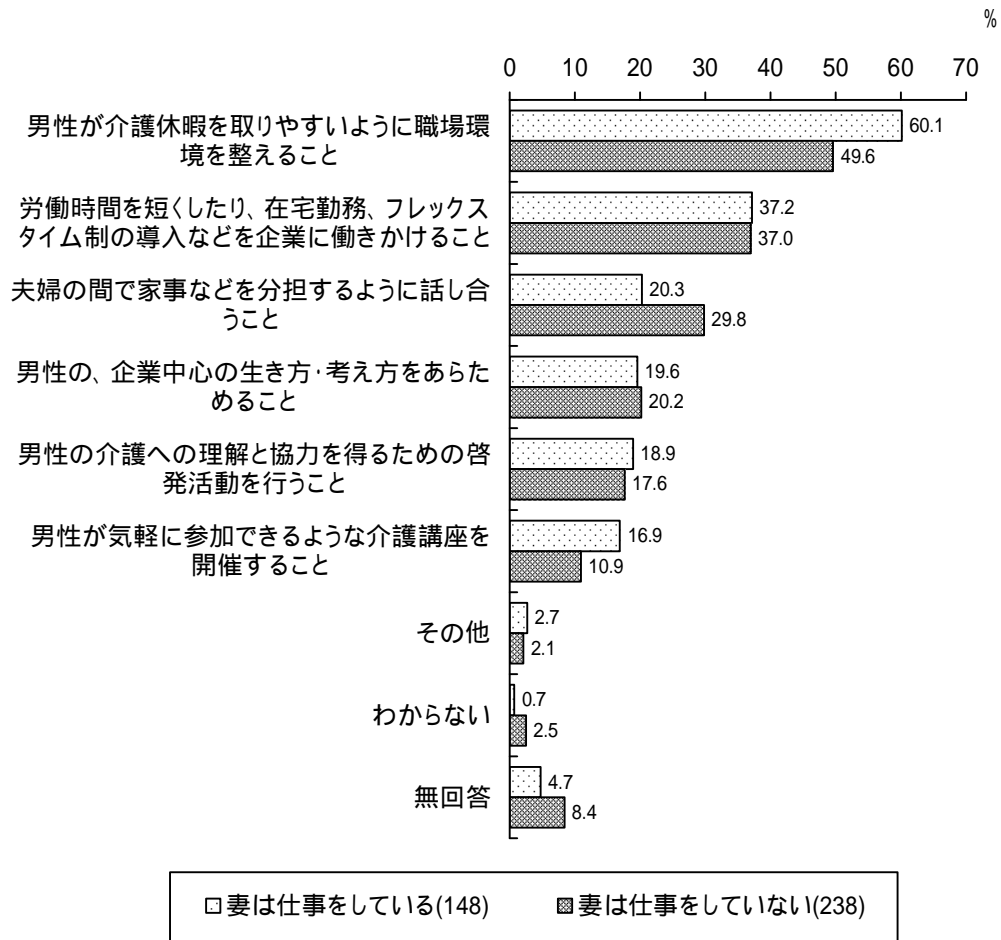


- 男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること
- ▣ 労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること
- ▤ 夫婦の間で家事などを分担するように話し合うこと
- ▥ 男性の、企業中心の生き方・考え方をあらためること
- ▦ 男性の介護への理解と協力を得るための啓発活動を行うこと
- ▧ 男性が気軽に参加できるような介護講座を開催すること
- ▨ その他
- ▩ わからない
- 無回答

男性の介護への参加を促進するために必要なことについての男性の回答を、妻の仕事の有無別にみると、妻が仕事をしている方では、「男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く、60.1%、次いで、「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること」が37.2%でした。

一方、妻が仕事をしていない方では、「男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く、49.6%、次いで、「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること」が37.0%でした。

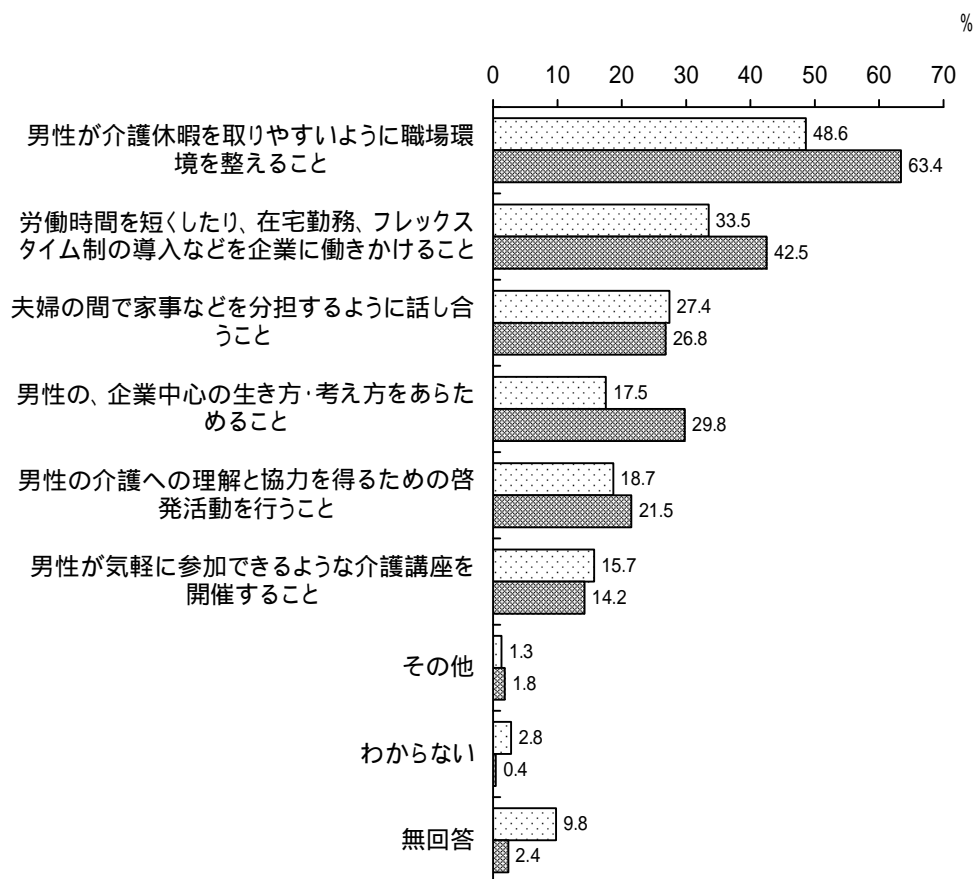
図19-5 男性の介護への参加を促進するために必要なこと / 男性 / 妻の仕事の有無別



男性の介護への参加を促進するために必要なことについて、「男は仕事、女は家庭」という考え方についての回答別にみると、「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方では、「男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く、48.6%、次いで、「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること」と回答した方の割合が33.5%でした。

一方、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方では、「男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く、63.4%、次いで、「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること」と回答した方の割合が42.5%でした。

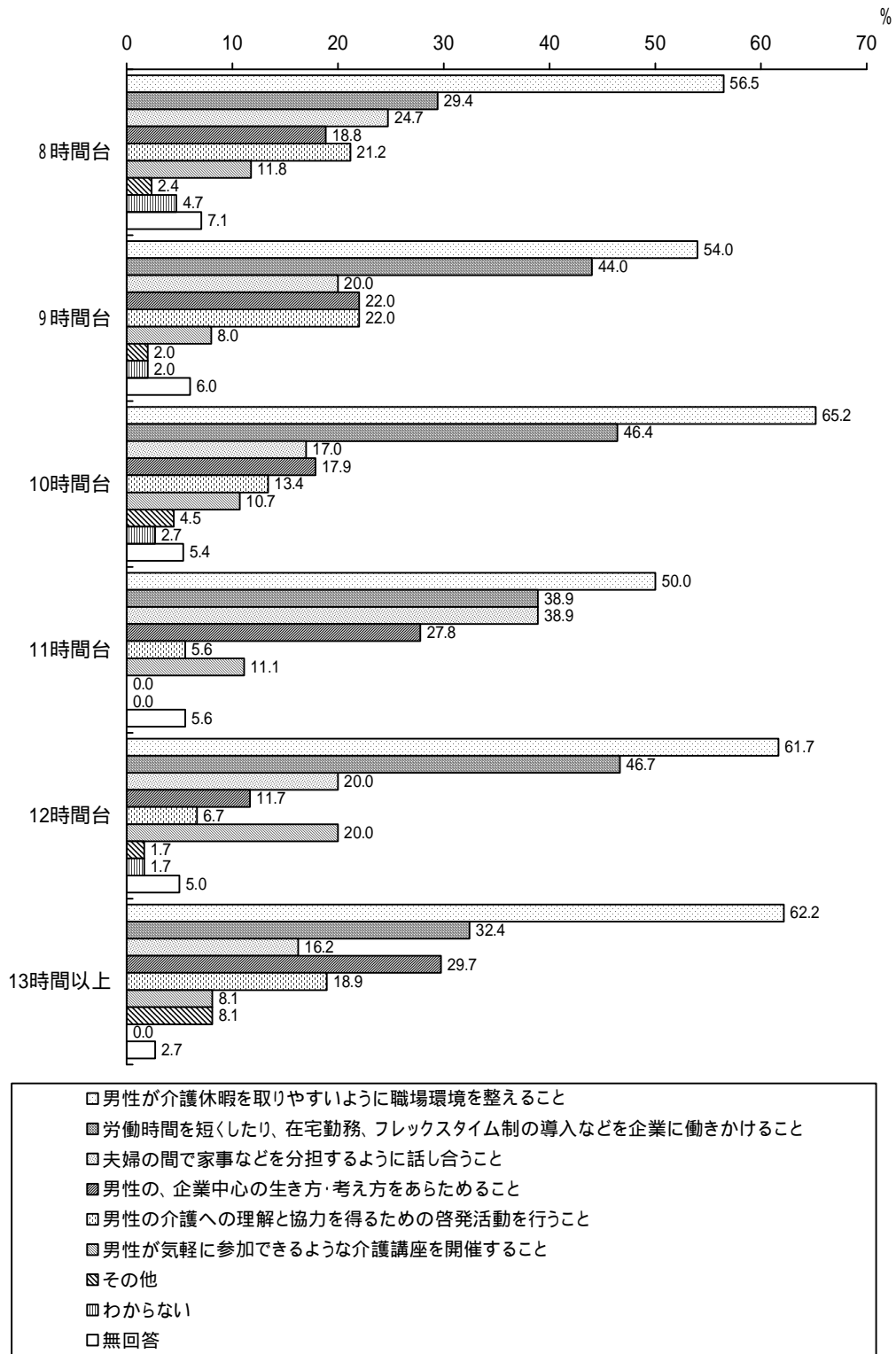
図19-6 男性の介護への参加を促進するために必要なこと / 「男は仕事、女は家庭」という考え方についての回答別



□ 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「賛成である」或いは「どちらかといえば賛成である」と回答した方(692)
 ■ 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「反対である」或いは「どちらかといえば反対である」と回答した方(869)

男性の介護への参加を促進するために必要なことについての男性の回答を、仕事をしている時間（8時間以上）別にみると、どの時間区分においても、「男性が介護休暇を取りやすいように職場環境を整えること」と回答した方の割合が最も多く、次いで、「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを企業に働きかけること」と回答した方の割合が多くなっています。

図19-7 男性の介護への参加を促進するために必要なこと / 仕事をしている時間別



社会参加・参画について

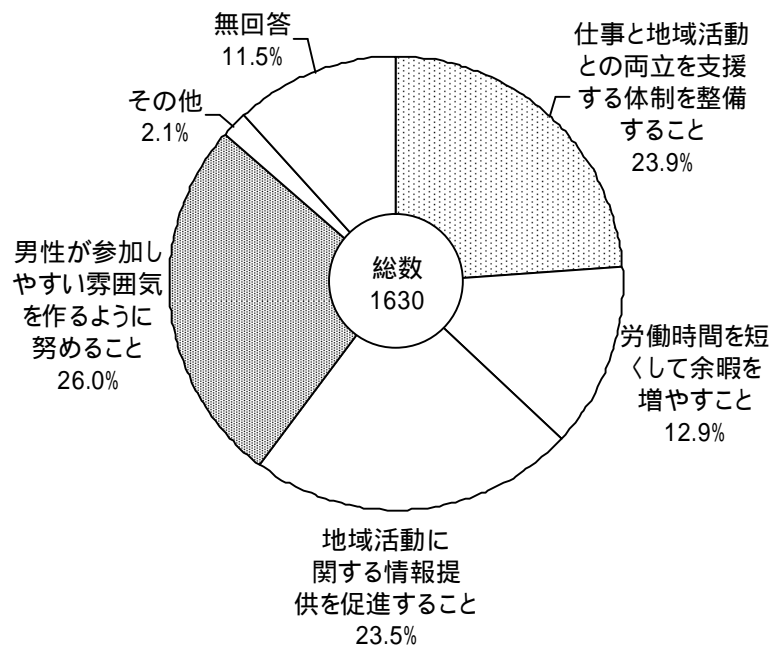
問20 <男性の地域活動への参加促進に必要なこと>

男性の地域活動への参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(ひとつだけに)

1. 仕事と地域活動との両立を支援する体制を整備すること
2. 労働時間を短くして余暇を増やすこと
3. 地域活動に関する情報提供を促進すること
4. 男性が参加しやすい雰囲気を作るように努めること
5. その他()

男性の地域活動への参加を促進するために必要なこととしては、「男性が参加しやすい雰囲気を作るように努めること」と回答した方の割合が最も多く26.0%、次いで、「仕事と地域活動との両立を支援する体制を整備すること」と回答した方の割合が23.9%でした。

図20-1 男性の地域活動への参加を促進するために必要なこと



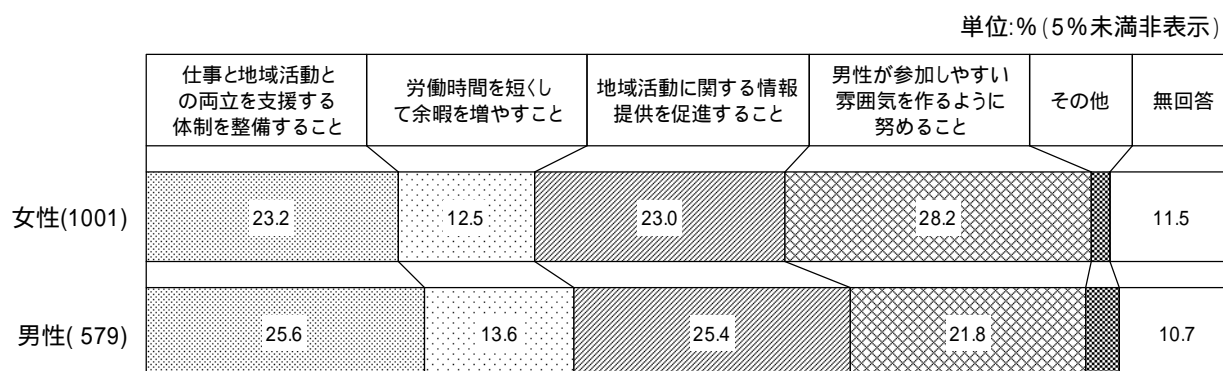
男性の地域活動への参加を促進するために必要なこと

項目名	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
仕事と地域活動との両立を支援する体制を整備すること	390	23.9
労働時間を短くして余暇を増やすこと	211	12.9
地域活動に関する情報提供を促進すること	383	23.5
参加しやすい雰囲気を作るように努めること	424	26.0
その他	34	2.1
無回答	188	11.5

男性の地域活動への参加を促進するために必要なことを、性別にみると、女性では、「男性が参加しやすい雰囲気を作るように努めること」と回答した方の割合が最も多く28.2%、次いで、「仕事と地域活動との両立を支援する体制を整備すること」と回答した方の割合が23.2%でした。

一方、男性では、「仕事と地域活動との両立を支援する体制を整備すること」と回答した方の割合が最も多く25.6%、次いで、「地域活動に関する情報提供を促進すること」と回答した方の割合が25.4%でした。

図20-2 男性の地域活動への参加を促進するために必要なこと / 性別



(注)5%未満数値:女性(1.7)男性(2.9)

男性の地域活動への参加を促進するために必要なこと

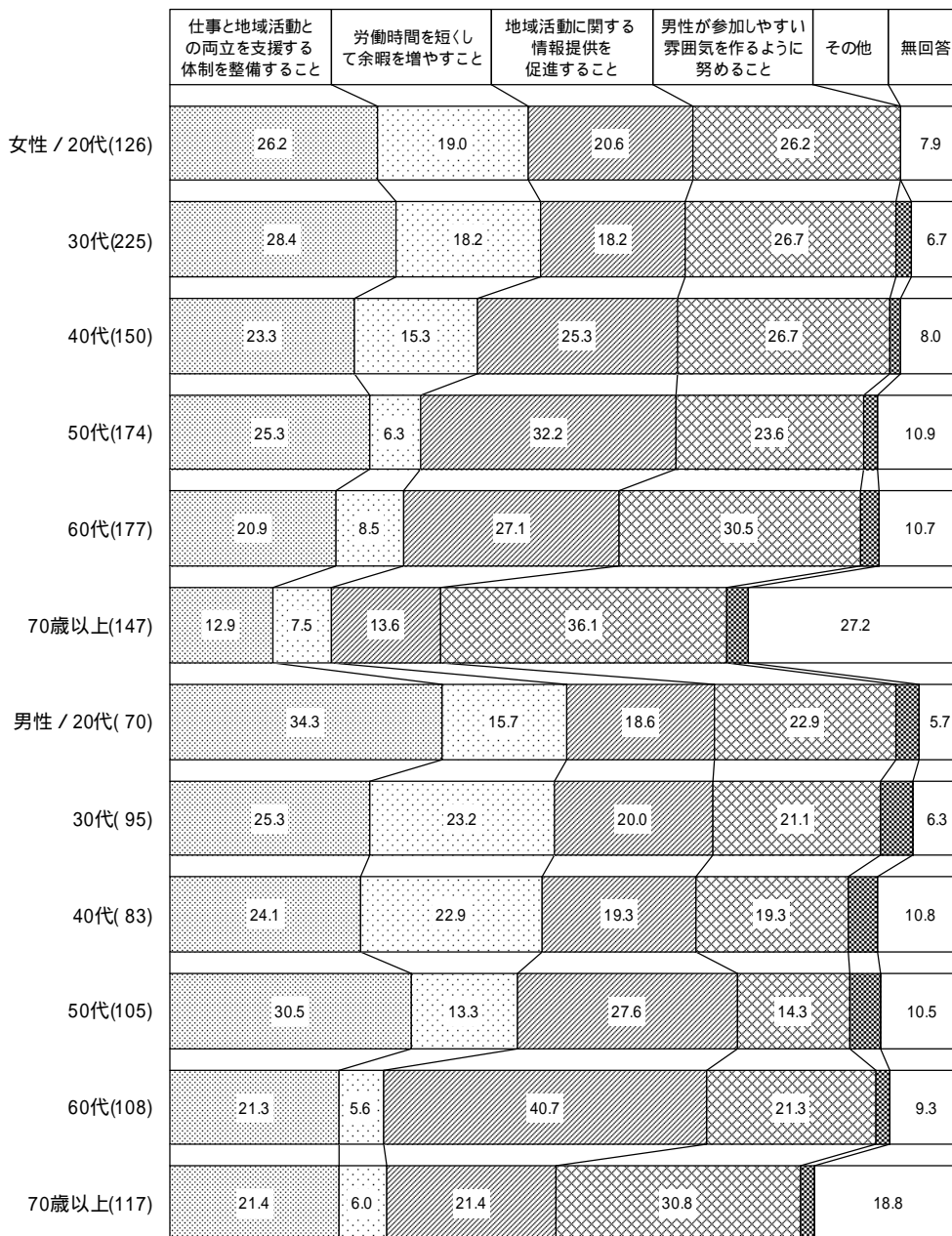
		全体	仕事と地域活動との両立を支援する体制を整備すること	労働時間を短くして余暇を増やすこと	地域活動に関する情報提供を促進すること	男性が参加しやすい雰囲気を作るように努めること	その他	無回答
全体		1630	390	211	383	424	34	188
		100.0	23.9	12.9	23.5	26.0	2.1	11.5
性別	女性	1001	232	125	230	282	17	115
		100.0	23.2	12.5	23.0	28.2	1.7	11.5
	男性	579	148	79	147	126	17	62
	100.0	25.6	13.6	25.4	21.8	2.9	10.7	
	無回答	50	10	7	6	16	-	11
		100.0	20.0	14.0	12.0	32.0	-	22.0

男性の地域活動への参加を促進するために必要なことを、性別・年代別にみると、女性では、「男性が参加しやすい雰囲気を作るように努めること」と回答した方の割合が、70歳以上で36.1%、60代で30.5%、「地域活動に関する情報提供を促進すること」と回答した方の割合は、50代で32.2%、60代で27.1%、「仕事と地域活動との両立を支援する体制を整備すること」と回答した方の割合は、30代で28.4%、20代で26.2%となっています。

一方、男性では、「男性が参加しやすい雰囲気を作るように努めること」と回答した方の割合が、30.8%、「地域活動に関する情報提供を促進すること」と回答した方の割合は、60代で40.7%、50代で27.6%、「仕事と地域活動との両立を支援する体制を整備すること」と回答した方の割合は、20代で34.3%、50代で30.5%でした。

図20-3 男性の地域活動への参加を促進するために必要なこと / 性別・年代別

単位: % (5%未満非表示)

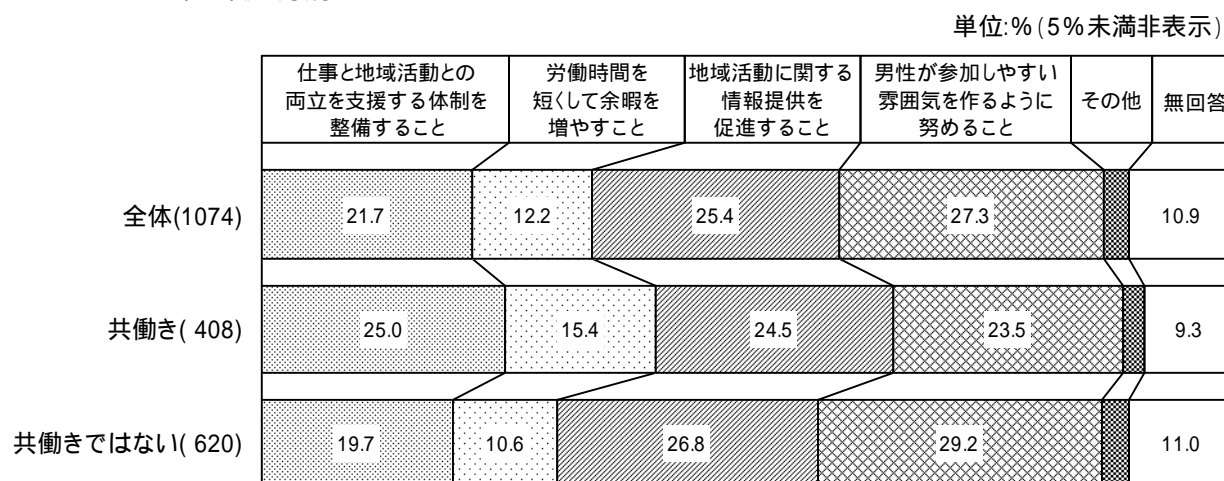


(注)5%未満数値:女性/20代(-)30代(1.8)40代(1.3)50代(1.7)60代(2.3)70歳以上(2.7)男性/20代(2.9)30代(4.2)40代(3.6)50代(3.8)60代(1.9)70歳以上(1.7)

男性の地域活動への参加を促進するために必要なことを、世帯の働き方別にみると、共働き世帯では、「仕事と地域活動との両立を支援する体制を整備すること」と回答した方の割合が最も高く25.0%、次いで、「地域活動に関する情報提供を促進すること」が24.5%でした。

一方、共働きではない世帯では、「男性が参加しやすい雰囲気を作るように努めること」と回答した方の割合が最も多く29.2%、次いで、「地域活動に関する情報提供を促進すること」が26.8%でした。

図20-4 男性の地域活動への参加を促進するために必要なこと
/ 世帯の働き方別



(注)5%未満数値:全体(2.5)共働き(2.2)共働きではない(2.7)

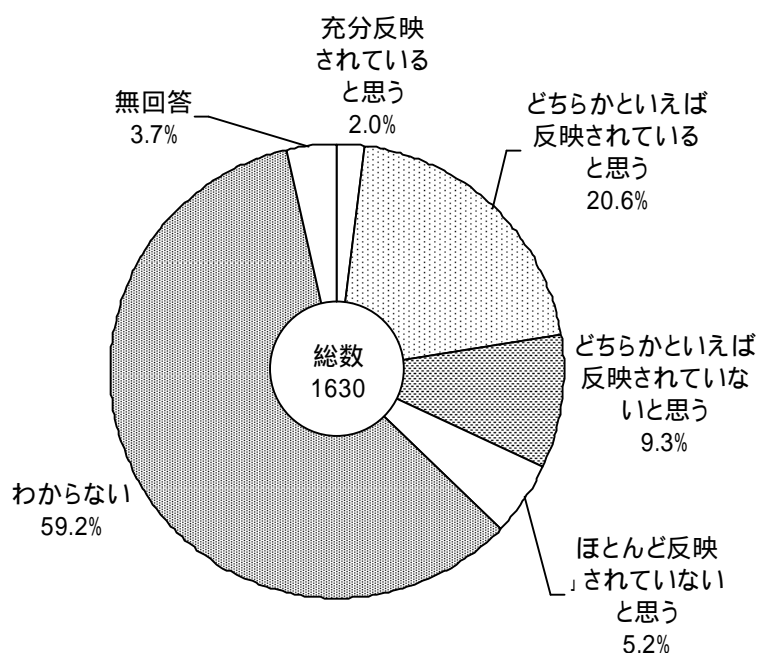
問 2 1 < 杉並区の施策に女性の意見が反映されているか >

あなたは、杉並区の施策に、女性の意見が十分に反映されていると思いますか。
(ひとつだけに)

1. 充分反映されていると思う
2. どちらかといえば反映されていると思う
3. どちらかといえば反映されていないと思う
4. ほとんど反映されていないと思う
5. わからない

杉並区の施策に女性の意見が反映されているかについては、「どちらかといえば反映されていると思う」と回答した方の割合が20.6%、「どちらかといえば反映されていないと思う」と回答した方の割合が9.3%、「わからない」と回答した方の割合が59.2%でした。

図 21 - 1 杉並区の施策への女性の意見の反映



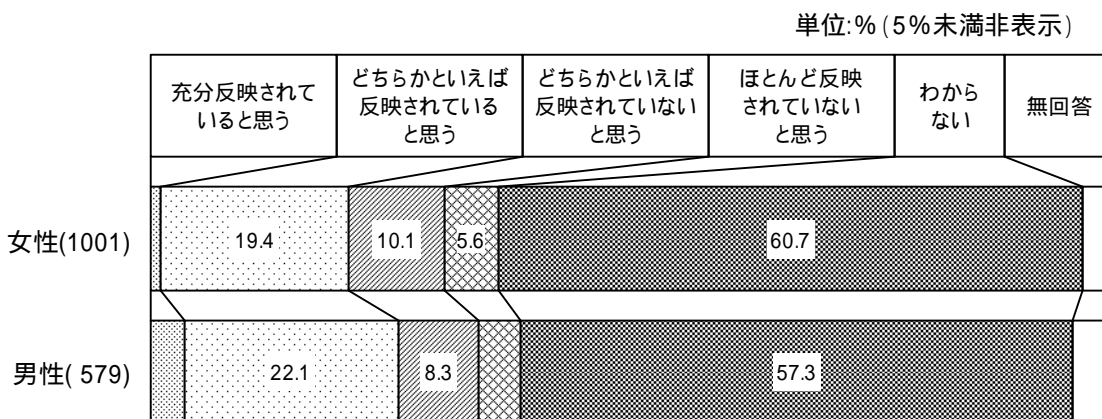
杉並区の施策への女性の意見の反映

項目名	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
充分反映されていると思う	33	2.0
どちらかといえば反映されていると思う	336	20.6
どちらかといえば反映されていないと思う	151	9.3
ほとんど反映されていないと思う	85	5.2
わからない	965	59.2
無回答	60	3.7

杉並区の施策に女性の意見が反映されているかについて、性別にみると、女性では、「どちらかといえば反映されていると思う」と回答した方の割合が19.4%、次いで、「どちらかといえば反映されていないと思う」と回答した方の割合が10.1%、「わからない」と回答した方の割合が60.7%でした。

一方、男性では、「どちらかといえば反映されていると思う」と回答した方の割合が22.1%、次いで、「どちらかといえば反映されていないと思う」と回答した方の割合が8.3%、「わからない」と回答した方の割合が57.3%でした。

図21-2 杉並区の施策への女性の意見の反映 / 性別



(注)5%未満数値:女性(1.1 3.1)男性(3.6 4.5 4.1)

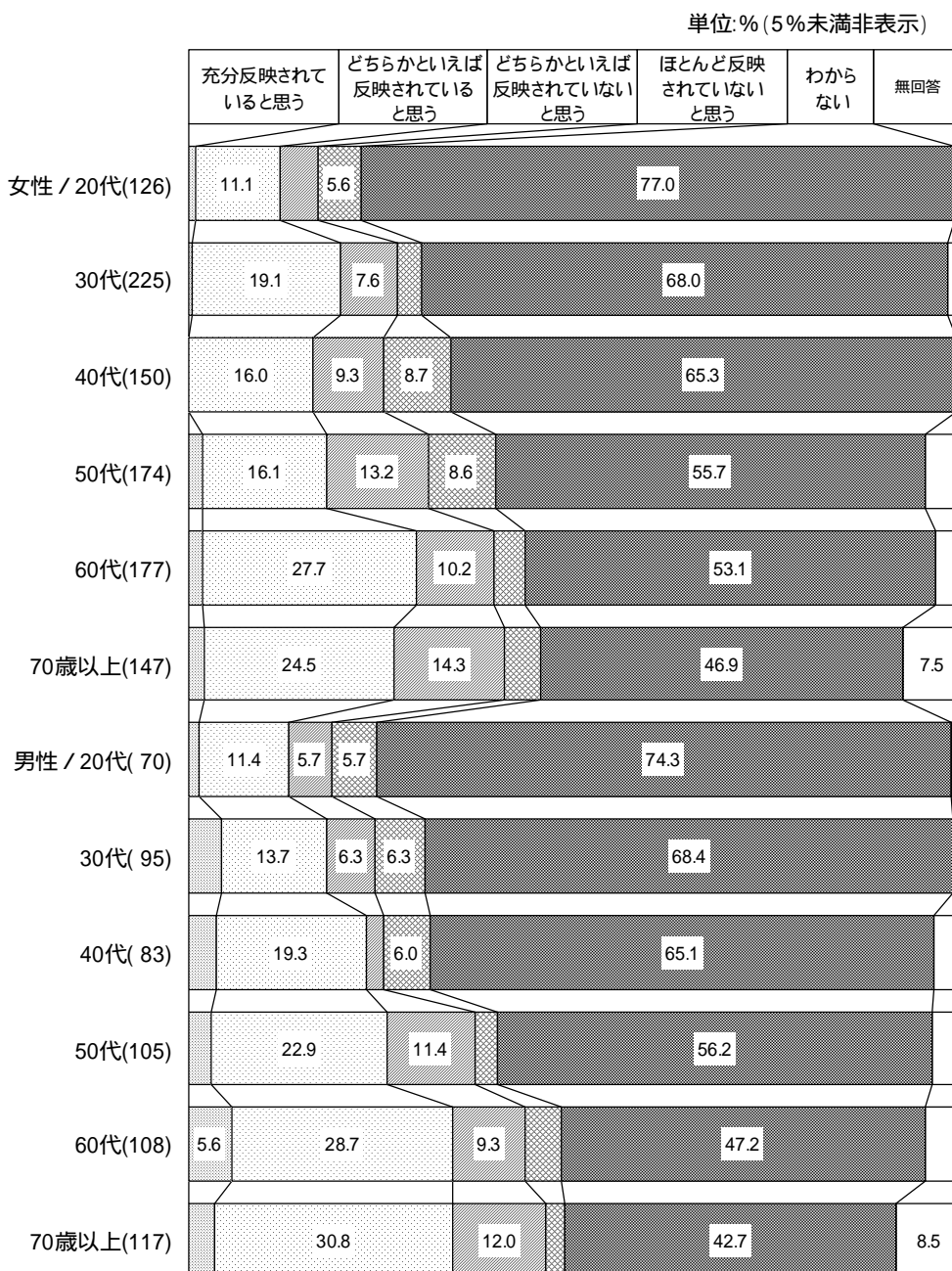
杉並区の施策への女性の意見の反映 / 性別

		全体	充分反映されていると思う	どちらかといえば反映されていると思う	どちらかといえば反映されていないと思う	ほとんど反映されていないと思う	わからない	無回答
全体		1630 100.0	33 2.0	336 20.6	151 9.3	85 5.2	965 59.2	60 3.7
性別	女性	1001 100.0	11 1.1	194 19.4	101 10.1	56 5.6	608 60.7	31 3.1
	男性	579 100.0	21 3.6	128 22.1	48 8.3	26 4.5	332 57.3	24 4.1
	無回答	50 100.0	1 2.0	14 28.0	2 4.0	3 6.0	25 50.0	5 10.0

杉並区の施策に女性の意見が反映されているかについて、性別・年代別にみると、「充分反映されていると思う」或いは「どちらかといえば反映されていると思う」と回答した方の割合が最も多かったのが、女性では60代の29.4%、次いで、70歳以上の26.5%、男性では、60代が最も多く34.3%、次いで、70歳以上が34.2%でした。

一方、「ほとんど反映されていないと思う」或いは「どちらかといえば反映されていないと思う」と回答した方の割合が最も多かったのは、女性では50代が21.8%、ついで、70代が19.1%、男性では、70歳以上が最も多く14.6%、次いで、50代が14.3%でした。

図21-3 杉並区の施策への女性の意見の反映 / 性別・年代別



(注)5%未満数値:女性 / 20代(0.8 4.8 0.8)30代(0.4 3.1 1.8)40代(- 0.7)50代(1.7 4.6)60代(1.7 4.0 3.4)70歳以上(2.0 4.8)男性 / 20代(1.4 1.4)30代(4.2 1.1)40代(3.6 2.4 3.6)50代(2.9 2.9 3.8)60代(4.6 4.6)70歳以上(3.4 2.6)

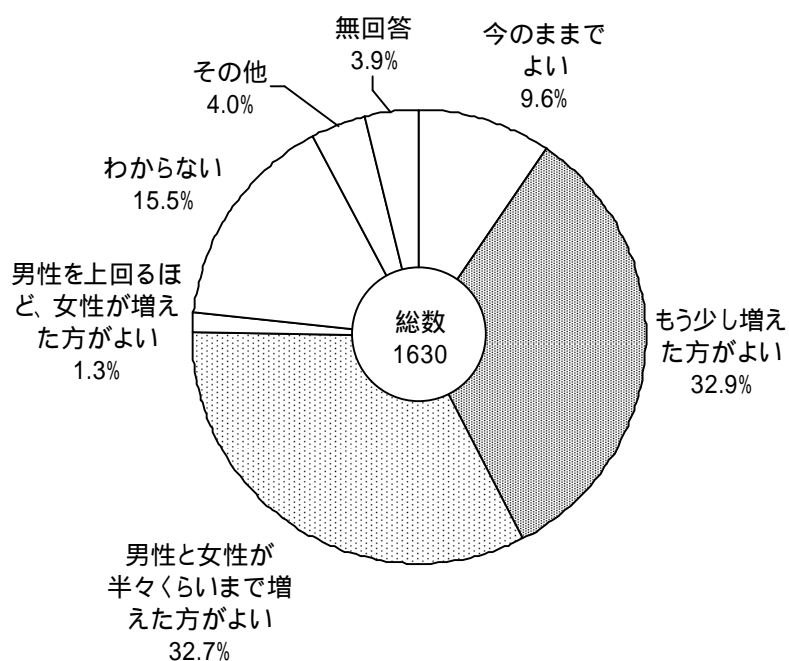
問 2 2 < 政策・方針決定の過程への女性の参加 >

最近、議員・審議会委員など、政策や方針を決定する過程への女性の参加が少しずつ進んでいます。あなたは、この状況をどう思いますか。 (ひとつだけに)

1. 今のままでよい
2. もう少し増えた方がよい
3. 男性と女性が半々くらいまで増えた方がよい
4. 男性を上回るほど、女性が増えた方がよい
5. わからない
6. その他()

政策・方針決定の過程への女性の参加については、「もう少し増えたほうがよい」と回答した方の割合が最も多く、32.9%、次いで、「男性と女性が半々くらいまで増えた方がよい」と回答した方の割合が32.7%、「わからない」と回答した方の割合が15.5%、「今のままでよい」と回答した方の割合が9.6%でした。

図 2 2 - 1 政策・方針決定の過程への女性の参加について



政策・方針決定の過程への女性の参加について

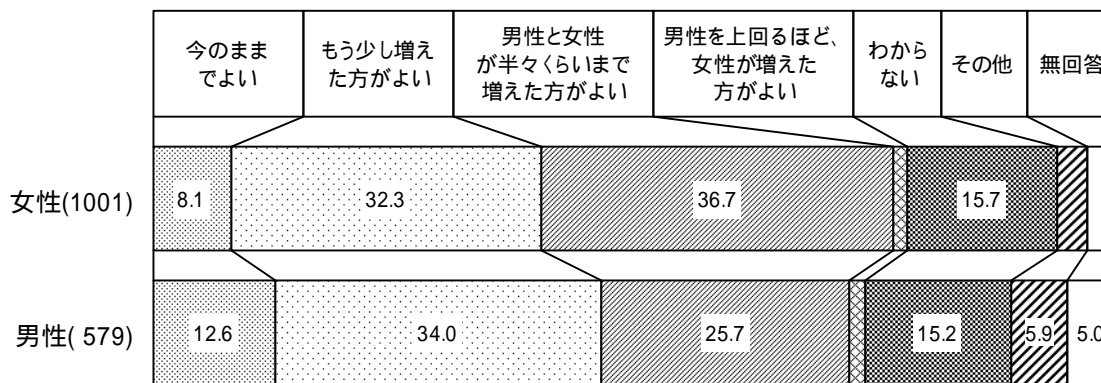
項目名	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
今のままでよい	156	9.6
もう少し増えた方がよい	537	32.9
男性と女性が半々くらいまで増えた方がよい	533	32.7
男性を上回るほど、女性が増えた方がよい	22	1.3
わからない	253	15.5
その他	65	4.0
無回答	64	3.9

政策・方針決定の過程への女性の参加について、性別にみると、女性では、「男性と女性が半々くらいまで増えた方がよい」と回答した方の割合が最も多く36.7%、次いで、「もう少し増えた方がよい」と回答した方の割合が32.3%でした。

一方、男性では、「もう少し増えた方がよい」と回答した方の割合が最も多く34.0%、次いで、「男性と女性が半々くらいまで増えた方がよい」と回答した方の割合が25.7%でした。

図22-2 政策・方針決定の過程への女性の参加 / 性別

単位:% (5%未満非表示)



(注)5%未満数値:女性(1.3 3.0 3.0)男性(1.6)

政策・方針決定の過程への女性の参加

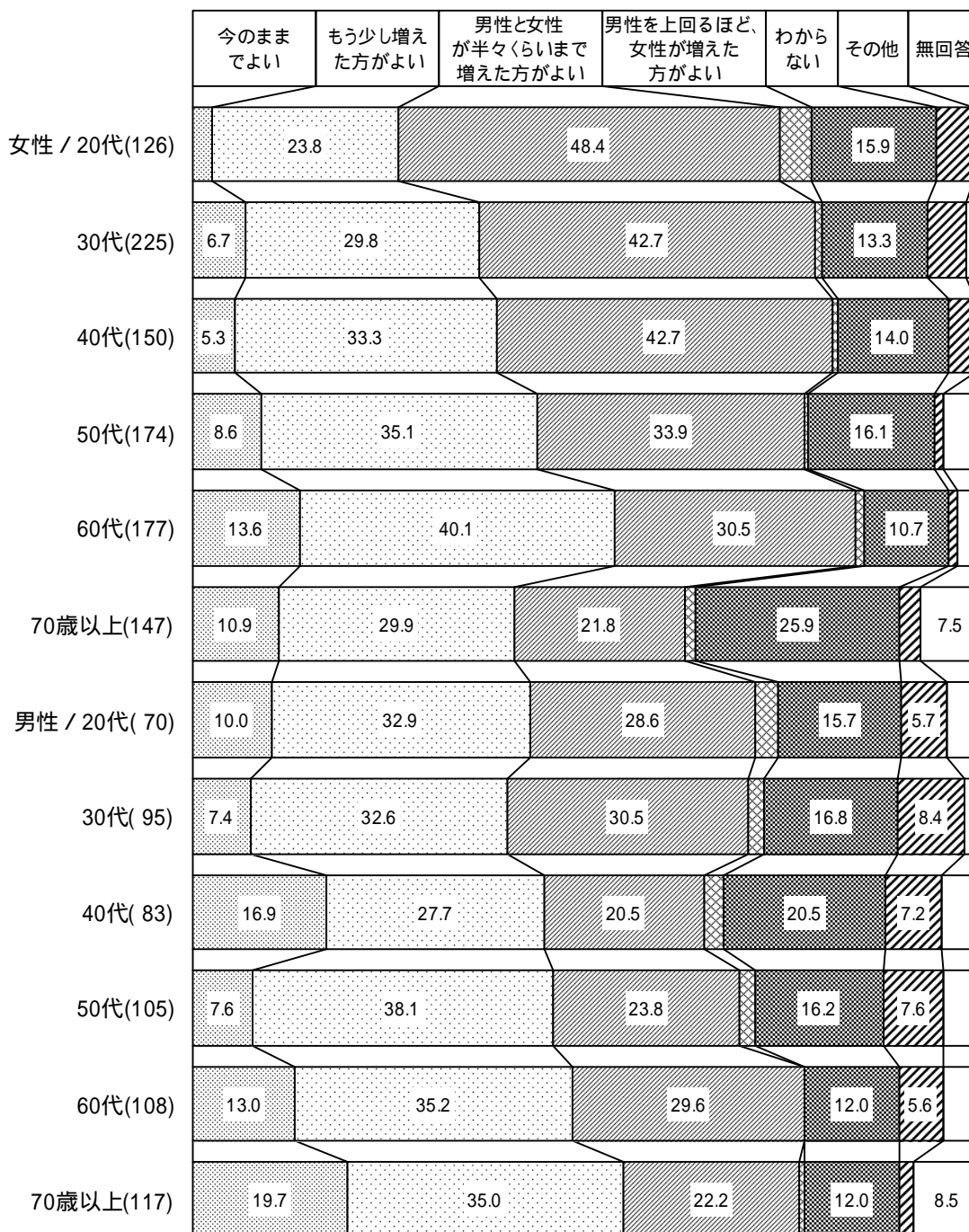
	全体	今のままでよい	もう少し増えた方がよい	男性と女性が半々くらいまで増えた方がよい	男性を上回るほど、女性が増えた方がよい	わからない	その他	無回答
全体	1630 100.0	156 9.6	537 32.9	533 32.7	22 1.3	253 15.5	65 4.0	64 3.9
性別	女性	1001 100.0	81 8.1	323 32.3	367 36.7	13 1.3	157 15.7	30 3.0
	男性	579 100.0	73 12.6	197 34.0	149 25.7	9 1.6	88 15.2	29 5.0
	無回答	50 100.0	2 4.0	17 34.0	17 34.0	-	8 16.0	1 2.0

政策・方針決定の過程への女性の参加について、性別・年代別にみると、女性では、「もう少し増えた方がよい」と回答した方の割合が最も多かったのは、60代で40.1%、「男性と女性が半々くらいまで増えた方がよい」と回答した方の割合が最も多かったのは、20代で48.4%、「今のままでよい」と回答した方の割合が最も多かったのは、60代で13.6%でした。

一方、男性では、「もう少し増えた方がよい」と回答した方の割合が最も多かったのは、50代で38.1%、「男性と女性が半々くらいまで増えたほうがよい」と回答した方の割合が最も多かったのは、30代で30.5%、「今のままでよい」と回答した方の割合が最も多かったのは、70歳以上で19.7%でした。

図22-3 政策・方針決定の過程への女性の参加 / 性別・年代別

単位:% (5%未満非表示)



(注)5%未満数値:女性 / 20代(2.4 4.0 4.8 0.8)30代(0.9 4.9 1.8)40代(0.7 3.3 0.7)50代(0.6 1.1 4.6)60代(1.1 1.1 2.8)70歳以上(1.4 2.7)男性 / 20代(2.9 4.3)30代(2.1 2.1)40代(2.4 4.8)50代(1.9 4.8)60代(- 4.6)70歳以上(0.9 1.7)

男女共同参画関係施策等について

問 2 3 < 男女共同参画に関する法律や制度の認知度 >

男女共同参画社会の実現に向けて、法律や制度の整備が進んでいます。

(ア) から (ケ) のそれぞれについてお答えください。

(それぞれひとつだけに)

	内容まで知っている	名前を聞いたことはあるが内容は知らない	聞いたことがない
(ア) 杉並区男女共同参画都市宣言			
(イ) 男女共同参画社会をめざす杉並区行動計画 平成 16 年度 ~ 20 年度			
(ウ) 女子差別撤廃条約			
(エ) 男女共同参画社会基本法			
(オ) 男女雇用機会均等法			
(カ) 労働基準法			
(キ) ストーカー規制法 (ストーカー行為等の規制等に関する法律)			
(ク) DV 防止法 (配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)			
(ケ) 東京都男女平等参画基本条例			

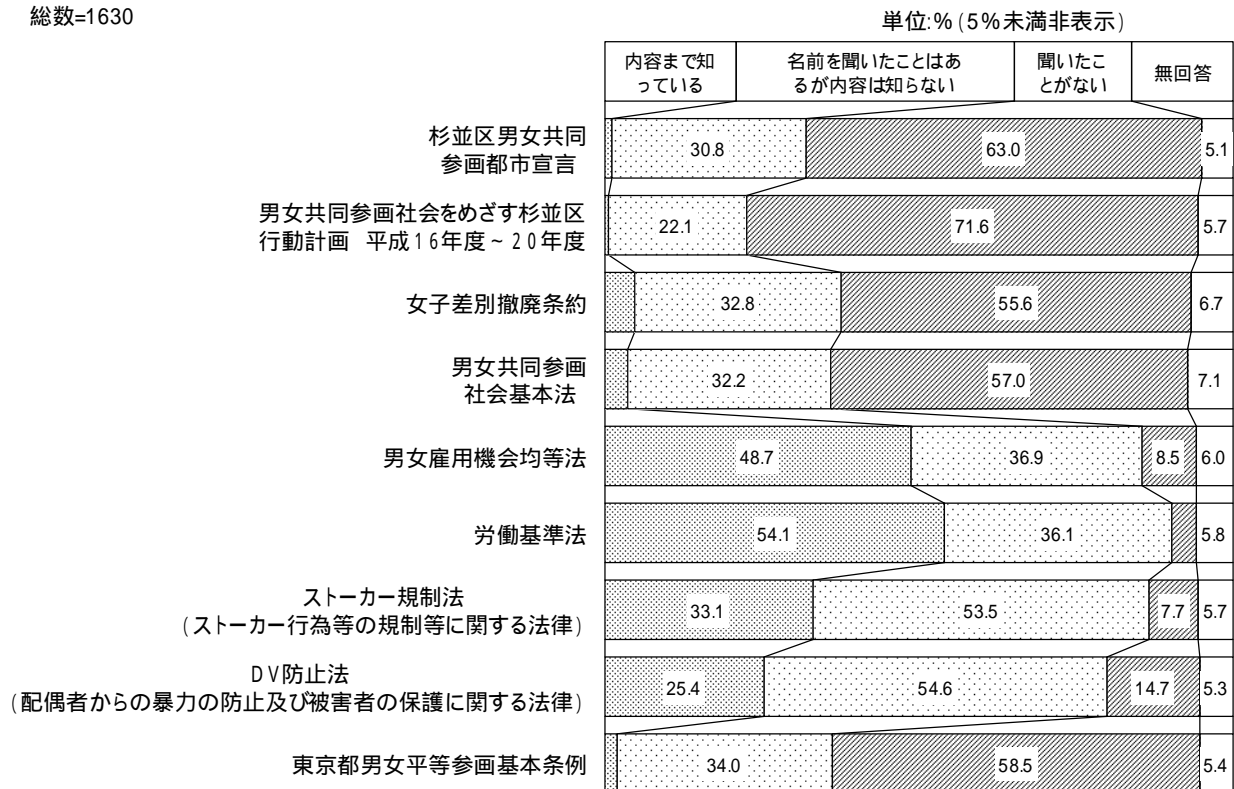
男女共同参画に関する法律や制度の認知度については、「内容まで知っている」と回答した方の割合が最も多かったのは、「労働基準法」で54.1%、次いで、「男女雇用機会均等法」で48.7%でした。

「名前を聞いたことはあるが内容は知らない」と回答した方の割合が最も多かったのは、「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）」で、54.6%、次いで、「ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）」が53.5%でした。

「聞いたことがない」と回答した方の割合が最も多かったのは、「男女共同参画社会をめざす杉並区行動計画 平成16年度～20年度」で、71.6%、次いで、「杉並区男女共同参画都市宣言」が63.0%でした。

図23-1 男女共同参画に関する法律や制度の認知度について

総数=1630



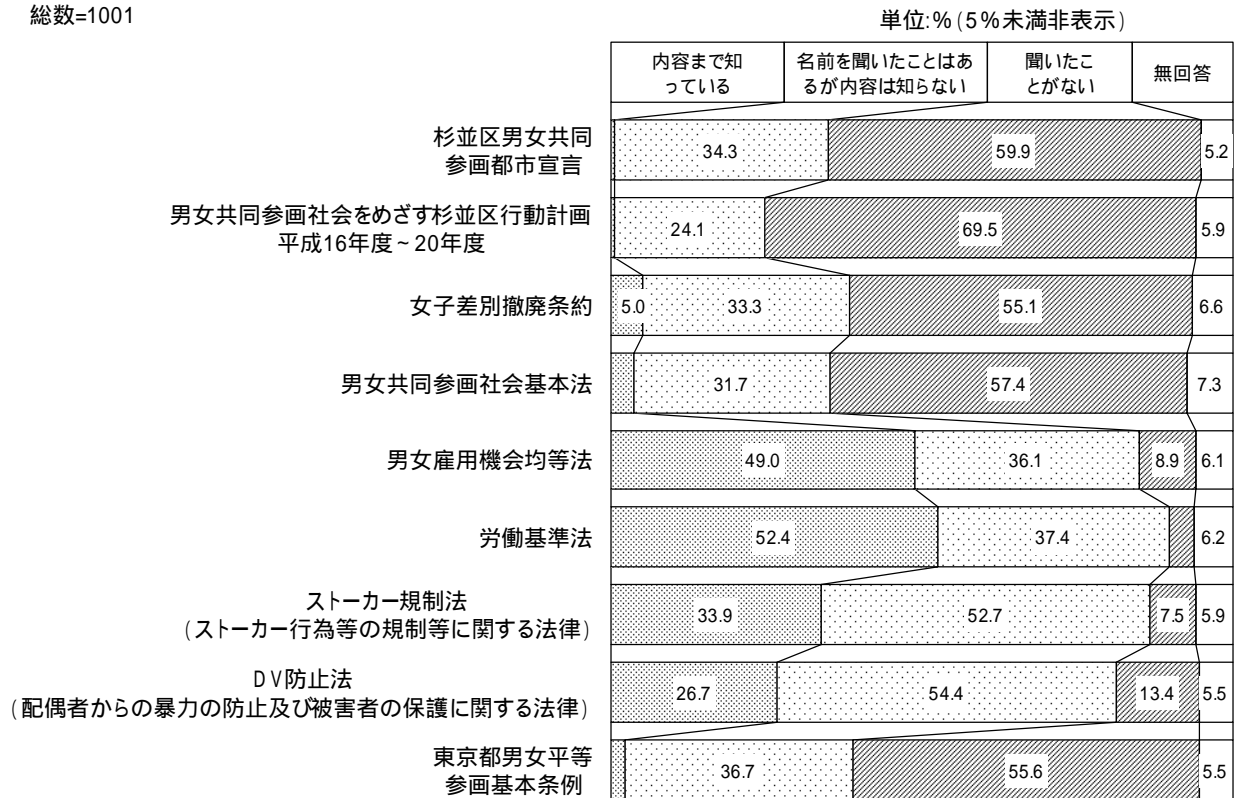
(注)5%未満数値:杉並区男女共同参画都市宣言(1.1)男女共同参画社会をめざす杉並区行動計画(0.6)女子差別撤廃条約(4.8)男女共同参画社会基本法(3.7)労働基準法(3.9)東京都男女平等参画基本条例(2.1)

男女共同参画に関する法律や制度の認知度について、性別にみると、女性では、「内容まで知っている」と回答した方の割合が最も多かったのが「労働基準法」で52.4%、「名前を聞いたことはあるが内容は知らない」と回答した方の割合が最も多かったのが「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）」で54.4%でした。

一方、「聞いたことがない」と回答した方の割合が最も多かったのは、「男女共同参画社会をめざす杉並区行動計画 平成16年度～20年度」で69.5%でした。

図23-2 男女共同参画に関する法律や制度の認知度について / 女性

総数=1001



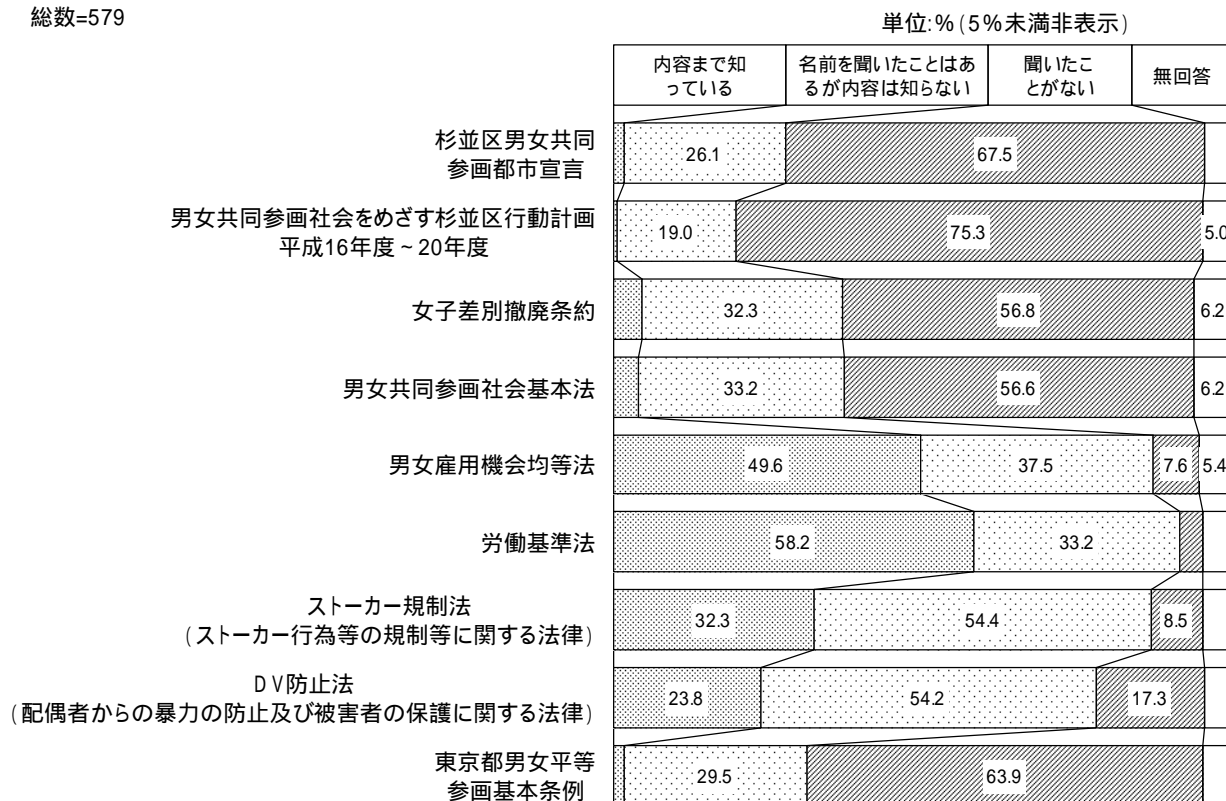
(注)5%未満数値:杉並区男女共同参画都市宣言(0.6)男女共同参画社会をめざす杉並区行動計画(0.5)男女共同参画社会基本法(3.6)労働基準法(4.0)東京都男女平等参画基本条例(2.2)

男女共同参画に関する法律や制度の認知度について、性別にみると、男性では、「内容まで知っている」と回答した方の割合が最も多かったのが「労働基準法」で58.2%、「名前を聞いたことはあるが内容は知らない」と回答した方の割合が最も多かったのが「ストーカー規制法(ストーカー行為等の規制等に関する法律)」で54.4%でした。

一方、「聞いたことがない」と回答した方の割合が最も多かったのは、「男女共同参画社会をめざす杉並区行動計画 平成16年度～20年度」で75.3%でした。

図23-3 男女共同参画に関する法律や制度の認知度について / 男性

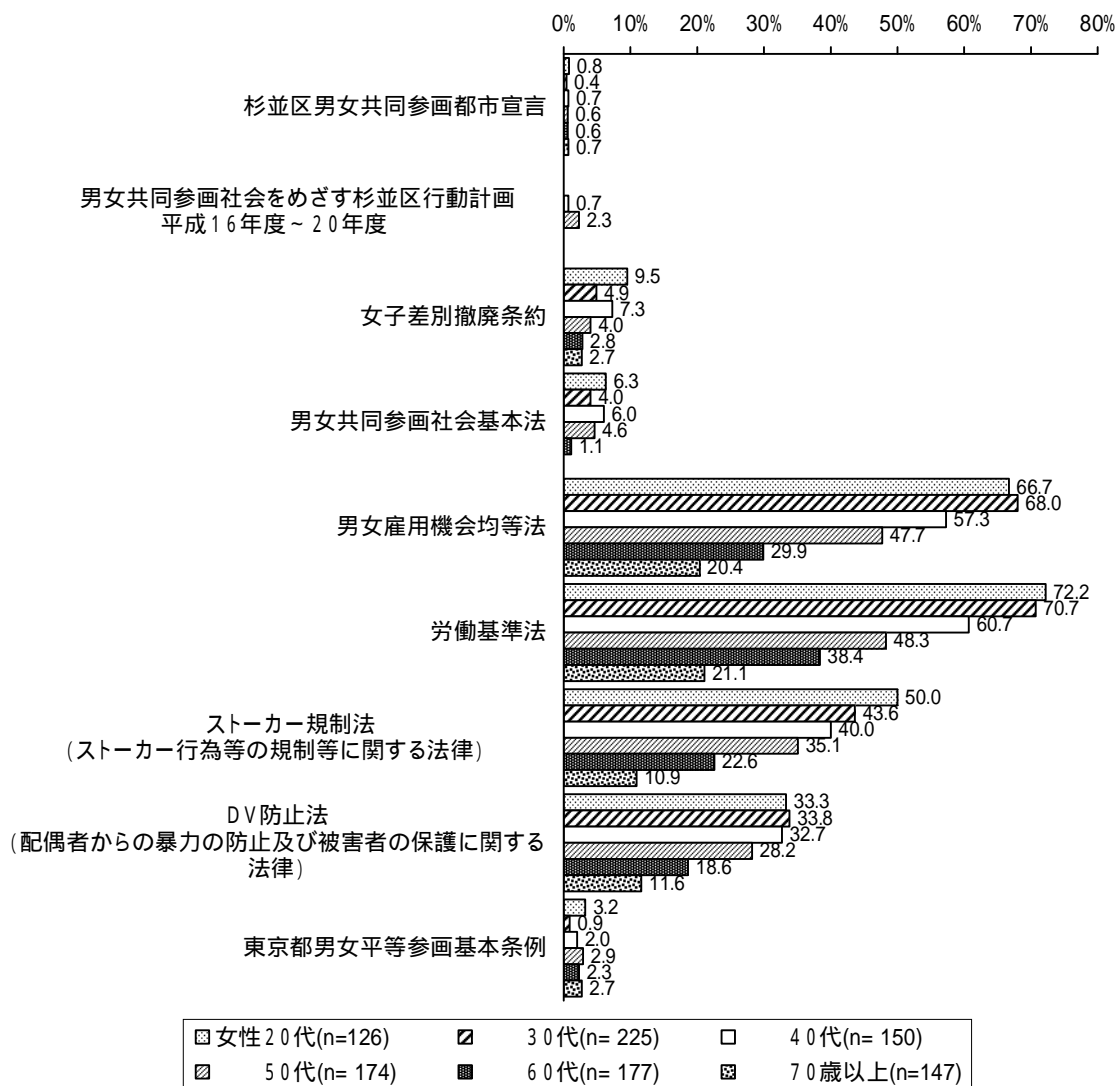
総数=579



(注)5%未満数値: 杉並区男女共同参画都市宣言(1.7 4.7)男女共同参画社会をめざす杉並区行動計画(0.7)女子差別撤廃条約(4.7)男女共同参画社会基本法(4.0)労働基準法(3.8 4.8)ストーカー規制法(4.8)DV防止法(4.7)東京都男女平等参画基本条例(1.7 4.8)

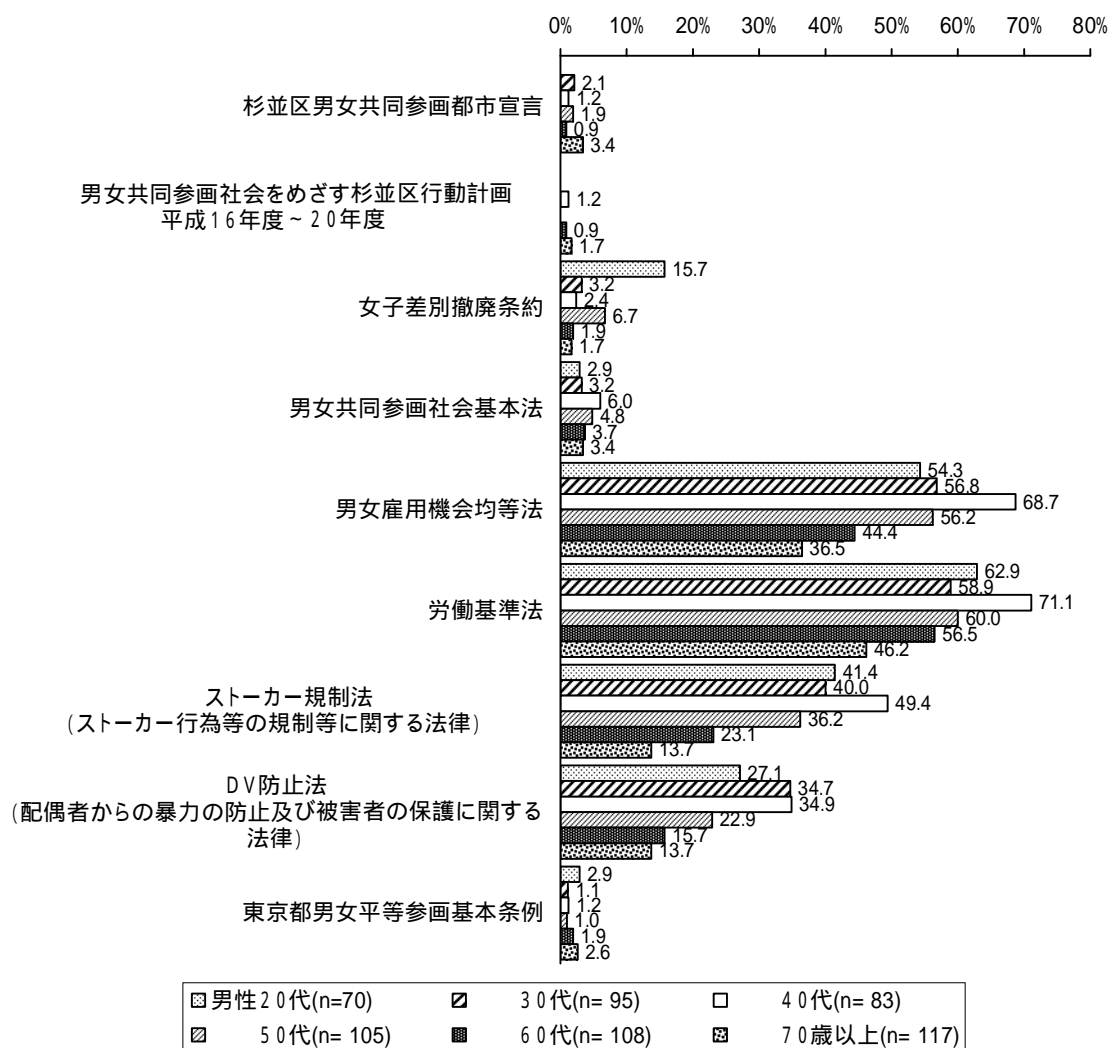
男女共同参画に関する法律や制度の認知度についての女性の回答を、年代別にみると、女性では「内容まで知っている」と回答した方の割合は、全体的に、若年層になるほど認知度が高い傾向にあります。特に、「男女雇用機会均等法」や「労働基準法」、「ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）」において、20代・30代の認知度が高くなっていることが分かります。

図23-4 男女共同参画に関する法律や制度の認知度について / 女性・年代別「内容まで知っている」との回答



男女共同参画に関する法律や制度の認知度についての男性の回答を、年代別にみると、男性では、「内容まで知っている」と回答した方の割合は、全体的に、40代の認知度が高い傾向にあります。特に、「男女雇用機会均等法」や「労働基準法」、「ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）」において、40代の認知度が高くなっていることが分かります。

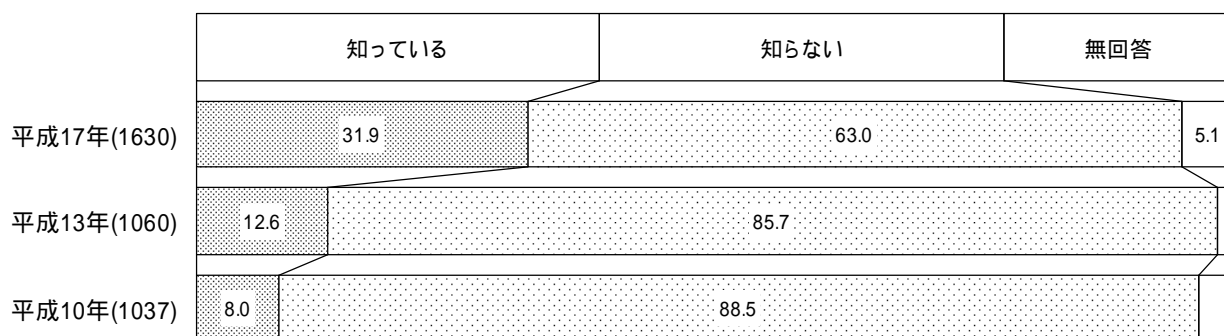
図23-5 男女共同参画に関する法律や制度の認知度について / 男性・年代別
「内容まで知っている」との回答



「杉並区男女共同参画都市宣言」の認知度を、前回・前々回と比較してみると、「知っている」と回答した方の割合は、回を追う毎に上昇し、今回調査では31.9%と、平成10年度調査の8.0%と比べ、23.9%増加しています。同時に、「知らない」と回答した方の割合は下降傾向にあり、今回調査では63.0%と、平成10年度調査の88.5%に比べ、25.5%減少しています。

図23-6 男女平等参画に関する法律や制度の認知度
 / 「杉並区男女共同参画都市宣言」
 / 前回・前々回調査との比較

単位:% (5%未満非表示)



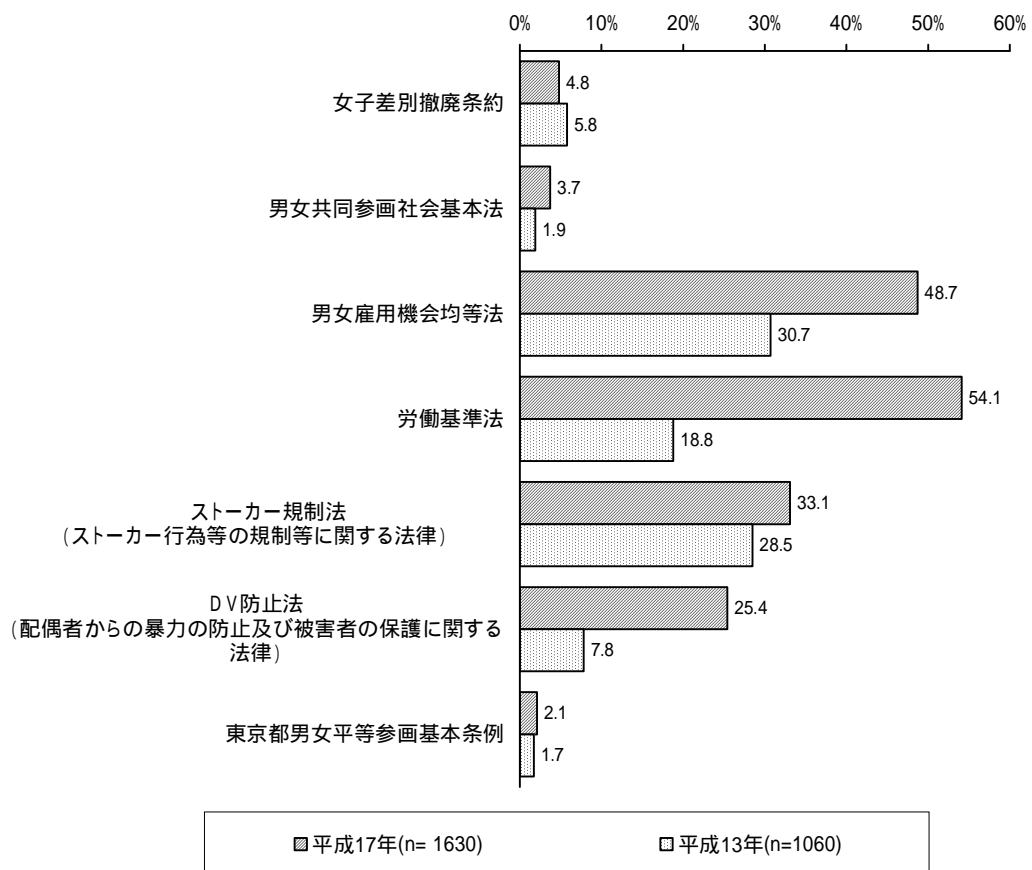
(注)5%未満数値:平成13年(1.7)平成10年(3.5)

前回調査と選択肢を合わせるため、今回調査の「内容まで知っている」と「名前を聞いたことはあるが内容は知らない」とを合わせて「知っている」として、比較しています。

男女共同参画に関する法律や制度の認知度について、前回調査と比較してみると、「労働基準法」においては、前回調査18.8%から今回調査54.1%に、「男女雇用機会均等法」においては、前回調査30.7%から今回調査48.7%、「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）」前回調査の7.8%から今回調査25.4%に、それぞれ増加しています。

一方、「女子差別撤廃条約」においては、前回調査5.8%から今回調査4.8%へ減少しています。

図23-7 男女共同参画に関する法律や制度の認知度について / 前回調査との比較 / 「内容まで知っている」との回答



前回調査時点では存在しなかった、「男女共同参画社会をめざす杉並区行動計画 平成16年度～20年度」の設問は省略しています。

問 2 4 <男女平等推進センターの利用度>

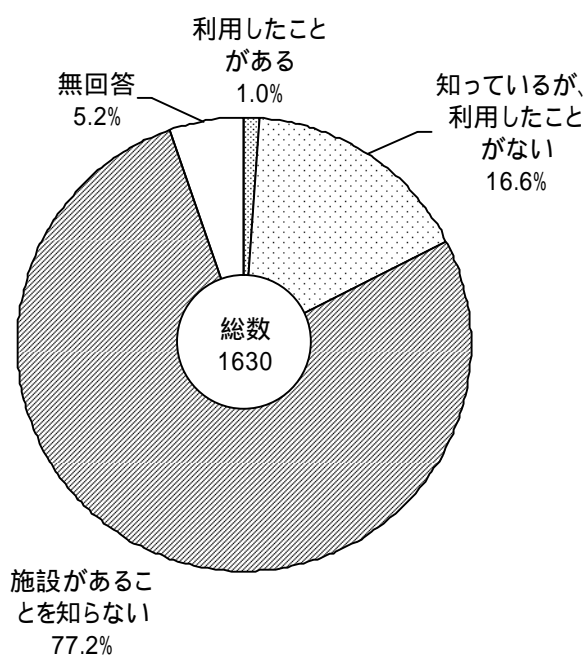
「男女平等推進センター」(愛称：ゆう杉並)では、男女共同参画社会の実現に向けて、いろいろな講座や相談、資料収集等の事業を展開しています。

あなたは「男女平等推進センター」を利用したことがありますか。(ひとつだけに)

1. 利用したことがある
2. 知っているが、利用したことがない
3. 施設があることを知らない。

男女平等推進センターの利用については、「施設があることを知らない」と回答した方の割合が最も多く、77.2%、「知っているが、利用したことがない」と回答した方の割合が16.6%、「利用したことがある」と回答した方の割合が1.0%でした。

図 2 4 - 1 男女平等推進センターの利用度



男女平等推進センターの利用度

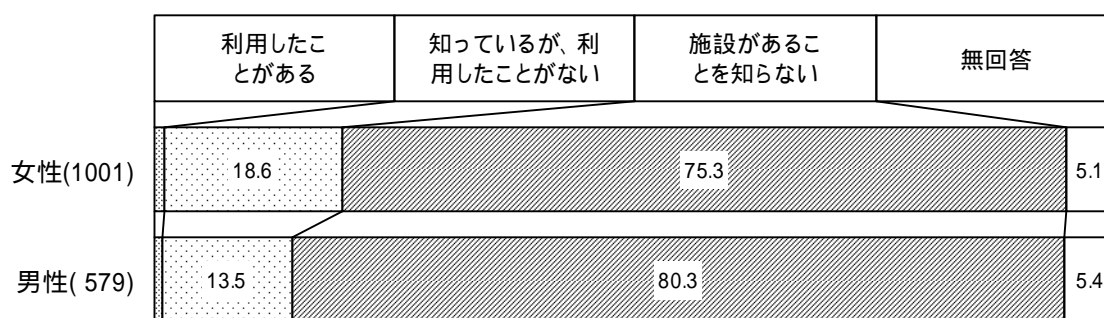
項目名	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
利用したことがある	16	1.0
知っているが、利用したことがない	271	16.6
施設があることを知らない	1258	77.2
無回答	85	5.2

男女平等推進センターの利用について、性別にみると、女性では、「施設があることを知らない」と回答した方の割合が最も多く、75.3%、次いで、「知っているが、利用したことがない」と回答した方の割合が18.6%、「利用したことがある」と回答した方の割合が1.0%でした。

一方、男性では、「施設があることを知らない」と回答した方の割合が最も多く、80.3%、次いで、「知っているが、利用したことがない」と回答した方の割合が13.5%、「利用したことがある」と回答した方の割合が0.9%でした。

図24-2 男女平等推進センターの利用度 / 性別

単位:% (5%未満非表示)



(注)5%未満数値:女性(1.0)男性(0.9)

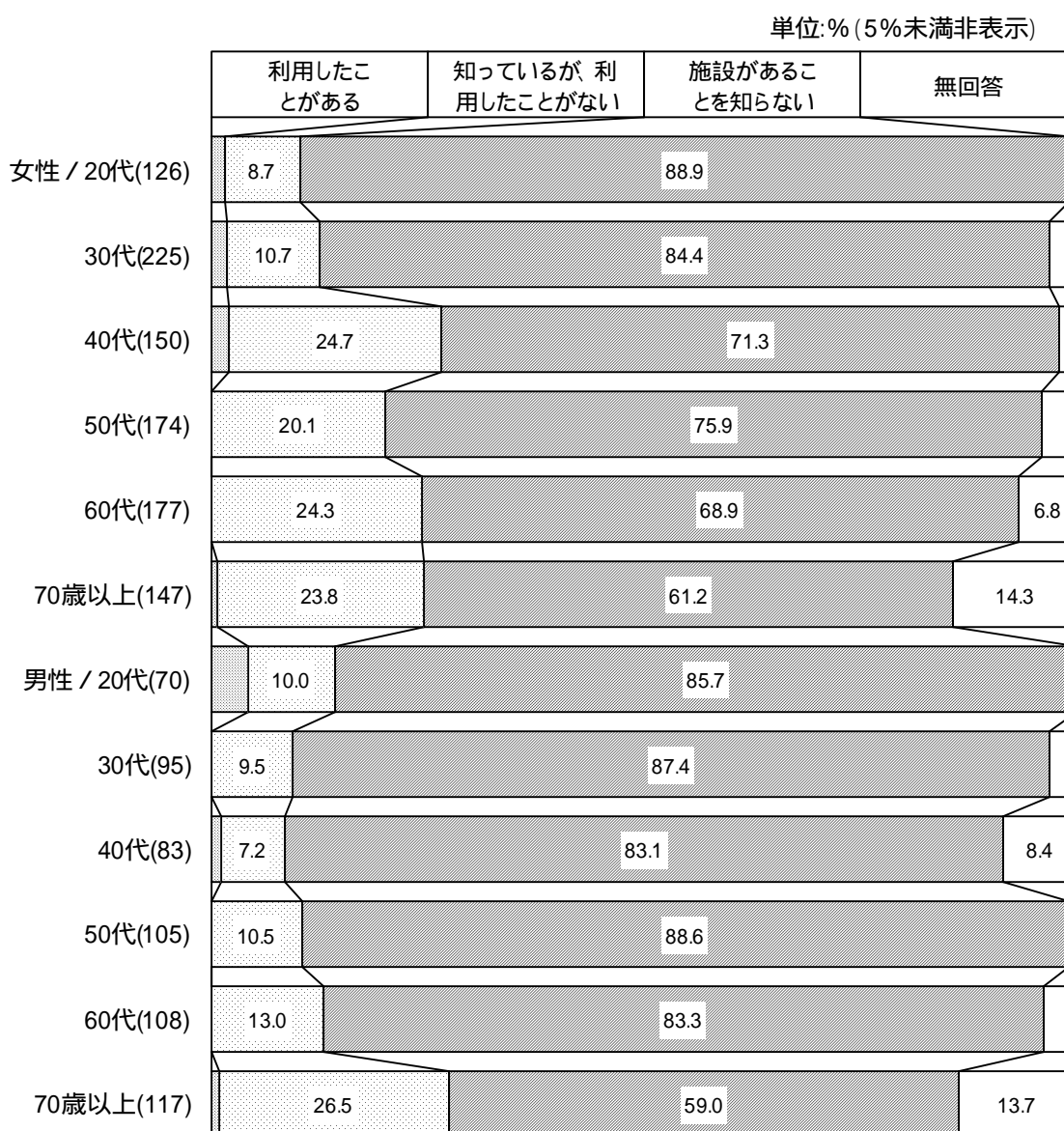
男女平等推進センターの利用度

		全体	利用したことがある	知っているが、利用したことがない	施設があることを知らない	無回答
全体		1630 100.0	16 1.0	271 16.6	1258 77.2	85 5.2
性別	女性	1001 100.0	10 1.0	186 18.6	754 75.3	51 5.1
	男性	579 100.0	5 0.9	78 13.5	465 80.3	31 5.4
	無回答	50 100.0	1 2.0	7 14.0	39 78.0	3 6.0

男女平等推進センターの利用について、性別・年代別にみると、女性では、「施設があることを知らない」と回答した方の割合が最も多かったのは、20代で88.9%、「知っているが、利用したことがない」と回答した方の割合が最も多かったのは、40代で24.7%、「利用したことがある」と回答した方の割合が最も多かったのは、40代で2.0%でした。

一方、男性では、「施設があることを知らない」と回答した方の割合が最も多かったのは、50代で88.6%、「知っているが、利用したことがない」と回答した方の割合が最も多かったのは、70歳以上が26.5%、「利用したことがある」と回答した方の割合が最も多かったのは、20代が4.3%でした。

図24-3 男女平等推進センターの利用度/性別・年代別



(注)5%未満数値:女性 / 20代(1.6 0.8)30代(1.8 3.1)40代(2.0 2.0)50代(- 4.0)60代(-)70歳以上(0.7) 男性 / 20代(4.3 -)30代(- 3.2)40代(1.2)50代(- 1.0)60代(- 3.7)70歳以上(0.9)

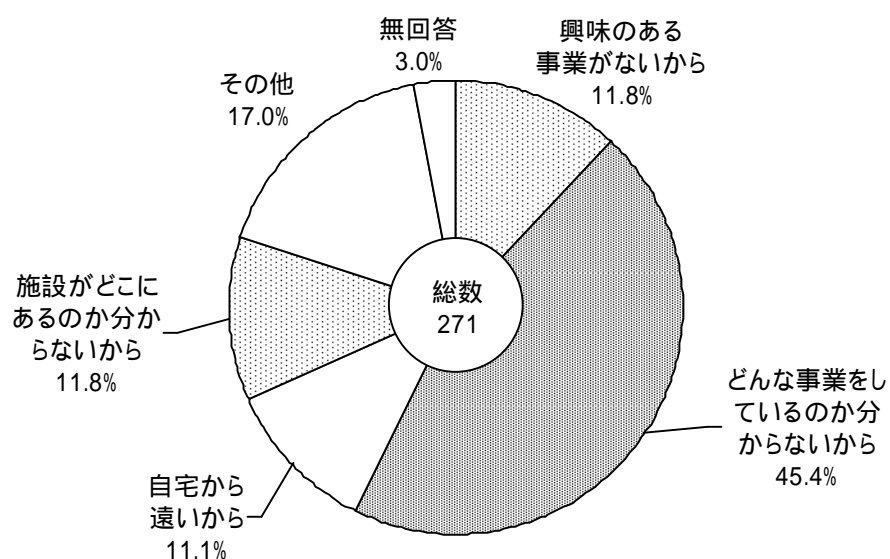
問25 <男女平等推進センターを利用しない理由>

問24で「2.知っているが、利用したことがない」と答えた方にお聞きします。
 利用しない理由は何ですか。 (ひとつだけに)

1. 興味のある事業がないから
2. どんな事業をしているのか分からないから
3. 自宅から遠いから
4. 施設がどこにあるのか分からないから
5. その他 ()

男女平等推進センターを利用しない理由としては、「どんな事業をしているのか分からないから」と回答した方の割合が最も多く45.4%、次いで、「興味のある事業がないから」と回答した方の割合と「施設がどこにあるのか分からないから」と回答した方の割合が、共に11.8%でした。

図25-1 男女平等推進センターを利用しない理由



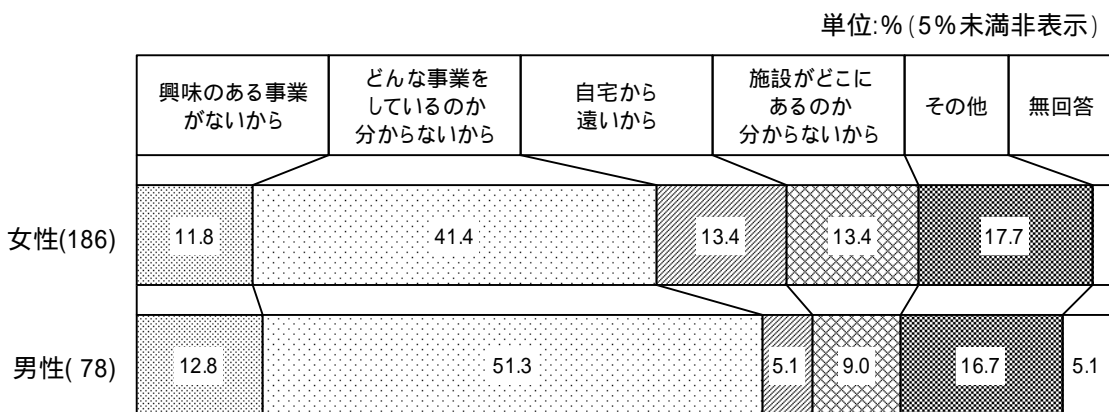
男女平等推進センターを利用しない理由

項目名	回答数	構成比 (%)
全体	271	100.0
興味のある事業がないから	32	11.8
どんな事業をしているのか分からないから	123	45.4
自宅から遠いから	30	11.1
施設がどこにあるのか分からないから	32	11.8
その他	46	17.0
無回答	8	3.0

男女平等推進センターを利用しない理由を、性別にみると、女性では、「どんな事業をしているのか分からないから」と回答した方の割合が最も多く41.4%、次いで、「自宅から遠いから」と回答した方と「施設がどこにあるのか分からないから」と回答した方の割合が、共に13.4%でした。

一方、男性では、「どんな事業をしているのか分からないから」と回答した方の割合が最も多く51.3%、次いで、「興味のある事業がないから」と回答した方の割合が、12.8%でした。

図25-2 男女平等推進センターを利用しない理由/性別



(注)5%未満数値:女性(2.2)

男女平等推進センターを利用しない理由

		全体	興味のある事業がないから	どんな事業をしているのか分からないから	自宅から遠いから	施設がどこにあるのか分からないから	その他	無回答
全体		271 100.0	32 11.8	123 45.4	30 11.1	32 11.8	46 17.0	8 3.0
性別	女性	186 100.0	22 11.8	77 41.4	25 13.4	25 13.4	33 17.7	4 2.2
	男性	78 100.0	10 12.8	40 51.3	4 5.1	7 9.0	13 16.7	4 5.1
	無回答	7 100.0	-	6 85.7	1 14.3	-	-	-

問26 <男女平等推進センターの事業の利用意向>

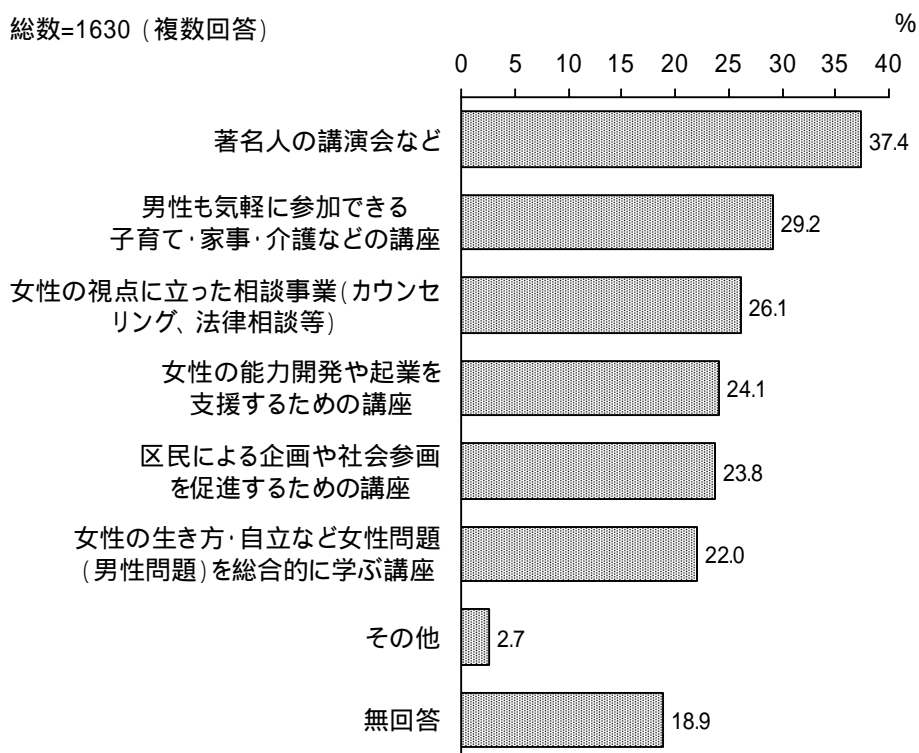
「男女平等推進センター」では、いろいろな事業を実施しています。
あなたが参加または利用したい事業は次のどれですか。

(3つまでに)

1. 著名人の講演会など
2. 男性も気軽に参加できる子育て・家事・介護などの講座
3. 女性の能力開発や起業を支援するための講座
4. 女性の視点に立った相談事業(カウンセリング、法律相談等)
5. 女性の生き方・自立など女性問題(男性問題)を総合的に学ぶ講座
6. 区民による企画や社会参画を促進するための講座
7. その他()

男女平等推進センターの事業の利用意向については、「著名人の講演会など」が最も多く37.4%、次いで、「男性も気軽に参加できる子育て・家事・介護などの講座」が29.2%、「女性の視点に立った相談事業(カウンセリング、法律相談等)」が26.1%、「女性の能力開発や起業を支援するための講座」が24.1%でした。

図26-1 男女平等推進センター事業で参加したい事業



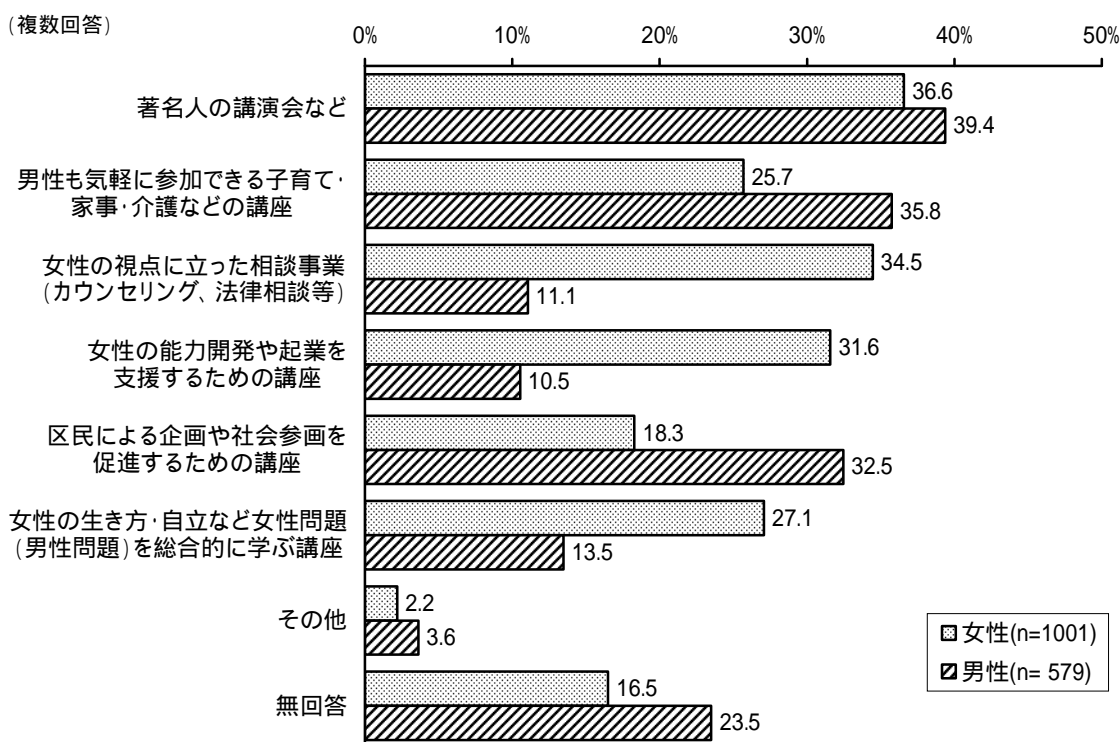
男女平等推進センター事業で参加したい事業

項目名【3つまでの複数回答】	回答数	構成比(%)
全体	1630	100.0
著名人の講演会など	609	37.4
男性も気軽に参加できる子育て・家事・介護などの講座	476	29.2
女性の能力開発や起業を支援するための講座	393	24.1
女性の視点に立った相談事業(カウンセリング、法律相談等)	426	26.1
女性の生き方・自立など女性問題(男性問題)を総合的に学ぶ講座	358	22.0
区民による企画や社会参画を促進するための講座	388	23.8
その他	44	2.7
無回答	308	18.9

男女平等推進センターの事業の利用意向について、性別にみると、女性では、「著名人の講演会など」と回答した方の割合が最も多く36.6%、次いで、「女性の視点に立った相談事業（カウンセリング、法律相談等）」と回答した方の割合が34.5%、「女性の能力開発や起業を支援するための講座」が31.6%でした。

一方、男性では、「著名人の講演会など」が最も多く39.4%、次いで、「男性も気軽に参加できる子育て・家事・介護などの講座」が35.8%、「区民による企画や社会参画を促進するための講座」が32.5%でした。

図26-2 男女平等推進センター事業で参加したい事業 / 性別

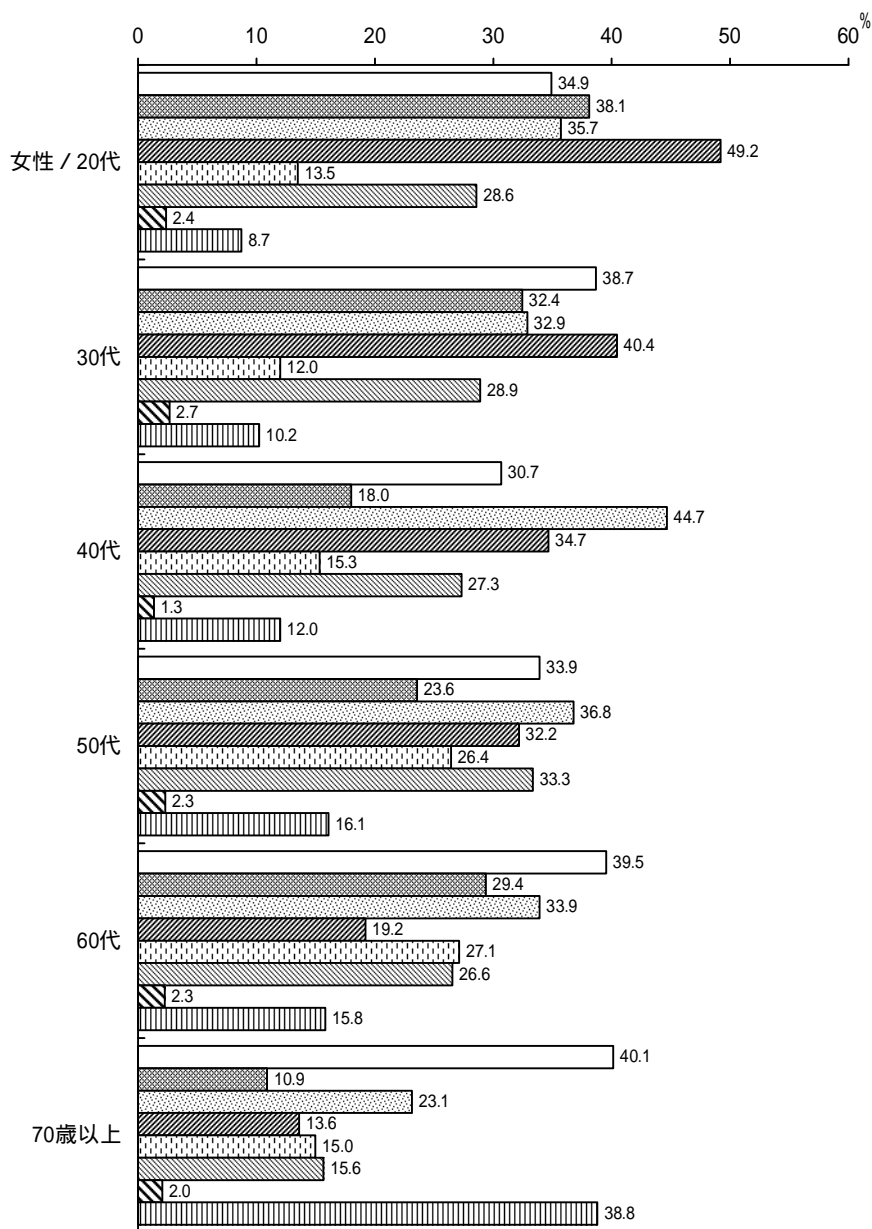


男女平等推進センター事業で参加したい事業 【3つまでの複数回答】 / 性別

		全体	著名人の講演会など	男性も気軽に参加できる子育て・家事・介護などの講座	女性の能力開発や起業を支援するための講座	女性の視点に立った相談事業（カウンセリング、法律相談等）	女性の生き方・自立など女性問題（男性問題）を総合的に学ぶ講座	区民による企画や社会参画を促進するための講座	その他	無回答
全体		1630 100.0	609 37.4	476 29.2	393 24.1	426 26.1	358 22.0	388 23.8	44 2.7	308 18.9
性別	女性	1001 100.0	366 36.6	257 25.7	316 31.6	345 34.5	271 27.1	183 18.3	22 2.2	165 16.5
	男性	579 100.0	228 39.4	207 35.8	61 10.5	64 11.1	78 13.5	188 32.5	21 3.6	136 23.5
	無回答	50 100.0	15 30.0	12 24.0	16 32.0	17 34.0	9 18.0	17 34.0	1 2.0	7 14.0

男女平等推進センターの事業の利用意向について、性別・年代別にみると、女性では、20代・30代で「女性の能力開発や起業を支援するための講座」が、40代・50代で「女性の視点に立った相談事業（カウンセリング、法律相談等）」が、60代・70歳以上で「著名人の講演会など」が、それぞれ最も多くなっています。

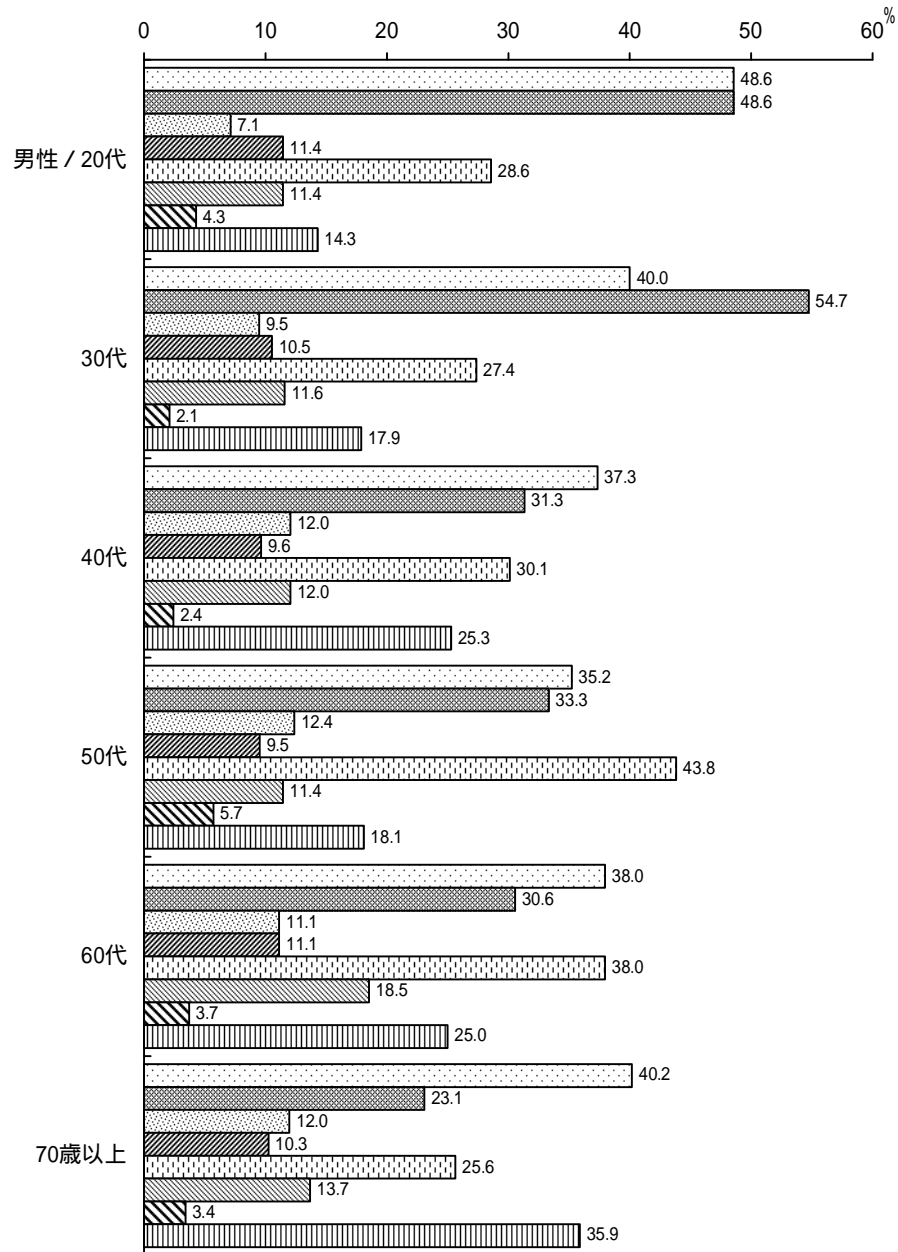
図26-3 男女平等推進センター事業で参加したい事業／年代別／女性



- 著名人の講演会など
- ▣ 男性も気軽に参加できる子育て・家事・介護などの講座
- ▤ 女性の視点に立った相談事業(カウンセリング・法律相談等)
- ▥ 女性の能力開発や起業を支援するための講座
- ▦ 区民による企画や社会参画を促進するための講座
- ▧ 女性の生き方・自立など女性問題(男性問題)を総合的に学ぶ講座
- ▨ その他
- ▩ 無回答

男女平等推進センターの事業の利用意向について、性別・年代別にみると、男性では、20代・30代で「男性も気軽に参加できる子育て・家事・介護などの講座」と「著名人の講演会など」が、50代で「区民による企画や社会参画を促進するための講座」が特に多くなっています。

図26-4 男女平等推進センター事業で参加したい事業／年代別／男性



- 著名人の講演会など
- 男性も気軽に参加できる子育て・家事・介護などの講座
- 女性の視点に立った相談事業(カウンセリング・法律相談等)
- 女性の能力開発や起業を支援するための講座
- 区民による企画や社会参画を促進するための講座
- 女性の生き方・自立など女性問題(男性問題)を総合的に学ぶ講座
- その他
- 無回答

問 2 7 < 男女共同参画社会の実現のために、杉並区の施策に望むもの >

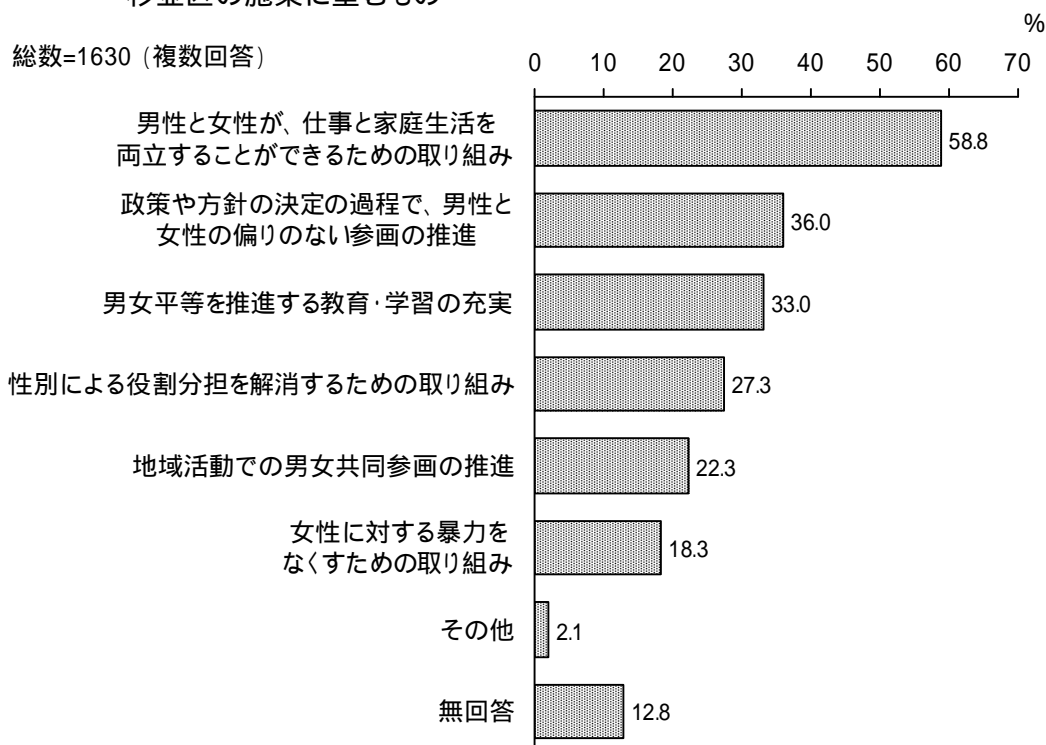
男女共同参画社会を実現していくために、杉並区の施策に望むものは何ですか。

(3 つまでに)

- 1 . 性別による役割分担を解消するための取り組み
- 2 . 女性に対する暴力をなくすための取り組み
- 3 . 男女平等を推進する教育・学習の充実
- 4 . 男性と女性が、仕事と家庭生活を両立することができるための取り組み
- 5 . 政策や方針の決定の過程で、男性と女性の偏りのない参画の推進
- 6 . 地域活動での男女共同参画の推進
- 7 . その他 ()

男女共同参画社会の実現のために、杉並区の施策に望むものとしては、「男性と女性が、仕事と家庭生活を両立することができるための取り組み」と回答した方の割合が最も多く 58.8%、次いで、「政策や方針の決定の過程で、男性と女性の偏りのない参画の推進」と回答した方の割合が 36.0%、「男女平等を推進する教育・学習の充実」と回答した方の割合が 33.0%でした。

図 2 7 - 1 男女共同参画社会実現のため、杉並区の施策に望むもの



男女共同参画社会実現のため、杉並区の施策に望むもの

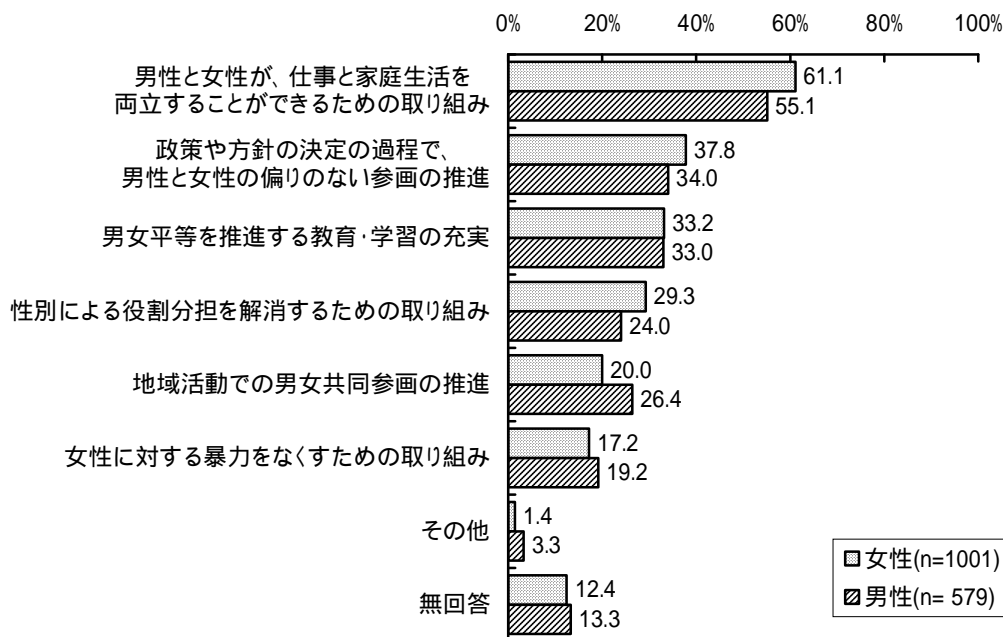
項目名 【 3 つまでの複数回答 】	回答数	構成比 (%)
全体	1630	100.0
性別による役割分担を解消するための取り組み	445	27.3
女性に対する暴力をなくすための取り組み	298	18.3
男女平等を推進する教育・学習の充実	538	33.0
男性と女性が、仕事と家庭生活を両立することができるための取り組み	959	58.8
政策や方針の決定の過程で、男性と女性の偏りのない参画の推進	586	36.0
地域活動での男女共同参画の推進	363	22.3
その他	34	2.1
無回答	209	12.8

男女共同参画社会の実現のために、杉並区の施策に望むものについて、性別に見ると、女性では、「男性と女性が、仕事と家庭生活を両立することができるための取り組み」と回答した方の割合が最も多く61.1%、次いで、「政策や方針の決定の過程で、男性と女性の偏りのない参画の推進」と回答した方の割合が37.8%、「男女平等を推進する教育・学習の充実」と回答した方の割合が33.2%でした。

一方、男性でも、「男性と女性が、仕事と家庭生活を両立することができるための取り組み」と回答した方の割合が最も多く55.1%、次いで、「政策や方針の決定の過程で、男性と女性の偏りのない参画の推進」と回答した方の割合が34.0%、「男女平等を推進する教育・学習の充実」と回答した方の割合が33.0%でした。

図27-2 男女共同参画社会実現のため、杉並区の施策に望むもの / 性別

(複数回答)

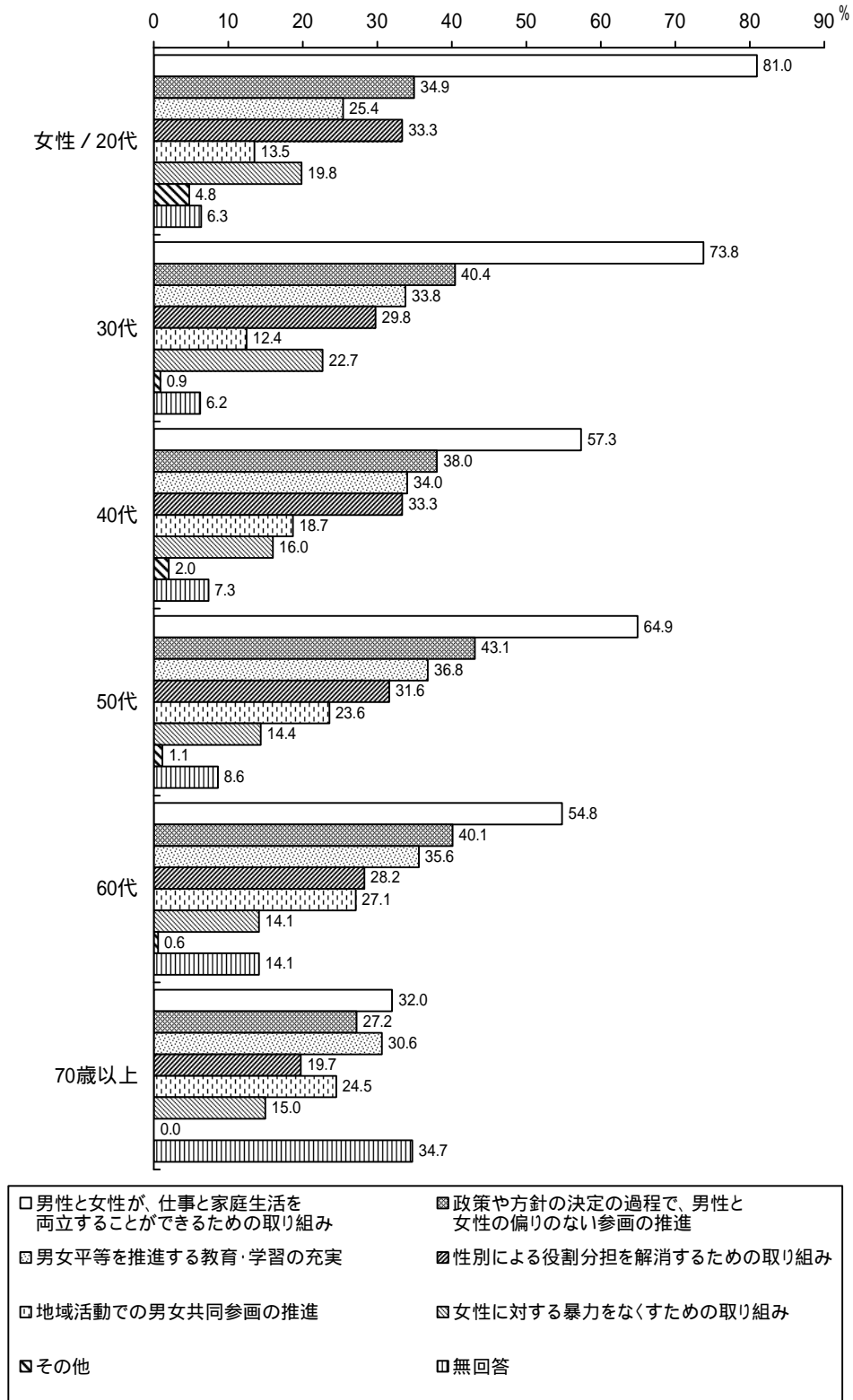


男女共同参画社会実現のため、杉並区の施策に望むもの 【3つまでの複数回答】 / 性別

		全体	性別による役割分担を解消するための取り組み	女性に対する暴力をなくすための取り組み	男女平等を推進する教育・学習の充実	男性と女性が、仕事と家庭生活を両立することができるための取り組み	政策や方針の決定の過程で、男性と女性の偏りのない参画の推進	地域活動での男女共同参画の推進	その他	無回答
全体		1630 100.0	445 27.3	298 18.3	538 33.0	959 58.8	586 36.0	363 22.3	34 2.1	209 12.8
性別	女性	1001 100.0	293 29.3	172 17.2	332 33.2	612 61.1	378 37.8	200 20.0	14 1.4	124 12.4
	男性	579 100.0	139 24.0	111 19.2	191 33.0	319 55.1	197 34.0	153 26.4	19 3.3	77 13.3
	無回答	50 100.0	13 26.0	15 30.0	15 30.0	28 56.0	11 22.0	10 20.0	1 2.0	8 16.0

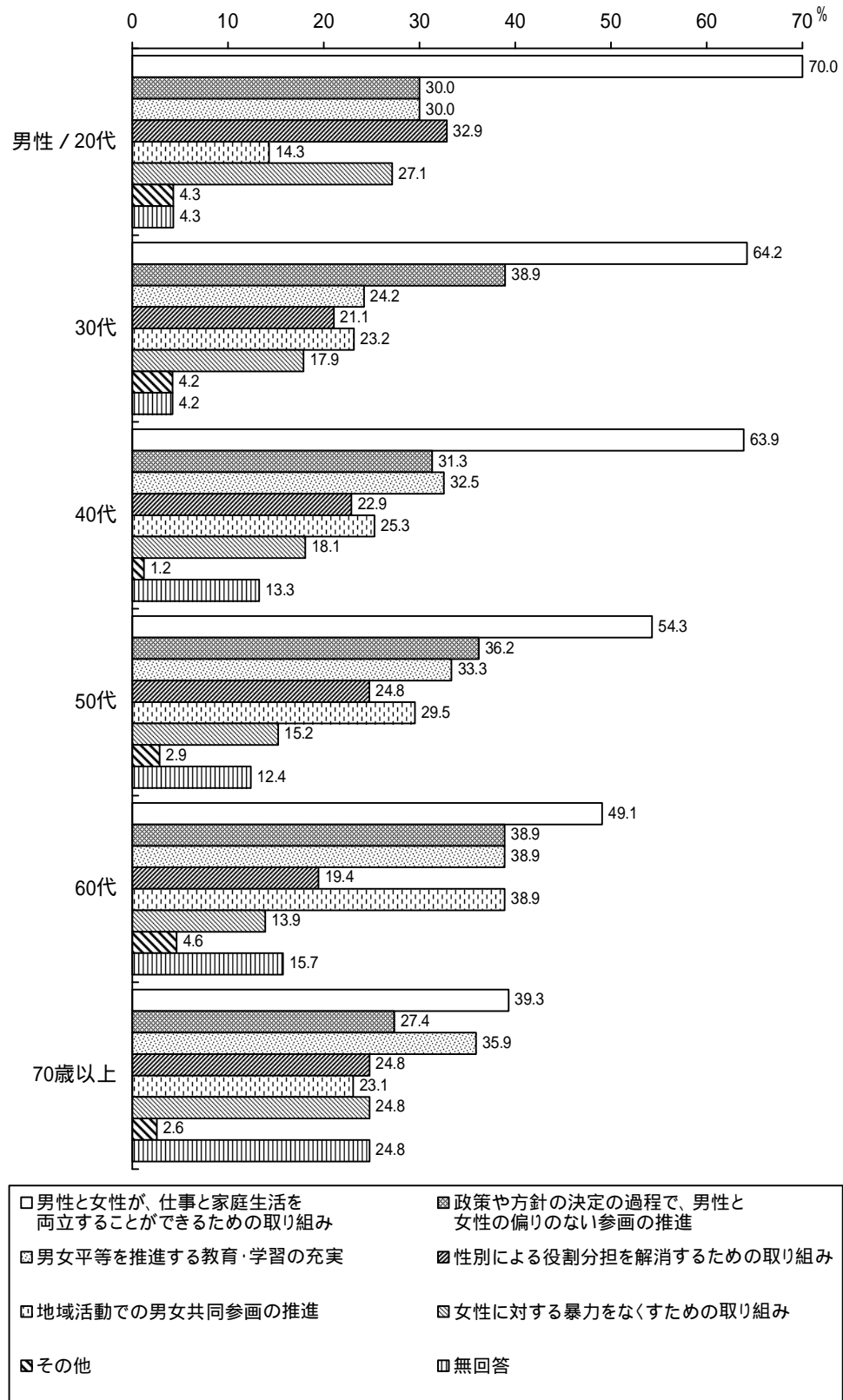
男女共同参画社会の実現のために、杉並区の施策に望むものについて、性別・年代別にみると、女性では、20代～60代において、「男性と女性が、仕事と家庭生活を両立することができるための取り組み」と回答した方の割合が最も多く、次いで、「政策や方針の決定の過程で、男性と女性の偏りのない参画の推進」と回答した方の割合が多くなっています。

図27-3 男女共同参画社会の実現のために、杉並区の施策に望むもの / 年代別 / 女性



男女共同参画社会の実現のために、杉並区の施策に望むものについて、性別・年代別にみると、男性では、全ての年代において、「男性と女性が、仕事と家庭生活を両立することができるための取り組み」と回答した方の割合が最も多くなっています。

図27-4 男女共同参画社会の実現のために、杉並区の施策に望むもの / 年代別 / 男性



自由記述

問 2 8 < 杉並区の施策等に対する自由意見 >

「男女共同参画社会」の実現に向けて、杉並区の施策や男女平等推進センターにご意見がありましたらご記入ください。

・記述総数 173

NO	問 2 8 自由意見「杉並区の施策への要望」	性別	年齢
1	女性が働きやすい条件の職場を斡旋していたりすると、行ってみたいと思います。多様な条件を組み合わせたい職場を杉並区の事業所に推進してもらいたい。	女性	30代
2	杉並区の施策、男女平等推進センターについて、より一層のPR活動を実施して頂きたく存じます。	男性	70歳以上
3	制度は整ってきても、行使する人達の意識が変わらなければ、何も変わらないと思います。どうすればいいか、良く分かりませんが、根気よく啓発して、意識を変える必要があるのではないのでしょうか。例えば、管理職は「制度通りに推進している」と思えば、いつまでも平行線な訳です。子育てや介護との両立をしている方達(性別問わず)が、気兼ねなく生活できるバックアップ体制をお願いしたいと思います。	女性	30代
4	とても良い施策だと思います。形だけ、話題作りだけではなく、本当に女性が社会の中で本来の能力を発揮していける世の中にして欲しいです。少子高齢化の時代、能力ある女性達を使わない手はないと思います。	女性	30代
5	今現在は結婚や出産をした方への様々な取り組みがみられるが、それを支える周囲の人たちへの配慮も考えられるべきではないかと思えます。一生独身で働き続けた人は犠牲ばかりで終わってしまっているのではないかと感じるためです。	女性	30代
6	ことさら、男女共同作業ではなく、区の行政・行事を行う中で共同作業するように、区が計画実行を啓蒙すること。	男性	70歳以上
7	出生率を上げるための施策の実施。育児をしながらでも、参画しやすいような施策の実施。	男性	70歳以上
8	二人の子どもが、保育園にお世話になりましたが、保育園に対する補助金がどんどんカットされ、子どもを安心して預けて働けない状況がとても心配です。保育園の充実を望みます。	女性	40代
9	少子化の原因の一つに、男女の出会いの場の少なさによるものがあると思われます。社会的に何か手伝いができないのでしょうか。地域のボランティア活動の場を、若い男女への参加にもつなげればと思います。	女性	50代
10	管理職、議員など女性を増やさなければいけないからではなく、本当に能力のある人を採用して欲しい。能力がなければ、男性だけまたは女性だけでも構わないと思う。	女性	20代
11	男女共同参画も大事だが、私は子どもの医療費の医療費負担を幼稚園まででなく、小学校六年間も適用してもらいたい。他の区は始めているところもあり、杉並区の考えや、実施の有無が非常に気になる。	女性	30代
12	40代以上の男性が、気負わずもっと気軽に参加できる地域活動の場を大きくアピールして欲しい。	女性	50代
13	まだまだ男性社会のままなので、女性の意志をもっと聞いて欲しいです。	女性	30代
14	昭和58年頃から現在に至るまで杉並区に居住しているが、当該杉並区の行政に関して、殆ど分からない。ただ日常生活に思うことは、道路整備が悪いと思う。旧早稲田通りを通勤に使っているが、特に下井草駅西側踏切周辺は道路が狭い。電柱が多い。車の通行、通勤通学のものが多い歩道が狭い。歩道がないなどの問題が多い。西武新宿線上石井駅のように、相互一方通行にしてもらえたらと思う。	男性	60代
15	勤務先の選び方次第で、男女の格差や育児に対する制度も違います。この辺りを改善するのも大事だと思います。	女性	30代
16	高い税や、高い生活費のため、男女共同参画など考えている余裕がない。加えて、アンケートと同時に区が行っていることを同封して、啓発を行って欲しい。今の区の政策や実行状況がこれでは全く分からない。男女共同参加問題以外にも区民の声をきくアンケートをして欲しい。	男性	20代
17	本質的には、男女平等というより、労働形態による差別の問題だと思いますが、パートやアルバイトと正社員の待遇格差を縮める取り組みを期待します。区で出来ることは限られてくると思いますが、要介護度に関わらず、必要なとき、必要な時間だけ安心してたのめるヘルパーの紹介や、支払の補助。	女性	40代
18	5～6年前に杉並区に引っ越してきたので、杉並区のことにはよくわかりませんが、男女平等とはこれから重要になってくると思います。法などの中身もそうですが、それらをどううまく国民区民に理解し知ってもらうかということも問題ではないのでしょうか。	男性	20代
19	今回のアンケートでは未婚のため、回答できない点がいくつかありました。男女平等推進センターとは関係ありませんが、労働基準法をもっと厳しくした方が良いのではないのでしょうか。一度調べていただきたいです。実際に何十時間も会社にて辛いです。		

NO	問28 自由意見「 杉並区の施策への要望」・続き	性別	年齢
20	もっと施策等についての宣伝をした方が良い。知らない方、或いは無意識に参加している方もいると思うが。	女性	60代
21	是非本当の意味での男女平等社会の実現に向けて活動してください。数字上の平等ではなく、男性の特性、女性の特性、長所や短所すべていかされて補い合える社会が訪れる事を望みます。あとはHP等、活動がわかるチラシなど、広報にも力を入れていただくと、自分の生活にも活かせると思います。	女性	30代
22	ぜひとも先進的な施策を実施して下さい。女性の力をさらに様々な局面で活用して頂きたい。	女性	40代
23	強引な男女平等はよくない。男女というより個人の特性を活かせる社会にしたい。	男性	30代
24	21世紀のよりよい杉並区にして下さい。		
25	国や地方の行政のブレのない施策は不可欠。しかし時代の流れやマスメディアの流れに沿った(体制に迎合した)施策は時間と金の無駄遣い。施策にもっと民意を反映させる組織、体制を！民意というと評論家や学者を高い金を出して箔付けしたとの錯覚をする行政や大手企業も多い。杉並区はいかがですか？無名であっても杉並在住のお年寄りや若い人にも、建設的に芯の通った見識、理念のある方が大勢おられるのでは・・・。それなくしては杉並の損失ですよ！以上、失礼をお許しください。	男性	50代
26	法制整備や一般的な啓発活動はもちろん必要だが、それ以上に我々が働く場での理解、協力が重要である。そのために、場合によっては区独自の条例制定を含め、区内の企業、事務所に対する様々な働きかけを強化して頂きたい。	男性	50代
27	犯罪を減らすことが何より大事。	男性	20代
28	私自身、今回こういった活動を区が行っている事を、アンケート調査の通知が来るまで知りませんでした。だから、区がこういった活動を行っている事を、様々なメディア等の方法で、一人でも多くの区民に広く知ってもらい、そこから意識を高めていく努力がもっと必要不可欠、かつ最優先だと思います。	男性	20代
29	正社員でなければ育休がとれないというのは、派遣の私達にとって、とても第二子を作る余裕を与えてくれず、区立の保育園も出なければいけなくなるので、どの状況にあっても育休がとれるようにしてほしい。妻も第二子が出来たら(現在はアルバイトでフルタイムで働いている)、育休がとれず、仕事をやめざるを得ないので、そこを解決できなければ少子化、男女平等など、話し合った所で意味がない。子どもが出来たら妻は仕事をやめて家事をする事になり、そこを少しでも私が手伝いたい、区からの支援(経済的)や保育園(区立が少なく倍率が高過ぎる)の充実を考えて欲しい。	男性	20代
30	女性の能力、力量への配慮への現状を充分に理解して欲しい。	女性	70歳以上
31	女性がもっともっと全面に出れるような社会。あらゆる事に対して、また賃金も格差をつけない(男性と比べて)社会を！レディーファーストの社会を！と望みます。	男性	50代
32	シングルマザーの生活の負担を軽減する仕組みが区にあれば、気軽に相談に行きたい。子どもを出産する前と変わりなく働けるのなら、子どもを持ちたい気持ちはある。保育施設の充実を望みます。	女性	40代
33	男女を平等にとはいっても、男性に向いている(女性に向いている)仕事もあると思うので、まずは「何が男女平等に出来るか」というのを考えてみてはどうでしょう。	女性	30代
34	現状として具体的にどういう場面で何がどう問題なのか、具体的事例を示さないと「男女共同参画社会の実現」のイメージが伝わってこない。杉並区の施策として現在×××の問題について改善するために を重点強化しています、という社会アピールをして知らせて欲しい。経緯、背景を知らずに、いきなり「どう思うか」と問われても、何も返答できない。世間が良くなっていけばいいとは思っているけど。	男性	40代
35	杉並区独自でこのような企画をたてていることをはじめて知った。もっと区民に理解され、参加出来るようにして頂きたい。	男性	50代
36	マンション、アパート等の大家さん、管理者に、ゴミ出し容器を義務付けをぜひしていただきたいと思います。	女性	50代
37	どんどん進めて欲しい。	女性	50代
38	男性と女性が平等の立場として意見を述べたり、仕事出来る環境を整えたりする事は大事な事で、女性の立場としてもありがたいことですが、女性らしさや男性らしさとは何か、その大切さを何かで残して欲しいと希望します。数値や何かを決めることで保てるものではないので、難しいともわかっておりますが。	女性	30代
39	標記のこともっとメディアを通じて広めて欲しいと思います。	男性	20代
40	区の様々な活動をもっとプロモーションするべき。情報のチャンネルを増やし、区民からも意見を吸い上げやすい、2-ウェイコミュニケーションの実現を望む。	女性	30代
41	法律のように表面的な部分だけでなく、実効性のある活動をお願いします。	女性	20代
42	特に意見はありませんが、是非23区のモデル区にして欲しいです。	男性	60代

NO	問28 自由意見「杉並区の施策への要望」・続き	性別	年齢
43	今回の議題だけでなく、杉並区は、「教育」・「地域活性化」・「地域産業」に対する取り組みが甘いと思います。優先順位を考えて、良い街作りをして下さい。今は、とても良い街とは言えない。	男性	20代
44	まずは、女性に限らず、働きやすい環境を作りたいを望みます。男性の仕事中心の考え方には、仕事をこなす為に、朝早くから休日まで働かなくてはならなかったと思います。その為、男は仕事、女は家庭と役割分担しざるを得なかったと思います。その境がなくなってきた現在では、女性の就業を支援する環境を整えて頂くことが必要だと思います。子育て支援手当も良いですが、区営の保育施設を増やして頂く方がいいです。男性でも仕事をしない人が増えてる状況で、働ける人が働くという環境作りが必要です。その為「男女共同参画社会」の実現を望みます。何分、今は、仕事の継続が難しい社会である様な気がします。	女性	20代
45	男女平等推進センターを知りません。区で行うなら、無駄の無いようにお願いします。住民に解りやすい方法として頂きたい。アンケート自体が無駄。駅・掲示板等で区の施設を宣伝すべき。	女性	20代
46	男女問題もよいが、公立校における、いじめ対策、無能な教師の排除等、他にもっとやるべき事がある。杉並区の公立校のレベルの低さを何とかすべき。	男性	40代
47	休日・夜間の病児の保育体制の整備。	男性	30代
48	男女平等で働くことは嬉しいが、一部の偏った教育で、「男らしさ」「女らしさ」を失った男女平等というのは賛成できない。適度なバランス感覚は失わず、是非、「子育て」をしながら働く女性の支援を強化して欲しい。	女性	20代
49	「男女共同」を強調してしまい、逆に曖昧な社会になってしまいそう。事業でも地域活動でもそれぞれ、役割分担を明確にする事が重要と感じます。子育て・介護も経済的支援システムの整備、職場のシステムづくりも必要。後は、地域に根ざした良い風習を盛り上げること。	男性	30代
50	女性や年下に暴力を振るう事が考えられない。弱い人を助ける教育、教えが必要ではないか。	男性	60代
51	関係ないことですが、バイクの駐輪場を造って下さい。いつも撤去されてしまいますが、どうすれば良いのですか？駅前には、数が少なく置けません。利用者が多いのに疑問でなりません。止める所がないので皆、路駐するのではないのでしょうか。すごく腹が立ちます。見直して下さい。生活しにくいです。きちんとして下さい。このアンケートには関係ないことは解っていますが、意見が有ったことを、関係の課に伝えて下さい。お願いします。	女性	20代
52	確かに、様々な場所で女性は差別されてきたという歴史的背景が、近年、徐々に解消に向け国際レベルで論議され、国内においても積極的に取り組まれているのは、大変良い事だと思います。しかし、女性を甘やかす様な社会は望ましくない。「男女共同参画」の実現を時間を掛け、徐々に推進される事を望みます。時代の流れに吞まれない施策が大切だと思います。余談ですが、女性が出産しても働きやすい環境づくりの現行法はとても素晴らしいものだと思います。	男性	30代
53	今の日本の社会は、何事にもよらず休暇が取りにくいと思います。これから様々なことが民営化、自由競争の時代に入って行くように思います。公的な場所の土日休日を、部署によっていつでもやっているようにする。これで女性が家において、このようなことに委任状を持って行かなくて済み、働きやすくなると思う。カード社会、インターネットもよいが、銀行など払い込みに行かなくてはならず、人手減らしは部署によっては考えものである。	女性	70歳以上

NO	問 2 8 自由意見「 杉並区の施策への意見」	性別	年齢
54	このアンケートを見ても杉並区がまだまだ男女共同参画をきちんと捉えていると思えない。男・女の区別によって、このようなアンケート内容になったものかとは考えられる。たしかに戦前、戦後と男性中心社会を築いてきたことは間違いないと思う。その教育の元、子どもたちは育ち、また親になっていくのだから仕方ない。男性らしさと女性らしさの前に人間らしく生きられる社会が無い現代では男女平等の文字だけが1人歩きしているようにしか思えない。安心して生きる事の出来る社会をつくるのが人間らしく生きられる第一歩であると思う。もっと社会保障の充実をはじめ、安心して生活できる社会をつくることで、男女平等は成り立つものかと考える。	男性	30代
55	現在、男女平等の意識が進んで、昔とちがって女性が尊重されるようになってきていると思う。それより男だから、女だからと問うのではなく、ひとりの人間として、各々が尊重され差別ない社会をつくるべきだ。	女性	60代
56	区だけでの施策の無意味さを予感する(誘導尋問になるアンケートには を付けていません)。	男性	60代
57	戦後、民主主義、男女平等が取り入れられた時、私は9歳の小学生でした。学校、職場社会のあらゆる所で名目上は平等でも現実には全く男性優位の中で60年暮らしてきました。家庭の中では更に差別は大きく、子ども達はそれを見て育ちます。現在、この調査のように行政がこの問題に関心を持って様々な取り組みをしていくことは大変うれしいことです。孫達の時代にはきっと男女平等が生活の中に取り入れられて、大きく育っていることを信じています。	女性	60代
58	なかなか区の情報を読んだりしないのですが、ポストにこのように入っていると読んでみようかと思えます。このアンケートも大変興味深いものがありました。	男性	40代
59	杉並区の施策「男女共同参画社会」の実現に向けての取り組みについて、全く知りませんでした。今後気を付けて、色々な情報を見たいと思えます。	男性	40代
60	男女共同参画社会の土台には平和が必要です。過去の日本の侵略戦争と植民地支配を正当化、美化する歴史教科書を採択し区内中学生に学ばせようという異常な事態に深い憂慮と憤りを抱いています。再び戦争する国へと進む方向に区が協力して、参画社会、男女平等社会はありえませ	女性	50代
61	男女平等も大事かも知れませんが、子どもも平等にして欲しいです。このところよく、「児童手当」のことがニュースになっていますが、我が家は一円ももらったことがありません。住宅ローンもかかえていますし、3人の子どもの教育費は年々増えていきます。いったいどうい	女性	40代
62	とっても良いことなのに、余り知られていません。PR不足だと思います。町内会に流れる回覧板で知らせるとか。私の友人達に聞いてみたが、知っている人がいなかった。	女性	60代
63	理念は良いけど、具体的施策が見えない。	男性	60代
64	誤った男女平等の視点を正していく活動をしてない。	男性	40代
65	私の家内は、家庭の主婦であります。二人で生きてこれてありがたかったと思えます。女性の社会参加の他に家庭の主婦を大切に	男性	60代
66	今日、いわゆる専業主婦的な生き方が非生産的なもので有るかのよう	男性	30代
67	新聞の折込で何となく杉並区で行われている事を把握していますが、もし新聞を取ってなければ何の情報にも接しないわけ	男性	30代
68	男女の差別の固定的考え方に基づいている「扶桑社の教科書」を採用しているようでは、杉並区の「男女共同参画社会」実現は難しいでしょう。	女性	40代
69	このアンケートも、女性の社会進出、セクハラ等の対策にも精をつくしている様子が見受けられ、私も感心しました。しかし、男性の方も、男性であるがゆえに苦しんでいる所もあります。負担になっているところもあります。これからはそちらの問題にも積極的に取り組んで欲しいと思います。例えば 男性は一方的に女性にたかられる。男性は責任を押し付けられる。何かあった時のケアは女性だけ行う。その他いろいろあると思います。そういうことで不安や不満を抱えている人のためにも、お願いします。	男性	30代

NO	問28 自由意見「男女平等推進センター（ゆう杉並）への意見」	性別	年齢
70	このアンケートの機会として、センターについて確認してみます。	男性	50代
71	まず、存在の公報が大切だと思います。	男性	50代
72	杉並区の男女等推進センターを初めて知りました。	女性	70歳以上
73	本当の男女平等というのは、お互いのしきみを理解して相手を思いやることのできることでと思います。子どもができたなら大人になるまで責任をもって愛情深い人間を育てるということに夫婦共々、力を注ぐことが基本だと思います。出産は女性しかできないのと同様に男性にしか出来ないこともあるはず。そういった啓蒙活動こそ、センターから発信していただきたいです。制度ではなく、人間づくり、人間育ては夫婦がやることです。	女性	50代
74	情報が少ないように思えます。私は普段通勤の際などに掲示板などをよく目にして、男女共同参画のポスターなどを見かけるのですが、実際にどのような活動をされているのか、よくわかりません。週末や平日の午後など夫婦で参加できるような講座を設けていただけたら、お互いの理解を深めたり意見を交換できる時間を作ることができるようになると思うので、是非そのような講座を作っていただいたり、情報を増やしてほしいと思います。女性は結婚や出産子育て等で、その程度優先順位をつけるのに、家事や仕事も加わって、深く悩むことも多いです。その都度、その都度細かいサービス（カウンセリングなど）で支援していただけたらと思います。	女性	30代
75	杉並区における男女平等推進センターの実態については全く知りません。	男性	60代
76	平等推進センターなるものを知らなかった。それ程不平等になっていると思わない。外での勤めをしていない為かもしれない。男女それぞれ、体の造りにおいて全く平等になれるものではないと思う。	女性	60代
77	男女平等というのは年代別にとっても「ギャップ」がある様に思います。それぞれの年代のニーズに合った事業の取り組みが必要の様だと考えます。例えば家事も介護も性別ではなく年齢で講座を開く等々。	女性	50代
78	参加する場合、距離が遠方ですと、不可能になってしまいます。	女性	70歳以上
79	センターの存在すら知らなかった。定期的な区報活動が重要と思う。できれば、推進活動に参画したい。	男性	50代
80	杉並区の近頃の施策に、疑問を感じる事が多い。甚だしいのは、教科書の採択であるが、それに類する不可解な事が多く、区民の声が正しく伝わっていると思えない。男女平等推進に関して、教育現場で杉並に以前から根づいている男女混合名簿を、男女別にしようとする考え方がどこかの方面から聞こえてきている。時代に逆行し、男性優位の社会をつくり出さない為に、御センターの役割は大きいと思う。		
81	最近パートで働き始め、女性が家事と仕事を両立させることの大変さを実感しました。夫は49才で、男性優位の社会を生きてきたので、育児や家事にはほとんど興味を持ちませんでした。しかし、最近、男性が子育てに参加している姿をよく見かけ時代が変わりつつあると実感しています。現在は20代、30代の方々が社会の中心の世代になるころには、だいぶ男女平等意識が定着していると思います。意識改革が時間のかかる活動だと思いますが、男女平等推進センターの活動に期待しております。	女性	40代
82	送られてきたアンケートを見て、初めてこのような男女共同参画といった推進センターがあることを知りました。このアンケートでは年齢的に私の場合は無理であります。	女性	60代
83	男女平等推進センターが「女性のみ」を対象にイベントをするのではなく、女性を対象とするが、若干男性は可するなど極端な女性への優遇も変だと思われることがあった。	男性	30代
84	活動内容を広くPRするべき。	男性	30代
85	男女平等推進センターでどのようなことが行われているのか、区報がアパートに届かないので分からない。できれば、参加したいのですが、どこで情報を集めれば良いか教えて欲しい。	女性	30代
86	存在自体知らなかったことが多かったので、自分の認識不足を実感するとともに、もっと情報を発信して欲しいと思いました。せっかく良い取組をしても、区民が知らなければ、何にもなりません。また、法律や政策制度は、分かりやすく教えて頂かなければ、活用することもできません。ですからもっと目につく場所に駅等にポスターを貼るなどしていただけたらいいと思います。男女共同参画社会は、大切な事だと思います。これからも期待しています。	女性	20代
87	男女平等ということをどう定義づけているか、今一つはっきりしない。どのような思想で活動しているか、周知した方がよい。	女性	40代
88	一般の杉並区民に男女平等推進センターの事を理解しているとは思えないので、ぜひもっと機会があるごとに広報に載せたり、町内会の集まりなどで話して欲しい。	女性	60代
89	今回、アンケート協力ということでしたが、離婚後、再婚せず、子どももいなく、両親と同居という立場の女性には答えようがない内容もありました。そういった事も、センターで考えて下されれば良いと思います。	女性	40代
90	男女平等推進センターが平等の立場であるか甚だ疑問です。しかし、意味はあると思う。平等とはコミュニケーションの中でしか存在しないわけで各々が解消するしかないと思う。	男性	20代

NO	問 2 8 自由意見「 男女平等推進センター（ゆう杉並）への意見」・続き	性別	年齢
91	内容を知らない事が多い。その為にもっとアピールした方が良いと思う。	女性	60代
92	情報社会において、興味のない方にもどのような施策を実行・予定しているかをアピールすることが足りないと思います。仕事が忙しい方にも理解していただく努力をしたいものです。	男性	20代
93	近隣の暇な人しか利用・参加出来ない企画・施策なら不平等になるので、やらないほうがまし。是非土日休日を中心にして欲しい。	男性	50代
94	男女共同参画社会実現のため、日夜ご努力をされている方々に敬意を表しますが、これは一部の方々であって、一般の女性には分かっていない人がたくさんいます。どうぞ楽しく期待を持って行きやすいセンターにしてください。せっかく出来ている立派な施設ですから、遠くても自転車で聞きにいきます。	女性	70歳以上
95	この機会に、男女平等センター等に参加してみたいと思いました。区とか国が変わらなければ良くなる。ただ、体力的に女性ばかりには...ということもあるので、法律とかもその事を考えて、色々して欲しい。差別でなく、区別して欲しいことがある。特に就業で考えさせられる。	女性	50代
96	今後も杉並等で区民に活動を知らせる方法をお願いします。住み良い杉並にするために。		
97	区報などにて宣伝して下さい。一般的に知らない人が多い。もっと身近な問題を取り上げてから、アンケートも参考にして下さい。	男性	70歳以上
98	それぞれの育った時代、地域性などにより、男女平等意識に個人差があると思います。お互いの個性を認め合い、不足を補える関係や社会の実現こそが理想です。次代を担う子ども達に期待。学校や家庭、地域環境という「教育の場」で学習し、小さな取り組みの実践の積み重ねによって、相互理解を育んでもらいたい。そうした意識を育てる場として「男女平等推進センター」の活用がなされる事を願ってやみません。	女性	50代
99	このアンケートで杉並区の取り組みを知ることが出来ました。今後はセンター活動にも興味を持っていきたいと思っています。	女性	30代
100	事業内容を理解出来ていないのでコメントできない。	男性	60代
101	もっと、活動を知らしめて欲しい。区役所の中だけで終わらして欲しくない。	女性	40代
102	杉並区に推進センターがあることを知りませんでした。これからはもっと関心を持ってみたいと思います。	女性	60代

NO	問28 自由意見「その他」	性別	年齢
103	この調査票は興味深いですが、やや答えづらい面が目立ちます。社会学or社会調査法の専門家によるWチェックはなされていますでしょうか？女性学と社会学をかじった研究者として調査結果に少し不安をおぼえたのが残念です。何点が挙げるならば、表と中の設問で「あなたご自身のお考えを」と記さないと、世間一般的なイメージなのか、自分の考えなのか迷う。何個するのが目立たない。アンダーライン(罫線)を付けるか、ボールド化(太字化)など、要工夫しないと突然回答を選ぶ数が3 2 1など変化するので、アンケート慣れしていない人には不親切。使えない回答が増えてしまう(仕方ないから)を上から必要数分カウントするなどの苦肉の策をとらざるえなくなる 回答化傾向に偏り?)。 Q26 男性に回答をさせにくい。「参加または利用したい」とするなら、「男性の場合はあると良いと思うもの」とするか、両性への配慮として「あなたが利用したい、もしくはあると良いと考える」とすべき。そうすると、私(女性)が良い事業で「もっとやって!」という希望が反映される2、が選択肢として生きてくる。 Q11「仕事をやめる」が不明確な表現。休職の意味合いが弱い、誤解を与えやすい。	女性	30代
104	女性の立場でアンケートや家事の件等我々男性の意見は真実でないので書きませんでした。申し訳ないですが、法律もしらない事が殆どです。このアンケートはもっと若い人に対して行われた方が良いと思います。職場も男性のみの為、書きませんでした。	男性	70歳以上
105	質問の設定が方向性の強いモノになっています。	男性	50代
106	商店の公道に突き出た商品の並べ放題にうんざりしています。特にアーケード街ですと、地震、火災のとき、火のトンネルとなるので公道の上に商品をゴチャゴチャおくのは危険です。道幅もせまくなりますし、乳母車、自転車も通ったりしますので、道がほとんど普通に使われていません。ださい田舎の杉並と銀座を比べてはいけなけれど、本当田舎モノの集まりで欲得づめのし放題置き放題。商店に沸く猛者をうながす為、出た分の固定資産税か罰金をとって区の財産にして。私達民家はほんの1cmも外に出てないでいるし、キッチンと固定資産税を納めるのがバカらしくなってます。私達自転車に乗っているものを目の敵にして、放置3,000円をとるのはおかしい。ともかく出た分の固定資産税を取ること。地震の危険のときどうするの。	女性	40代
107	家事に専念してもらいたいが、家賃や教育費、地税と考えると無理。生活する為に衣食住及び税金の軽減を年収600万程ありますが(税込み)このままでは区内に住めません。	男性	40代
108	男性は強く、女性は優しい方がいい。	女性	60代
109	女性は家庭生活の分だけ仕事が多いので、少しでも軽くすれば男以上の仕事が出来ると思いますが。女性はとても辛抱強いですよ。男性のように自殺はいたしません。		
110	日本は根本的なこと(共同参画社会)がまちがっていると思う。教育から変えていかないと、小手先ではダメだと思う。		
111	杉並区だけでなく、東京、全国へと広げてほしい。	女性	30代
112	人々の健康、女の人でも一人で夜歩ける、安心して暮らせる、皆で子どもを守る、病院よりも家で介護ができる等、明るく美しい街になるように心がけたいものです。		
113	そもそも男は仕事、女は家事という発想がおかしい。もうそんな時代じゃない!!だから男は"女"という目で女性を選ぶので顔重視になるし、逆に女性は男性を"男"という目で見ず"男性"という目つまり、中身で選ぶのです。ここにギャップがある!!今後、夫婦ペア採用がすすめば男も"女"を選ぶのではなく"女性"を選ぶ時代になるでしょう!!それうすれば、女性の質も上がり、社会が大きく変わってくるのでは?	男性	30代
114	P15ページのアンケートの問は少し不適切な気がします。もう少し考えて問をしてください。	女性	60代
115	私は94歳のため質問にお答え出来ぬ所が多くなりました。男女平等については生まれつき男女の別があるので、自ら違ってくると思いますが、追々にこれは少なくなると思います。私は30代後半より10年余り中学校で教えた事がありますが、この職場は差別はなかったように思いました。女性も一度は働きに出て、男性がその職場でどのように過ごすかを体験するのはよいことだと思います。男性の仕事への取り組み方が分かります。しかし結婚して子どもが出来たら自分の手で育てるべきです。子どもの成長のありかたを細かく見ることが出来、愛情のかけ方で親子のありかたが違うのではと思います。明治生まれの女性としてはそう思います。	女性	70歳以上
116	男と女、各人の自由と、行動の重要性がなければならぬ。要は男女がよく話し合い尊重し、理解が最大必要である。しっかり家庭内で、普通に話し合える事が大事である。	男性	60代
117	医療の発展によって、いち早く男性も子どもが産める身体にして欲しい。または、男も女も子どもを産まなくても、機械が子どもを産めるように研究して欲しい。男女差別がなくなっても、世の中から差別がなくなる事はない。	男性	30代
118	自分は学生で、社会における男女差別等はまだ経験した事がないので大きな事は何も言えないが、大学の授業でジェンダーについて学んだりして、興味は持っている。区でも専門家や大学教授などを呼んで、講演会などを積極的に開いたりすると、より多くの人に「男女共同参画社会」を理解してもらえないか。	男性	20代
119	男女共同参画社会は、やはり日本の伝統的な血筋が脈々と、遺伝的に有るのではないかと思われます。人各々、家各々、地域各々にこの男女の在り方が尊重され、そのベース上に(理解された上に)、共同参画型が自然に形成されると思います。日本人の知性を信じて。先日は区役所前にて何度も、ヒステリックな「教科書問題」反対とかで集会をされましたが、通行や周囲の在宅者等、大変迷惑されていたと聞いています。何かというときに声を張り上げる少数人々の権利も良いですが、多くの区民の事も考えて、新しい抗議の方法でお願いしたい。大変大変不愉快でした。	男性	60代

NO	問28 自由意見「その他」・続き	性別	年齢
120	1.特に女性が差別されているという認識はありません。 2.公共の場でのメディアの性表現が露骨であり、日本のモラルの低さを恥ずかしく思っている。金儲けの為なら何でもあり?と問いたい。	男性	30代
121	私は古い人間かもしれないが、基本的に女性は結婚-子どもを育てるものと思っている。今、子どもの能力、体力、常識などひどすぎる。母親が外に出て、子どもを人任せに育てる、子どもがせめて中学、高校生までは、子どもが帰宅した時には、母親は家に居てやれる状態であってほしい。能力のある女性はどんどん外に出て男の人以上に働ける人も多い時代となっている。しかし、子どもはどうでしょう、少子化、結婚しない、が増えています。現実、私の娘も35才になりますが、働いています。結婚する気がありません。娘より高い収入のある男性は50才くらいでないと無理な状態。相手がいないし出会う場も少ないのです。今の社会状態で女性が世に出ることは、結婚しない、子どもを生まないことになるのではないのでしょうか。女の人は家庭でしっかり子育てをしてほしい。	女性	60代
122	本音と現実に立脚すること。	男性	60代
123	男女は平等、これは当たり前。従って女性は専門的に子どもを育て、家事を行うというものというモノの考え方には不同意。しかしながら、平等を掲げすぎるあまり、男女の差という現実とかけ離れた方向に日本の社会が進む事は大反対。男にしか出来ない事、男の良い事、女にしか出来ない事、女の良い事これがうまくマッチングして素晴らしい社会が形成されると確信する。世の中、男と女この2種類しかいないのだから、しかもかなりの違いが有る性差、これが互いに補完的に作用すると素晴らしいと思う。	男性	50代
124	女性の自立もよいけど、本来は家庭を守るのは女性の仕事と思う。女性が家の事をしなくなれば、もっと少子化が進む。その方が問題では?男に子どもは産めない、性別による役割分擔当たり前だが、本来違うもの、平等感で議論するより人間としての人倫のみち、道徳、教育が必要。国民の多くが男が家で子育てをやって、女が外で働く国に発展はないよ。男も女も社会でも違いを認めたと上で、機会の平等、努力に応じた成果を評価できる社会を。女性は都合のいい時だけ男女平等と言い過ぎる被害妄想も多い。	男性	40代
125	昨今思っていることですが、決して男性の腹から子どもは産まれないのですから、何でも男性と同じというわけには行きません。女性の方が子どもを産み育てることが(勿論、天の手を借りるから)素晴らしい愉しみを保母さん保育士の方に任せてしまうのはもったいないです。世の中お金ではありません。男女同権であっても同質でないことを女性自身気がつくべきです。看護師さんも、女の人は看護婦さん、男の人は看護士さんでいいのでは、どうしてもその辺の事が理解出来ません。闘病中で字が乱雑でお許し下さい。男、女、どちらも妊娠することが出来ればレイブなどないのではと思います。男女同一にはなりませんよ。	女性	60代
126	若いころ、米国に4年余り滞在しました。女性の立場の上下はその国の文化的水準を反映するもののように思いました(よかった)。		
127	一般の大人には必要を感じない諸問題。	男性	70歳以上
128	男女平等、平等ということが、男女共に不平等である。	女性	50代
129	せっかくのアンケートなので役立てていただきたい。	女性	20代
130	男性、女性はやはり違うものであり、男と女を考えるのであれば、個人個人の意見や生き方を尊重する事が大事。男女で考えるのはあまりにも無意味なことであると思う。	男性	20代
131	学校では教師、家庭では家族にその意識を深めること。	男性	70歳以上
132	女性の就活意識を変えたらどうでしょうか。男性のようにこの先30年勤めるという意識で企業選びや就職活動を行っている女性はいませんでした。	男性	20代
133	男女共同参画社会については、賛同できますが、「男女平等」については賛成できない。「人権平等」という内容なら良い。	男性	30代
134	施策を何も知らず申し訳ございません。これを機会に少し勉強します。	女性	30代
135	生活水準が低い方は生活にだけの方向性になり、全ての参加が難しい。時間が無いため毎日に追われる。女性が男性と同じ様にならない限りは向上はありえない。企業中心の社会制に納得できないことが多々ある。		
136	まだまだ中の内容が知らないのではなとも言えない。10人いれば10人意見があると思うので。	男性	40代
137	男性と女性は、権利と義務は平等で有り、機会も平等で無ければ、ならないと思いますが、男性と女性は、イコールでは無いこともよく考える必要があるように思います。男性にしても女性にしても1人の人間として何事にも本人の努力次第で、社会的にも、家庭内でも平等であるべきです。基本的に従来から男性中心の社会であり、今もまだまだ男性社会だと思います。一方で、有能な女性が幅広く社会に進出してきているのも事実です。ごく一部のエリートだけでなく社会全体として、男性の在り方、女性の在り方が、より不公平感のない社会が育っていくことを望みます。1人1人の考え方、地域社会、国と、全体的に日頃から人間の在り方をよく考えていくことが必要だと思います。普通の生活から男女間の不公平感が無くなる努力が必要だと思います。	男性	50代
138	今後、理解を深めていくよう努力したいと思います。	男性	60代

NO	問28 自由意見「その他」・続き	性別	年齢
139	男女平等については、世の中があまりにも騒ぎすぎているように感じます。ただ、最近は共働きをしていかなければ生活していけず、結局は結婚や出産をためらう同年代の友人がとて多く感じるのはかなり重要な社会問題だと思います。ただ、これも何をどうするべきなのか一概には言えませんが。何よりも杉並区にお願いしたいのは、住民税が高過ぎでないでしょうか？。	女性	30代
140	小中学校の公立の教育に携わる人を、もう少しきちんとした情操教育ができる人、基本的な思いやりや痛みの分かる人を、育てる意欲のある人が増えて欲しいです。性差別や、弱者への配慮のなさは、子どもの頃からの親や教師の在り方が大きく関わってきていると思います。	女性	40代
141	大変申し訳ないが、男女共同参画社会の意味がわかりません。杉並区に六十年以上住んでいますが、この言葉を聞いたのは今回が初めてです。私見ですが、現在の社会は何処でも男女共同参画社会ではないのですか。機会があればゆっくりご説明を聞きたいです。	男性	70歳以上
142	男女共同といっても、根本的には家庭における男女の地位の在り方が問題であります。男性の意識を変えるには、企業からの働きかけ、支援が必要で、ひいては法的な支持のもとに、男女両方が身体的精神的にゆとりを持てる社会であって欲しいと願います。ロンドンの公園で、ウィークデイにもかかわらず、幼児をつれた男性達がゆっくりと散歩していた姿を見て、おそらく男女平等にも家庭にも責任を持つ生活をしているのだと思いました。	女性	50代
143	男性に対する言葉の暴力といった視点が足りないと思う。	男性	30代
144	制度や機会の平等という点は、大いに推進するべきであるが、一方で人間の内に潜む本質的な価値観を見ないで、政策決定するのは愚かである。この調査設計から推測すると、そこまで踏み込んだ議論がなされているとは到底思えない。男女平等を声高に叫ぶ時代は過ぎ去っている。体の良い表現、男女共同参画社会の理念を超えた、ある種のイデオロギーを導くために設計された調査と指摘されてもしかたないだろう。それが意識的になされたものかどうかは判別できないが、例えば問1のようなその後の解答に影響を及ぼすような質問を、冒頭におくのは社会調査法の常識から著しく逸脱している。その後の選択肢の選定もゆがみが著しいと思う。		
145	幸い、不平等だと感じることはあまりありません。将来、人口が少なくなっていくのだから、協力し合わずにはやっていけないと思います。何でも平等ではなく、お互い出来ることは何か、無理なく協力し合うにはどうしたいかということ、考えていかなければならないと思う。	女性	30代
146	アンケートを出す場合、高齢者70歳以上はあまり近代社会の質問に答える、意見を出すのが難しいと思います。若い人たちが成人した人たちから60歳前後の人たちにアンケートを出した方が良いと思います。	男性	70歳以上
147	特にありませんが、強いて言えば少しでも早く理想に近づく事が出来ればと願っています。	男性	70歳以上
148	男だ女だという前に、人間としての人格の向上をしなければ(スムーズに助け合える優しさと忍耐力)、社会の安定は得られるものではない。育児も介護も心あって始まるのですから。支え合う心が、真の愛である事を基本にして進めて下さい。人を動かすのは法律ではない事を忘れずに。相手の立場になって手をさし伸ばす習慣を失った日本人の一人として、大変残念です。		
149	世代を超え理解を深めるのは良いと思います。私は割と古い考えの持ち主なので、平等を考えた事がなかったのですが(女性の方が特だと思っています)、男女平等であるという意識が、当たり前にあるようになれば良いと思います。	女性	20代
150	保育施設と高齢者施設、学童保育などの施設を同じ建物の中にするなどし、異年齢での他人との交流も大切だと思います。それにより、子ども達が将来自然と、家事や育児や介護が、男女関係なく担って行くものなのだという意識を持つ一端になるのでは、と考えています。	女性	30代
151	今回思いがけずアンケートに答えることになり、一部該当しない部分もありました。教育が今年3月で終了いたしましたので、振り返り意見を記入致しました。色々な体験は年齢に関係なく起こっています。年を重ねた方でも苦労されずすんなり通り過ぎてきたとか、年代別に少し内容を変える事も必要と感じました。これからは頑張ってください・・・。	女性	50代
152	戦前は杉並区に住んでいるだけで一目置かれていました。東京の中で知識階級の住んでいると定評がありました。戦後はそれが全くなりなりました。今は杉並に住んでいるのが恥ずかしい気持ちです。歴史教科書の採用で東京唯一の区となり、肩身の狭い思いです。	女性	70歳以上
153	このアンケートの内容から、今後の行動計画の改定や、満足な施策推進のための基礎資料となるとは思えない。これに税金を使っているのですか？	女性	40代
154	配偶者の暴力は、子どももまた暴力をふるうようになって行くという事実も、アンケートに盛り込んで欲しかった。暴力をふるう側の認識が甘い(自分に)場合も多いと思う。	女性	60代
155	まずは行政に関わる男の方から、地域活動に参加してみてもどうでしょうか。女性ばかりの中に男の人が入りにくいところもあると思うので。男女平等は無理だと思います。持って生まれたものが違うのだから、お互いを理解し合い、助け合い思いやる。女性の立場としては、家事育児の平等を。まずはこの計画に参加している男性既婚者の方、奥さんの家事育児、1日しっかり見て下さい。これをお礼も言われる事なく頑張っている奥さんを思いやって。	女性	30代
156	男女の「平等」ということと、「適性」ということは別問題だと考えます。差別を受ける事なく男女がそれぞれに「適性」を活かせる環境が必要ですね。	男性	40代
157	「女性に対する暴力をなくすための取り組み」をしたところで、暴力というのは個人的なことなので、なくすことが出来るのだろうか？と思います。	女性	30代

NO	問28 自由意見「その他」・続き	性別	年齢
158	正社員時代、上司がものすごい男尊女卑でしたが、個人の資質、県民性、年齢などの問題だと思っていました。だから、人に相談して環境が直るとは思えなかった。外資で働いているのに、帰国子女は良いけど自分から外国留学に行く女性は変わっている、などと平気で言っていました。相談してもよい問題だったんですね。解決方法はあるのでしょうか？	女性	50代
159	男性は男性らしく、女性は女性らしく、本来持っている能力をなくさないように。	男性	50代
160	男女平等ということの意味が、労働条件や雇用条件を同一にすればよいということだけだとは思えません。性格や体格、その他いろいろと違うのですから、男女というより、個の特性を活かせる意味での平等も必要だと思います。	女性	50代
161	答えになりますか？電車に乗るのに、集会所に行くのに真夏で大変だと思うのですが、暑くても男の方の半ズボンはやめてほしい。体格も電車の席の2、3人分は占めるような太り方はしないでほしいし、そのような方は食欲が強いから太られるのですから、思いやりの欲の方も強くなって欲しい。そうした教育もしてほしい。	女性	60代
162	アンケートの設問をもう少し吟味して下さい。解答しようのない設問が多すぎます。アンケートの有効性に疑問を持ちます。費用も馬鹿にならないのではないのでしょうか？	男性	60代
163	全般的に、人には得意、不得意分野があります。又、男女を問わず、体力の格差もあります。男女平等というより、人間同等という考え方が良いと思います。	女性	50代
164	アンケートに死別の場合が考慮されていない。答えに困った。	女性	50代
165	特に男女平等に関して、行動を起こしたことは有りませんが、性別の差別は実感しています。差別が目立つのは社会の状況も大きく関わっていると思います。そして、一人一人の意識の持ち方と思います。自身も努力が必要だと思います。	女性	30代
166	今はもう男女平等が進んできているので、役所が力を入れて取り組むことかと思う。教育の時点で男女平等だと思う。小学校のかけっこまで男女平等で良いのかな？と思うくらいです。	男性	50代
167	私の年齢では、この問題定義が不可解です。平等というあまり、男性がおとなしくなり、女性化していくのが心配です。人間だからこそ、それぞれが役割分担していけば良いと思う。このアンケートは本当に困りました。	女性	70歳以上
168	内容を知らないの、意見を言える立場ではないのですが、アンケートに「男だから」「女だから」と型にはめるような制度は賛成できない。個人・夫婦・家族の問題なので、話し合えば済むことだと思います。個人の問題を、社会のせいにするのは単なる逃げです。社会は、私達が困ったときに「協力」してくれれば、助かると思います。セクハラの項目で、こんな事でセクハラになるのかと驚きました。こんな事で騒ぐので、女性が社会に進出出来ないのだと思います。	女性	30代
169	働き盛りの男性が、施策に参画するのは難しいと思います。老年男性だけが参加するのは、望ましくないとします。	男性	40代
170	パチンコ・パチスロ産業と地域の繋がりとの隔離を希望。	男性	20代
171	女性に一言。自分の都合の良い時だけ女性を主張しないで欲しい。	男性	50代
172	アンケートの質問と回答が難しい。私のように年齢が高いと、答えがない場合が多くて困った。男性・女性の体の構造が違うのだから、何もかも男女平等にとはいかないと思う。でも能力がある女性は仕事ができるようにすることは大事なことだと思う。	女性	70歳以上
173	企業の管理職時の経験から見ると「男女共同参画」は大変難しいと思う。企業側から見れば家庭や育児を大切(優先)に考えるばかりの社員に重要な仕事は与えられない(男女共に)。能力のある女性を抜擢したいが出産、育児を想定すると、決断できない(企業側の意識改革がなければできない) 一時的に家庭でも仕事ができるような対策を取る。 フレックスタイム制を導入し、夫婦の家事、育児分担をやりやすくする。杉並区内の事業所への働きかけをお願いします。私はキャリアカウンセラーの資格を持っていますので女性をもっと意識改革をして社会への参加が出来るように、カウンセリングのボランティアなどを考えています。	女性	60代